

松山アーバン
デザインセンター
年間報告書

2022

Urban Design Center
Matsuyama
Annual Report



目次

はじめに	4
プロジェクトマップ 2022	6
【Project】	
Chapter 01: スマートシティ	9
Chapter 02: 公共空間の利活用	21
Chapter 03: まちづくり拠点の運営	75
Chapter 04: 研究会、研究活動	95
Chapter 05: 連携プロジェクト	105
おわりに	118
【資料】	
活動履歴	120
委員・講演・視察対応	122
運営体制	123

はじめに

松山まちづくり素描

松山アーバンデザインセンター センター長
羽藤 英二

アーバンデザインセンター松山での一日の活動は、朝の事務所の鍵を開けて掃除をるところから始まる。一日事務所に居るとおばあちゃんたちや、高校生の友人同士、親子連れなどいろんな人が訪れるまちの居場所になっていることが実感できる。他の市町からの見学者も実に多い。

2022年には34件の見学視察の申し込みがあった。UDCMが支援してきた松山市のまちづくりが全国から成功例として注目されていることがうかがえる。霞ヶ関の国土交通省にもwalkableのまちづくりの成功例として松山市がポスターで紹介されていることも影響しているかもしれない笑。

アーバンデザインセンター松山ではここ数年道後地区の空間改変と花園町通りの道路空間再編事業のデザインマネジメントを中心に取り組んできた。街路や広場といった基盤整備において地味だけれど質の高い整備は、松山市の近世城址を基盤とする路面電車を生かした中心市街地の回遊性を高めていくための体質改善を目指している。モータリゼーションに過剰に対応し都市施設を郊外に移転させたことで中心市街地の活力が失われてしまったから、このままではいけないという機運の中で議論を進めている。

成果もではじめている。花園町通りでは通りをリノベーションしたことで歩行回遊量が増加し、着実に建築側の建て替えやリノベーションが相次いだことで地価が上がり始めている。こうした効果は先んじて行われたロープウェー街の整備や、道後のまちづくりでも見られる現象だ。回遊の変化はまちの不動産の価値を大きく変えていく。私たちは現在こうした動きをさらに進めていくために内閣府と都市再生特区の議論に着手している。水平方向の都市計画と垂直方向の都市計画をうまく組み合わせながら、地域経済を活性化し、松山市の文化歴史を継承する新たなまちづくりの理論化とその実践が求められているのではないだろうか。

一方で地域の公共交通をめぐる経営環境悪化が県内でも議論されるようになってきている。路面電車や郊外電車の運転士さんの離職や高齢化により、坊ちゃん列車の運行取り止めや郊外電車のダイヤの削減は記憶に新しい。運転士の方々の給与確保はもちろんだが、そのために闇雲に運賃を

値上げしては公共交通離れを引き起こしかねない。公共交通機関の結節点となる花園町通りや道後温泉などの活性化はもちろんだが、郊外のまちに向けた新たな公共交通の需要を創出していく必要はないだろうか。私たちは郊外の地域資源の掘り起こしに着手することとした。

アーバンデザインセンター松山では郊外の新たなまちづくりの理論化を図るために、基礎研究を進め、四戸・中出・羽藤(2021)による郊外の地域形成過程に関する研究で2021年の都市計画学会優秀論文賞を受賞している。この研究では、近代化の過程で耕地整理などによって郊外の都市基盤が与えられたことと郊外電車などの交通網の改善によって旧村が大きくその姿を変えてきたことを明らかにする一方で、農地の中にある郊外旧村の風景の美しさを地域資源として再定義した。

花木権家ある限り機の音

正岡子規が垣生のまちを歩いた時に残した句である。今出の霽月を訪ねた「散策集」にこの句は出ている。二句読んでおり、二句とも木槿が出ているから、夏の垣生のまちを歩いたのだろう。今は機の音が聞こえないけれども、郊外電車からバスに乗り換えこの句を思い起こしながらぶらぶらと歩くと垣生村の風景がよみがえってくるようだ。地域デザインミュージアムをつくと題した郊外のまちづくり活動を、大学生やエンジニア、金融機関や行政担当者、地元の人たちが一緒になって取り組み始めている。ふるさとの地域資源の掘り起こしは、興味深く、熱心なスクール生は過剰な真剣さで図書館に通い、現場に足を運び、松山の地域資源の再価値化に挑戦している。

アーバンデザインセンター松山の活動はディレクターの皆さんや職員の方々、アルバイトの大学生の方々をはじめとする多くの方々による熱心な活動と支援がなければ成り立たない。今後も松山のために暖かいご支援をお願いしたい。

プロジェクトマップ 2022



スマートシティ

p.9~20

モビリティサービス（バス型、タクシー型）の提供による歩いて暮らせるまちづくり実現のため、車両運行実験及びプローブパーソン調査を実施するとともに、行動データを用いたシミュレーションによる評価を合わせて行った。



次世代モビリティの走行 Sim

Memory Museum ~未来へ紡ぐ三津浜の記憶~

p.30

形成的な「歴史」だけではなく「記憶」をアーカイブするような展示を行い、地域の方々が昔の記憶をたどり、話し合うことができる場を創った。



歴史・記憶展示の様子



落ち葉プールの様子

松山駅前仮設芝生広場

p.54~57

駅前再開発事業が進められているなか、現在の駅前にない芝生広場を実験的に設け、アクティビティ誘発のための仕掛けづくりに取り組んだ。



花手水の様子

未来の中ノ川水辺の癒し体験

p.32

江戸時代には水上輸送に用いられていた「中ノ川」を対象に親子で花や風船などを使った水辺の癒し空間として演出した。



実際の展示の様子

松山城

城山公園

JR 松山駅

地域デザイン班

UDCM もぶるラウンジ

銀天街

モビリティ班

松山市駅

いっぺん袋でぶらり坂散歩

p.58~62

2021年度スクール受講生「道後グループ」が提案し、有志メンバーで表現した企画。光る巾着袋を手にした参加者が上人坂を闊歩する風景を生み出した。



いっぺん袋での散歩の様子

道後温泉



夕焼けベンチの様子

上人坂 宝蔵寺

イトコ道後、夕焼けベンチ + 裏道後ツアー

p.110~111

スクール卒業生が立ち上げたNPO団体イトコ道後による企画。宝蔵寺境内に設置するオリジナルベンチに座り、坊っちゃん団子の食べ比べをしながら夕焼け観賞を楽しむプログラム。

研究会、研究活動

p.95~103

アーバンデザイン研究会として、アーバンデザイン・スマートシティスクール松山の講義を兼ねるかたちで講師の方をお招きし、計4回オンラインにて開催した。



アーバンデザイン研究会の様子

もぶる라운ジの運営

p.76~82

市民等が気軽に入り、交流できる開かれた空間づくりを目的として取り組んだ「もぶる라운ジ」での活動。

坂の上の雲ミュージアム

まつやま銘店大解剖

p.31

店主へのインタビューと推薦者のエピソードを紐解くことで、銘店を大解剖し、その魅力を映像や展示で伝えた。



映像展示の様子

UDNM まちづくり塾

p.108~109

松山市に住む小学校高学年から中学生の児童を対象に、(UDNM)主催の「まちづくり塾 2022 松山のまちを歩いて模型をつくらう！」が開催された。



完成した模型

なぞときウォークラリー今昔

p.65

2021年度スクール受講生「まちなかおさんぽ♣」によるアプリ上の企画。スマホ片手に謎解きをしながら、散歩するデジタルウォークラリー。

きらりん

Chapter

01

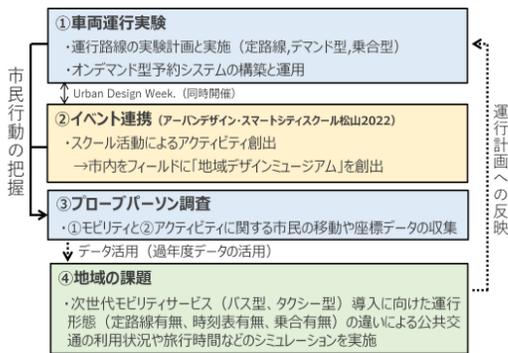
スマートシティ

既成市街地の更新や次世代都市サービスの導入をモデルケースとして、データ駆動型都市プランニングに基づいたまちづくりの実現を国土交通省のスマートシティモデルプロジェクトと連携して実施している。今年度は、都市内イベントと組み合わせた地域公共交通計画の検討やモビリティサービス（バス型、タクシー型）の提供による車両運行実験及びプローブパーソン調査を実施するとともに、行動データを用いたシミュレーションによる評価を合わせておこなった。さらに、短期的なスマートシティの社会実装を目的として、多様な地域公共交通サービスの最適化の実現を目指した取り組みを開始した。

- ・フィールド実証と次世代モビリティサービスの検討
- ・公共交通サービス再編などの最適化の実現

(1) フィールド実証と次世代モビリティサービスの検討

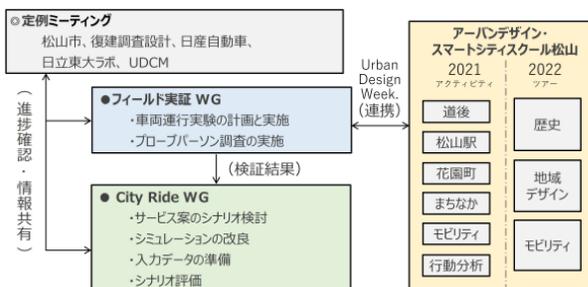
フィールド実証では、次世代モビリティサービスの導入に向けた車両運行実験を行い、その計画手法や計画案等の妥当性評価や改善点の抽出をおこなった。このフィールド実証にあたっては、中心部の各エリアで各々に展開されるイベント等（プログラム）をモビリティでつなぐことなど、アクティビティと連動したモビリティサービスについての検証を行うため、『アーバンデザインスマートシティスクール松山』のグループワークと連携し、『urban design week.』として企画した。『urban design week.』の開催に合わせて、プロンプト調査を実施して市民の行動を把握することで、アクティビティやモビリティに関する施策の効果を分析し評価をおこなった。



実証実験の実施内容

【運営体制】

実証実験にあたり、フィールド実証の計画・実施を行う「フィールド実証WG」に加えて、次世代モビリティサービスの将来像をシミュレーションしながら検討する「City Ride WG」の2つのワーキンググループを立ち上げ、それぞれのグループでの技術課題等について具体的な検討をおこなった。また、定期的に定例ミーティングを開催し、進捗確認や情報共有を図った。



実証実験の運営体制

1) 車両運行実験

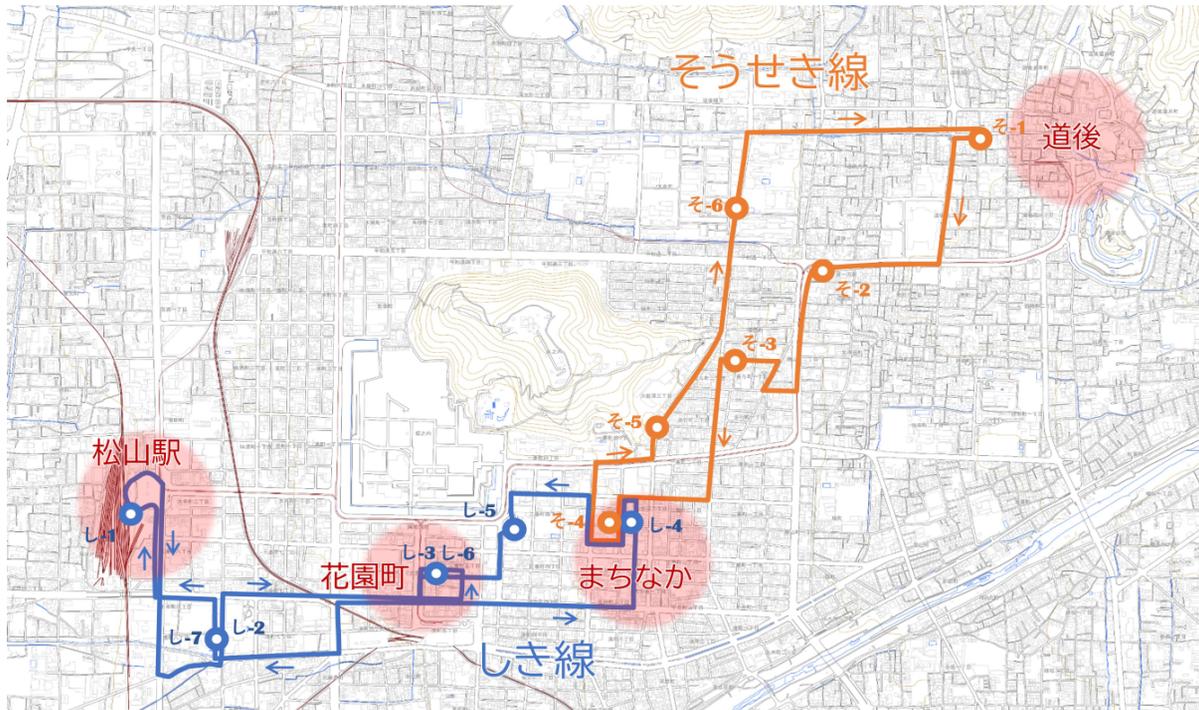
【運行計画】

運行期間は、『urban design week.』の実施後半の5日間(2022/10/19-23)とし、車両運行の有無による比較を行えるようにした。運行時間帯は、運転手と同乗者の負担を考え昼休憩の時間帯を設け、9:00～13:00、14:00～18:00とした。それに対応する形で呼び出し(予約)可能時間帯は、9:00～12:40、14:00～17:40とした。運賃は、料金収受した場合の法的な制約が大きいことから今回の実験では無料とした。乗車方法はQRコードで呼び出しを行い、停留所で待つと運行車両が到着する。降りたい停留所をスタッフに伝えて乗車することができる。運行形態は、定路線・デマンド・乗合型として、エレベータを利用するような形態のサービスとした。具体的には、

- ・運行路線や停留所はあらかじめ指定
- ・利用者からの呼び出しにより車両を配車
- ・定路線型であるため、途中の停留所も経由
- ・車両が停留所にいる場合、利用者は呼び出しを行ってなくても乗車可能
- ・満車の場合は利用できない。
- ・乗車の優先順位は停留所への先着順とした。

運行路線と停留所

路線名	停留所名
しき線	し-1: JR松山駅前
	し-2: コミセン前(東行き)
	し-3: 花園町通り(東行き)
	し-4: 愚陀仏庵跡
	し-5: 市役所前
	し-6: 花園町通り(西行き)
	し-7: コミセン前(西行き)
そうせき線	そ-1: セキ美術館駐車場
	そ-2: 上一万交差点
	そ-3: 松山城駐車場
	そ-4: 愚陀仏庵跡
	そ-5: ロープウェー街
	そ-6: 愛媛大学



運行路線とルート図

実験で用いる運行車両の愛称は、2021年度のアーバンデザインスマートシティスクールの受講生が発案した「MATSUMOBI」とした。運行路線は、アクティビティの会場や、今後の次世代モビリティサービスで想定される経路を選定し、「しき線」「そうせき線」の2つのループ型の路線とした。停留所は、「しき線」が5駅(方向別になると7駅)、「そうせき線」が6駅で、愚陀仏庵跡で路線間の乗換ができるようにした。車両配置は、ジャンボタクシー(乗客数:最大7名)を各路線1台の計2台を基本とし、満車になる可能性を考慮して、予備車両1台準備して実験をおこなった。

【モビリティ呼び出しシステム】

モビリティの呼び出しを行う Web アプリと利用者に予約完了を Web や SMS で通知する管理ツールからなるモビリティ呼び出しシステムを構築した。

呼び出しを行う Web アプリへのアクセスは、① urban design week. の特設サイト、② urban design week. のパンフレット、③現地の看板・サインに設置した QR コードからできるようにした。

サービス名 MATSUMOBI

運行期間 2022年10月19日(水)~23日(日)

運行時間 9:00~13:00, 14:00~18:00

受付時間 9:00~12:40, 14:00~17:40

運行形態 路線型、デマンド型(非定時型)、乗合型です。まちなかを水平に動くエレベーターのイメージです。

運行路線 「しき線」「そうせき線」の2つの路線(ループ)を走ります。

停留所 各路線には停留所があります。停留所以外では乗降はできません。

乗車方法 乗車したいときはWEBサイトで「MATSUMOBI」を呼び出します。サイトへのリンクは現地の停留所やパンフレットに付いているQRコードから可能です。WEBページでは、「乗車する停留所」を選択し、呼び出しボタンを押してください。

注意事項 呼び出した停留所で待つと「MATSUMOBI」がきます。降りたい停留所をスタッフに伝え、スタッフの指示に従って乗車してください。

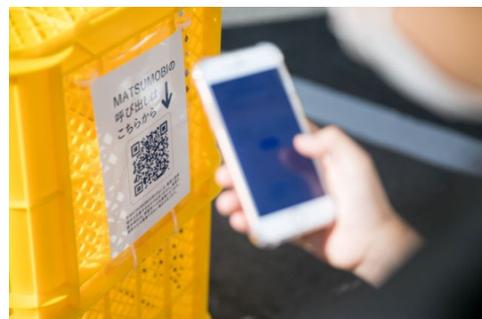
注意事項

- ・呼び出しは、車両への乗車と座席確保を約束するものではありません。
- ・乗車の優先順位は、停留所への先着順となります。
- ・混雑のため乗車できない場合があります。

呼び出しはこちらからできます(現地のQRコードから読み取るリンクと同じものです。)

しき線
そうせき線

urban design week. の特設サイトからのリンク



停留所設置のQRコード

利用方法は、①乗車したい停留所に行く、②パンフレットまたは看板のQRコードからwebアプリにアクセス、③乗車停留所を選択し、呼び出しボタンを押す、④MATSUMOBIの到着を停留所で待つことで可能となるようにした。



urban design week. パンフレットのQRコード



呼び出し web アプリの乗車停留所選択画面

MATSUMOBI管理ツール						
予約番号	呼び出し時刻	ニックネーム	TEL	乗車停留所	状態	乗車済
100416403-254	2022-10-04 16:42:03 +0900			し-4: 愚陀仏庵跡 (JR松山駅方面)	利用済	乗車済
100416416-083	2022-10-04 16:41:46 +0900			し-4: 愚陀仏庵跡 (JR松山駅方面)	利用済	乗車済
0110140315-939	2022-01-10 14:03:15 +0900			し-1: JR松山駅前	利用済	乗車済
0138095242-947	2022-01-08 09:52:42 +0900			し-2: コミセンこども館前(東行き)	利用済	乗車済
0106102119-411	2022-01-06 10:21:19 +0900			し-2: コミセンこども館前(東行き)	利用済	乗車済

MATSUMOBI 呼び出し (予約) 状況

MATSUMOBI管理ツール						
予約番号	呼び出し時刻	ニックネーム	TEL	乗車停留所	状態	先に着す
0322091140-744	2022-03-22 09:11:40 +0900	UDCM デスト		し-1: JR松山駅前	相席	済
0110154932-367	2022-01-10 15:49:32 +0900			し-4: 愚陀仏庵跡 (JR松山駅方面)	乗車済	済
0110140324-462	2022-01-10 14:03:24 +0900			し-1: JR松山駅前	相席	済
0110135683-592	2022-01-10 13:56:83 +0900			し-1: JR松山駅前	乗車済	済
0108094858-913	2022-01-08 09:48:58 +0900			し-3: 花園町通り(東行き)	乗車済	済
0106211244-980	2022-01-06 21:12:44 +0900			し-1: JR松山駅前	乗車済	済

MATSUMOBI 乗車済状況

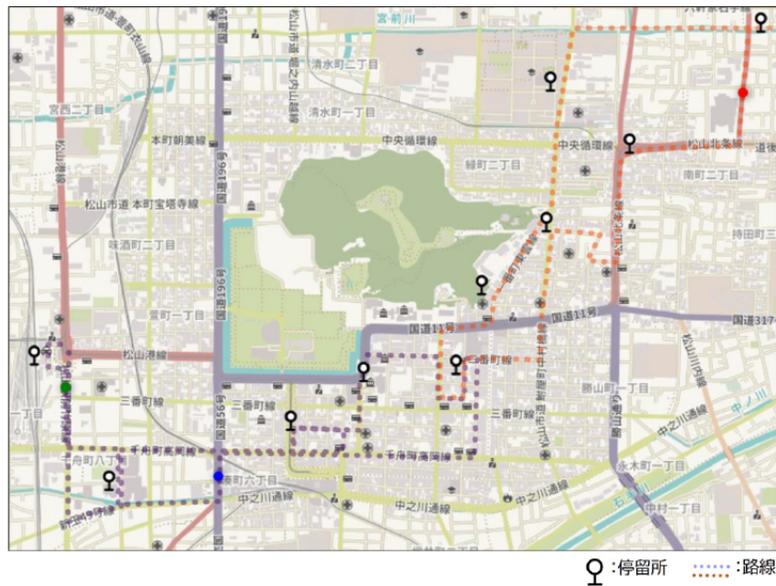
運転手および管理者への予約情報の確認方法は、同乗スタッフが管理ツールから、呼び出し状況を把握し、運転手に伝え配車を行う。予約状況については、現在の呼び出し状況を確認することができる。一番上が最新の呼び出し状況なので、一番下から対応することになる。利用者を乗せたら、乗車済みに変更する。利用状況については、既に利用済みもしくはキャンセル済みの呼び出し(予約)情報を確認することができ、操作を誤った場合には、戻すことができる。

【位置情報の可視化】

運行状況の可視化をおこなうため、ホームページ(urban design week.の特設サイト)で位置情報提供をおこなった。モビリティの位置情報は、(同乗するスタッフが持つスマートフォンの)GPS機能を用いて把握し、同ホームページ上にリアルタイムで可視化した。また、位置情報の可視化は、配信用とは別に管理用にもページを作成した。管理用の画面では、一度に全路線と車両が把握できるようにしたことで、予約状況と車両の配車状況について問題がないか確認しやすくなった。



イメージ利用者への情報提供(しき線)



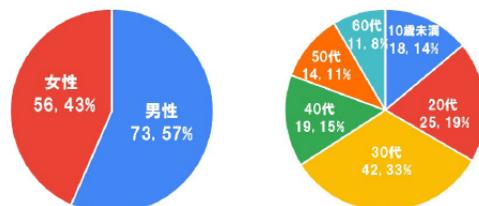
位置情報管理者画面

【運行利用実績】

フィールド実証として走行した運行車両「MATSUMOBI」の利用者を対象に MATSUMOBI 利用者アンケート調査を実施した。調査は、車両に同乗したスタッフがヒアリング方式で利用者に回答してもらい、アンケート用紙に記入する方法で実施した。回答者は、グループの代表者1名を対象とし、すべての方に回答してもらうことができ、その数は75人であった。代表者および重複を含むのべ利用者数は、129人で、利用回数が2回以上の重複した利用を除いたユニークな利用者数は65人であった。平均的な利用者数は、1日あたりで25.8人、1時間あたりでは、3.2人であった。つぎに、属性別の利用者数の特徴について示す。性別では、男性の割合が多く、年代では30代が多かった。一般的には、公共交通の利用者層は高齢者が多いが、今回の実験では、若い利用者が多い結果となった。

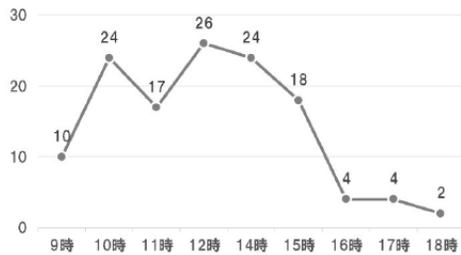
利用者アンケートの概要

名称	MATSUMOBI 利用者アンケート調査
調査期間	2022年10月19日～23日の 5日間 9:00-13:00、14:00-18:00 の8時間
調査方法	車両に同乗のスタッフがヒアリングでアンケート用紙に記入
回答者数	75人(グループ代表者を対象)
回答率	100%
のべ利用者数	129人
1日あたり利用者数	25.8人/日
1時間あたり利用者数	3.2人/時間



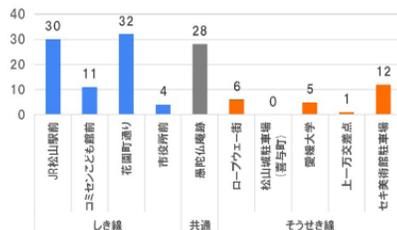
性別年代別利用者数

時間帯別利用者数について示す。時間帯別の利用者数では、日中の時間帯が多く12時が最多で、16時以降の利用者数は極端に少ない結果となった。これは、実施が秋季であり、日の入り時刻が早いことが考えられる。今回の実験では、日中に1時間の昼休憩を設けたが、松山中心部では、日中の時間帯を中心に走らせることが望ましいと考えられる。一方、朝夕のピーク時は、中心部と郊外部の移動をサポートするような路線が望ましいと考えられる。



時間帯別利用者数

乗車停留所別利用者数と降車停留所別利用者数について示す。乗車停留所別の利用者数では、JR松山駅前、花園町通り、愚陀仏庵、セキ美術館前の利用者が多かった。傾向としては、各路線の両端をつなぐ利用が多い傾向がみられた。降車停留所別の利用者数についても、同様の傾向がみられた。これは、今回実施した2路線では、既存交通との重複を避けるため、短距離ループ型の路線にしたためと考えられる。

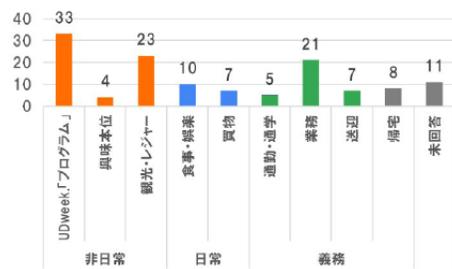


乗車停留所別利用者数



降車停留所別利用者数

目的別利用者数について示す。目的別の利用者数では、「urban design week.」のプログラム、観光・レジャーなどの非日常的な目的、業務などの義務的な目的を持つ利用者が多かった。これは通常の目的では多くなる帰宅時の利用は少なく、松山中心部での回遊行動時の利用が多かったと考えられる。



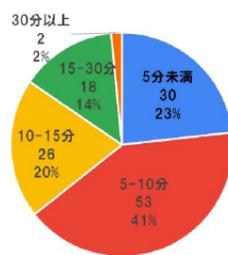
目的別利用者数

呼び出し（予約）方法について示す。呼び出しの方法としては、QRコードを用いた予約による呼び出しがほとんどであった。これは、停留所を設置していたことから、停留所で待つ人もある一定程度発生すると考えていたが、その数は想定よりもかなり少ない数であった。呼び出し方法がわからない人には、利用できないことがわかった。



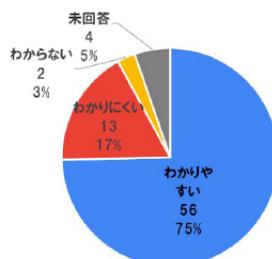
呼び出し（予約）方法

乗車待ち時間について示す。乗車までの待ち時間は、10分以下であった人が半数以上を占めた。これは、デマンド型の予約システムを採用したこと、位置情報の提供により、利用の可能性を考慮したうえで、利用者が予約した結果、待ち時間が比較的短くなったと考えられる。ただし、この結果は、あくまで乗車した利用者へのアンケートであるため、待ち時間が長くなると考えた利用者が諦めて別の方法で移動した可能性がある。



乗車待ち時間

運行方法のわかりやすさについて示す。運行方法のわかりやすさでは、75% からわかりやすいという回答を得た。QRコードでの呼び出しという従来あまり用いられていない方法であったが、ある程度許容されたと考えられる。しかしながら、この結果は、乗車した利用者へのアンケートであるため、ちらしや停留所で情報を入手したものの、利用方法が難しく利用を諦めた参加者がいる可能性がある。



運行方法のわかりやすさ

2) イベントとの連携

アーバンデザイン・スマートシティスクール松山の活動プラン実施と松山スマートシティプロジェクトの車両運行実験が連動した都市回遊型の社会実験として、『urban design week.』を同時開催した。アーバンデザイン・スマートシティスクール松山では、スクール活動によるアクティビティの創出を目的に市内をフィールドにした「地域デザインミュージアム」として実施しているが、『urban design week.』の体制や内容、具体的な開催結果については、公共空間の利活用の章にて報告する。

3) プロブパーソン調査の実施

【調査概要】

モビリティとアクティビティに関する市民の移動や座標データを収集する方法として、松山歩いて暮らせるまちづくり行動実態調査と題して、スマートフォンを用いたプロブパーソン調査を実施した。調査概要については、プロブパーソン調査の概要の表に示す。調査期間は、『urban design week.』の実施期間の10日間と終了後1週間の計17日間（2022/10/14～10/30）とし、調査方法は、スマートフォンアプリ『PP（プロブパーソン）』を利用し、移動目的、移動手段、位置座標を取得した。

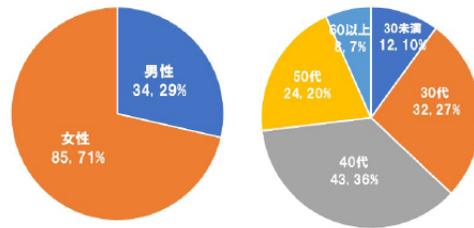
参加者数は、楽天インサイトからの応募者（221名）に特設サイトやUDCM関連のHP/SNSからの応募者（24名）を加えて、245名であった。そのうち調査の分析には、1日の平均トリップ数が1以上とした結果、119人（5,776人・トリップ）を対象として分析をおこなった。

プロブパーソン調査の概要

名称	松山歩いて暮らせるまちづくり行動実態調査（プロブパーソン調査）
調査期間	urban design week. の10日間と終了後1週間の計17日間（2022/10/14～10/30）
調査方法	スマートフォンアプリ『PP（プロブパーソン）』を利用、移動目的、移動手段、位置座標を取得
参加者数	245人
分析対象	119人（5,776人・トリップ）
1日あたりのトリップ数	2.86トリップ/日

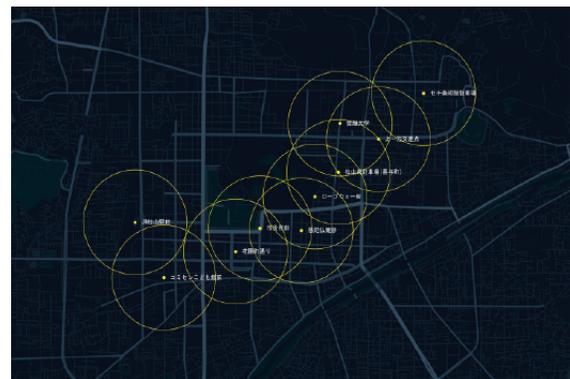
【調査分析結果】

分析対象者の属性別の特徴について示す。性別では女性の割合が多く全体の約70%、年代別では40代を中心に中年層が多くを占めた。これは、スマートフォンの操作が必要であること、楽天インサイトからの募集をおこなったことで、女性かつ、30代、40代の参加者が多くなったと考えられる。



属性別分析対象者

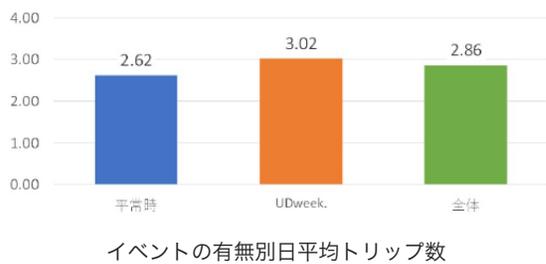
つぎに、中心市街地内での活動や中心市街地を往復するトリップについて分析を行うため、松山中心市街地エリアを以下のように定義した。今回、MATSUMOBIが走行した路線の停留所から半径250m以内を松山中心市街地とし、それ以外を郊外とした。さらに、トリップ特性として分類を行うために、出発地と目的地がそれぞれ中心市街地か郊外かの組み合わせによって、中心-中心、中心-郊外、郊外-中心、郊外-郊外の4つにトリップ特性に分類して、その割合について比較分析が行えるようにした。



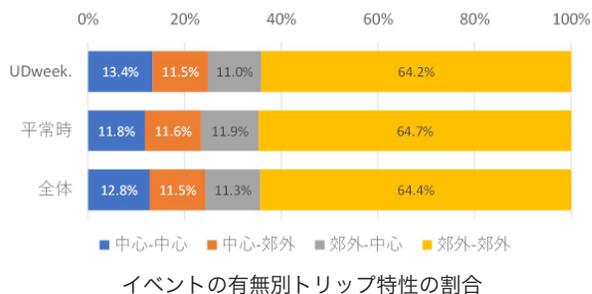
松山中心市街地の対象範囲（各停留所から半径250m円）

イベント（urban design week.）の有無による比較では、プローブパーソン調査は、urban design week. 実施期間の10日間とその終了後1週間（2022/10/14～10/30）行っていることから、urban design week. のイベント実施期間を『UDweek.』、終了後1週間の期間を『平常時』として、イベントの有無による行動の違いについて比較をおこなった。

1日当たりの平均トリップ数で比較すると、urban design week. 開催時のトリップ数の方が多い結果となった。

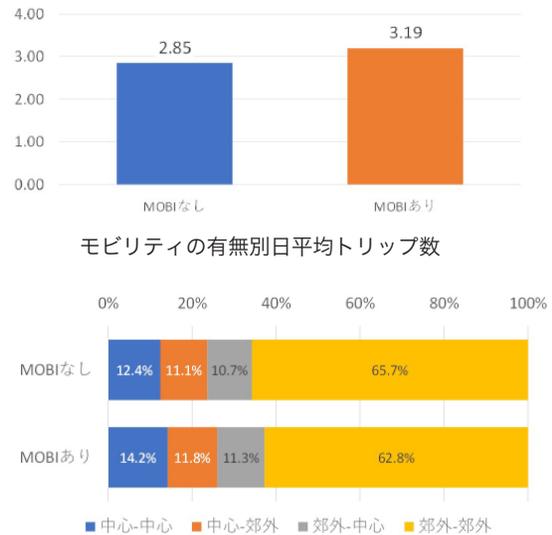


トリップ特性の割合を比較すると、中心市街地内のトリップが11.8%から13.4%と少しではあるが増えていることがわかった。urban design week. の実施により、市街地内での活動が増加したことを計測できた。



モビリティの有無による比較では、urban design week. の実施期間のうち、前半の5日間（10/14～10/18）は、モビリティ（MATSUMOBI）の運行はしていないため『MOBIなし』とし、後半の5日間（10/19～10/23）にMATSUMOBIの運行をしたため『MOBIあり』として、モビリティの有無による行動の違いについて比較をおこなった。

なお、期間中の雨天はなく、気温も比較的安定していた（日平均16～21℃）ため、特異日は設けずに比較を行っている。モビリティの有無で1日当たりの平均トリップ数を比較すると、MOBIありのトリップ数の方が多い結果となった。トリップ特性の割合を比較すると、中心市街地内でのトリップが12.4%から14.2%と少しではあるが増えていることがわかった。モビリティの運行により、市街地内での活動が増加する機会になったと考えられる。



4) 次世代モビリティサービスの検討

新しいモビリティサービスの検討をする際、サービス条件のバリエーションの中から、その地域に最も適したものを選びたいが、多様なサービスについて車両運行実験を行うことは、時間やコストの面から現実的ではない。そこで、本取り組みでは、小規模な車両運行実験等の取得データをもとにして、多様な条件を適用した場合の導入効果や問題点をシミュレーションにより把握し、シミュレーションを活用した計画手法の構築を目指している。

今回、2020年度に作成したシミュレーションモデルに精度や機能面での改良を加えたものを用いた上で、バス型とタクシー型という異なる運行方式間での比較をおこなった。

【サービス案のシナリオ検討】

運行実験の条件をベースとして、条件設定を変えたシナリオを用意し、比較評価をおこなった。政策決定において重要な指標となる需要（及びそのもととなるサービス水準）、道路交通状況や公共交通利用状況など既存交通へのインパクトを比較することを想定し、運行方式と複数のシナリオを設定した。ここで、シミュレーションに関しては、日産自動車が開発した行動（アクティビティ）シミュレーションとUDCMが開発を行っている経路選択 / 車両挙動のマイクロ交通シミュレーションがあるが、以下では、UDCMがおこなったマイクロ交通シミュレーションの改良内容とその結果についてのみ記述する。

想定する運行方式

運行方式	バス型	タクシー型
路線	有	無（走行する道路はバス型）
停留所	有	有
待機場所	無	有（JR松山駅1箇所）
予約方法	無	乗車時に依頼（オンデマンド）
迎車方法	現在地から各停留所を経由	待機場所から直行
時刻表	有	無
乗合	有	無

シナリオ設定

シナリオ	運行方式	運行時間	料金	台数
参考：実験条件	バス型	9:00-18:00	無料	各路線1台
① Bus30min	バス型	6:00-24:00	無料	各路線1台
② Taxi80veh	タクシー型	6:00-24:00	無料	80台（需要に対して少なめ）
③ Taxi200veh	タクシー型	6:00-24:00	無料	全需要に対応できる台数

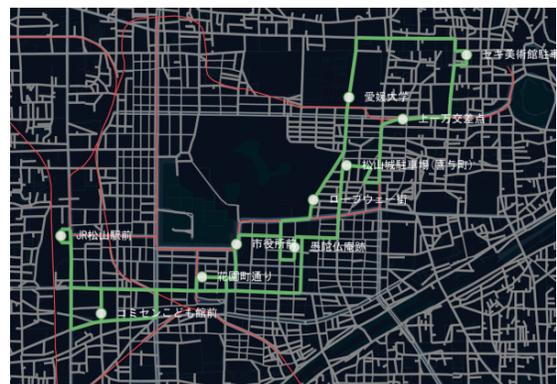
【マイクロ交通シミュレーションの改良】

東京大学羽藤研究室で開発され、2020年度の検討に用いた交通シミュレーションモデル（以下、Hongo）を活用する。Hongoは、与えられた交通需要から自動車、バス、鉄道、歩行者といったエージェントを生成し、それらのある決まりに従って移動させていくことで、道路の混雑状況や交通量などを確認することができる。サービス案のシナリオ検討にあたり、以下の改良をおこなった。2020年度のモデルでは、タクシー型の車両について、待ち時間が発生する状況でのシミュレーションができなかった。（今回シナリオの③は可能であったが、②について計算できなかった。）そこで、車両が待機場所にいない場合は、個人が車両を予約待ちできるように改良を加えている。

【入力データの準備】

シミュレーションモデルの作成及び実行に必要な入力データは、基本的には過年度に整備したデータを使用した（ネットワークデータ（公共交通データ、道路交通データ）、移動データ（プローブパーソン（JR松山駅周辺行動実態調査、松山市駅周辺生活行動調査（ともに令和元年度））、政府統計データ（国勢調査、経済センサス）、都市インフラデータ（都市機能施設調査））。ただし、今年度のシナリオに合わせて、以下のデータを新たに整備した。

- ・JR松山駅、花園町通り周辺の実態に合わせた道路交通関連データの更新
- ・運行実験時の車両走行リンク / 走行経路 / 乗降地
運行実験に合わせた車両走行経路と乗降地について、以下の図に示す。



シミュレーション時の運行路線と乗降場所

【マイクロ交通シミュレーションの実行】

行動（アクティビティ）シミュレーションによる移動需要の生成結果を入力データに加えて、シミュレーションを実行した。その計算結果について、交通手段別の人や車両の移動状況（シナリオ③）、時間帯別リンク速度による道路混雑の状況（シナリオ②）を以下に示す。交通手段として、徒歩、自転車、自動車、鉄道を考慮したシミュレーションが可能であることが確認できた。さらに、時間帯別リンク速度を可視化することにより、ミクロな交通状況の経過について把握可能であることも確認できた。



交通手段別の人や車両の移動状況（シナリオ③）



抽出した次世代モビリティの走行状況（シナリオ②）



リンク速度による道路混雑の状況（シナリオ②）

【交通シミュレーションによるシナリオ評価】

6:00-9:00の時間帯に出発したものを対象として、交通シミュレーション結果のシナリオ別比較評価をおこなった。シナリオ別旅行時間、待ち時間、平均速度、稼働台数の比較を表に示す。シナリオ①とシナリオ②を比較すると、シナリオ②は自動車利用者の乗車時間や総移動時間が減少し、自動車の平均速度が上昇していることがわかった。タクシー型の次世代モビリティの導入は、トリップとしての自動車交通量の減少により、バス型よりも交通混雑を解消させると考えられる。つぎに、シナリオ②とシナリオ③を比較すると、シナリオ②は総移動時間が増加していること、待ち時間が長くなっていることがわかった。これは、利用できる車両台数を限定すると、予約および乗車できるモビリティが少なくなることで、利用者の乗降場所での待ち時間が増大していると考えられる。よって、利用者の観点からはシナリオ③が望ましいが、車両投入台数が多くなることは、車両投入費、待機場所設置費、稼働率による採算性等を考慮して決定する必要がある。また、効率性の高い運用を行うには、待機場を複数個所に設置することや、相乗りを考慮するなど他のシナリオについて今後も検討する必要があると考えられる。

シナリオ別旅行時間、待ち時間、平均速度、稼働台数の比較

シナリオ	①Bus30min	②Taxi80veh	③Taxi200veh
自動車乗車時間(hr)	7308.3	7253.7	7222.3
公共交通乗車時間(hr)	2834.8	2940.0	2877.7
公共交通待ち時間(hr)	2252.4	2291.0	2200.8
徒歩アクセス時間(hr)	2308.0	2258.1	2275.6
次世代モビリティ乗車時間(hr)	-	82.9	89.8
次世代モビリティ待ち時間(hr)	-	37.6	15.1
総移動時間(hr)	14703.4	14863.1	14681.3
次世代モビリティ稼働時間(hr)	-	237.8	345.5
次世代モビリティ稼働台数	-	80.0	138.0
自動車平均速度(km/h)	20.8	21.1	21.4
一人あたり次世代モビリティ待ち時間(min/人)	-	28.2	6.5

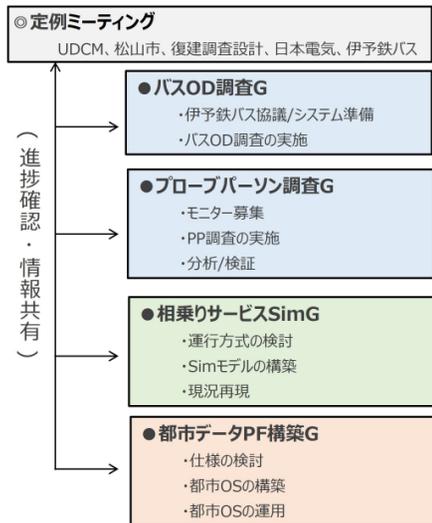
(2) 多様な公共交通サービスの最適化

1) 実験概要

次世代モビリティサービスの実現には、中長期的な時間を要するため、短期的な実装を目的として、多様な公共交通サービスの最適化の実現も同時に目指すこととした。具体的には、①タクシーの相乗りサービスと路線バスの共存を目指した地域公共交通の再編(次世代モビリティ導入含む)の検討を行うこと、②シミュレーション結果に基づいたKPIによる歩いて暮らせるまちづくりの評価を目指す。

【運営体制】

実証実験にあたり、公共交通に関する調査を実施し、データを収集する「バスOD調査G」「プローブパーソン調査G」に加えて、相乗りサービスの将来像をシミュレーションしながら検討する「相乗りサービスSimG」とデータを収集する都市OSの構築・運用を目指す「都市データPF構築G」の4つのワーキンググループを立ち上げ、それぞれのグループでの技術課題等について具体的な検討を行っている。また、定期的に定例ミーティングを開催し、進捗確認や情報共有を図った。



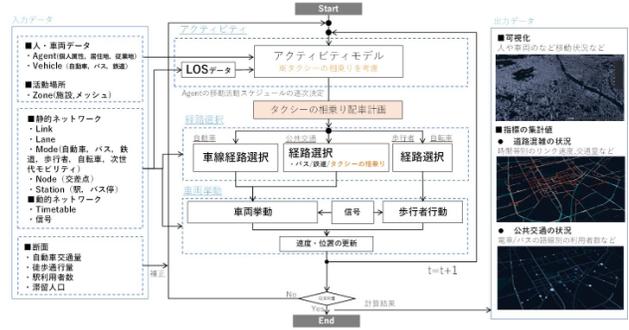
実証実験の運営体制

2) 相乗りサービスの Sim モデルの拡張

本実証実験の成果については、年度をまたいで実施中であるため、2023年度の年間報告書で示すことにしたい。ここでは、UDCMで開発している相乗りサービスの Sim モデルの拡張計画について具体的に示す。

【相乗りサービスの Sim の拡張】

現在開発しているシミュレーションモデル Hongo を拡張して、移動手段としてタクシーの相乗りを組み込む。Hongo の全体フローを示す。タクシーの相乗りは、① Agent の移動手段として、アクティビティモデル内で公共交通の選択肢の1つとして考慮する。②タクシーの相乗りが候補となった Agent を組み合わせる形で、タクシーの相乗り配車計画を行う。③配車計画に基づき、利用経路を選択し、Agent はタクシーの相乗り車両を利用するようにシミュレーションを行う。



シミュレーションモデル Hongo の全体フロー

【相乗りサービスの配車計画】

図に相乗りサービスのイメージを示す。相乗りを実施するには、2名以上の利用者の利用時間と出発地および目的地に応じて、複数のタクシー車両が利用可能かどうかについてマッチング(調整)する必要がある。その方法について、ロジックを構築することで、1台の車両で相乗りができる配車計画を行う。



相乗りサービスのイメージ (資料: 国土交通省)

Chapter

02

公共空間の利活用

UDCM では 2016 年度から 2019 年度まで、松山市中心市街地賑わい再生社会実験業務を松山市から受託し、まちづくり拠点運営とプログラム企画の実施等を通じた賑わいづくりに取り組んできた。松山市による当該社会実験終了に伴い、2020 年度から UDCM による自主運営に切換え、まちづくり拠点である「もぶるラウンジの運営（後章）」と「公共空間の利活用」を行っている。

これまで取り組んできたみんなのひろば（2014-2018）、花園町通り（2018-）、またアーバンデザインスクール（2014-）でのプログラム企画等の知見を活かし、2021 年度からはスクール形式での公共空間利活用プログラムの開発等にも取り組み始めた。次頁以降にて、具体的な活動内容について振り返る。

- ・ アーバンデザイン・スマートシティスクール松山の概要と受賞報告
- ・ 2021 年度 UDSC スクールの残りの活動
- ・ 2022 年度 UDSC スクールの活動
- ・ 都市回遊型社会実験『urban design week.』
- ・ UDSC スクールおよび UDweek. 後の展開

(1) アーバンデザイン・スマートシティスクール松山の概要と受賞報告

1) 概要

アーバンデザイン・スマートシティスクール松山（以降「UDSC スクール」という）は、地域資源を生かし、新たな公共空間の構想と計画を実践する市民参加型学習プログラムである。COVID-19の影響が長期化する中、公共空間利活用の継続や市民参加の機会づくりに取り組む1つの方法としてスクール形式を採用し、過去のUDCMプロジェクト（2014-2018 みんなのひろばでの社会実験、2019- 花園町通りでの社会実験、2014- アーバンデザインスクール、2017- 移動する建築など）で得た知見やそこで生まれた地域との関係性を発展させながら進めている。

院生の幅広い年代の若者が参加することによって、継続的な担い手確保と理解者支援者の拡大が実現している。それに加えて交通分析の可視化や最先端技術の導入など、他地域では一般的でない分野の研究者・技術者の参画により、まちづくりのイメージを変える戦略的な取り組みが行われている。松山では今後も重要な公共空間の整備が続く。アーバンデザイン・UDSC スクールの活動が奏功し、市の骨格が豊かな空間として実現し、それを使いこなす市民の活動が継続していくことを期待する。

2) 令和4年度都市景観大賞（景観まちづくり活動・教育部門）優秀賞受賞

2022年5月31日、UDSC スクールの活動が評価され、令和4年度都市景観大賞（主催：「都市景観の日」実行委員会、後援：国土交通省）の景観まちづくり活動・教育部門にて「優秀賞」を受賞した。

都市景観大賞 景観まちづくり活動・教育部門とは、地域に関わる人々が景観に関心を持ち、自らの課題として捉え、その解決に向けて活動できるよう意識啓発、知識の普及、景観制度を活用した取組等による活動を対象にした、都市景観大賞の1部門である（全2部門）。国土交通大臣賞である「大賞」のほか、「都市景観の日」実行委員会会長賞として、「特別賞」及び「優秀賞」がある。

審査員講評は下記のとおりである。

【審査員講評】福井 恒明（法政大学 教授）

松山アーバンデザインセンターの活動は、花園町通り改修や地域の景観資源を使いこなす多くの成果を生み出してきた。これらは公民学の連携を重ね、地域の仕組みとして定着させてきたことの賜物である。こうした活動を長期間維持する際には、担い手の入れ替わりによる停滞の回避や、活動が途切れないようなプログラム企画がポイントになる。本活動ではディレクターを若手研究者や市派遣者が担い、高校生から大学



表彰盾

(2) 2021 年度 UDSC スクールの残りの活動

1) 経緯

昨年 2021 年度の UDSC スクールは、2021 年 7 月に開講し、40 名の受講生が 6 グループにわかれ、2022 年 1 月のプラン実施を目指して議論を重ねた。しかし、プラン実施直前に愛媛県内での COVID-19 新規感染者数が急増したことを鑑み、実施を見送るなど、予定変更を余儀なくされた。各グループが予定していたプラン内容については 2021 年度 UDCM 年間報告書にて報告済みであるため割愛し、本項目では、2022 年 4 月以降におこなった 2021 年度 UDSC スクールの残りの活動について報告する。なお、2021 年度受講生有志による 2022 年 10 月のプラン実施については (2) 社会実験 urban design week. にて報告する。

【2021 年度の残りの活動】

- 2022 年 4 月に修了式を行い、UDSC スクール活動としては一区切りをつける
- 修了式では、修了証だけでなく、修了の記念として UDCM オリジナルの記念品を授与する
- 修了式までの間、活動プラン実施の代替え企画（動画制作）をおこなう

2) 2021 年度 UDSC スクール修了式

2022 年 4 月 29 日（金・祝）に、2021 年度の UDSC スクール修了式を開催した。受講生をはじめ、羽藤センター長、松村副センター長、スクール講師などの関係者と、一般視聴者がオンラインと現地会場（UDCM もぶるラウンジ）に集まった。開催の様子を、出席者のコメントを中心に、スクール TA を務める学生スタッフ（松尾）のレポートにて振り返る。

【開催挨拶】

はじめに、羽藤センター長からは「自分たちがまちに対して何ができるか考え、何かをやるのがこのスクール活動である」そして、活動を振り返るこの修了式という機会が「これからの松山について議論

できる場になることを期待している」というお話がありました。



挨拶の様子（羽藤センター長）

【来賓紹介および挨拶】

来賓の野志市長より、スクール活動の動画を楽しみにしているとお言葉をいただきました。司会の板東ディレクターからは、第 1 回講義で講師を務めてくださった伊藤先生と大山先生から届いた労いとお祝いメッセージの紹介がありました。また、第 2 回講義の講師を務めてくださった花園町通りの重松氏と道後の山澤氏は、オンラインで修了式に出席してくださいました。



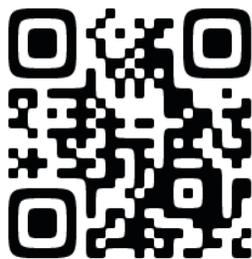
挨拶の様子（野志市長）

【代替企画の動画お披露目】

スクール TA 中出さんから、2022 年 1 月に予定していたプラン実施の代替企画として取り組んだ動画企画についての説明がありました。趣旨説明の中で、『未開催ツアー』と題したこの動画は、一人称視点の構成になっていること、またそのねらいは、「スクール活動について振り返る機会」、「予定していた活動プラン実施（社会実験 urban design week.）を迫体験する機会」、「社会実験のテーマに掲げた“マスクの向こうの風景”を考える（まちの現状や課題を再考する）機会」を提供することであるとお話がありました。

【動画のねらい】

- 社会実験『urban design week.』で実施予定だったアクティビティの敷地、運行予定だったモビリティの停留所・ルートを一人称視点で撮影しながらツアー形式で辿る映像とすることで、視聴者に『urban design week.』を迫体験する機会を提供すること
- UDSC スクール受講生にツアー案内人として映像に出演してもらい、それぞれが実施予定だった活動プランの内容説明や今の思いを語ってもらうことで、スクール活動を映像として記録し、受講生自身が活動を振り返る機会を提供すること
- 映像を通して、松山のまちの課題や魅力を再考する機会を提供すること



動画『未開催ツアー』の二次元バーコード (YouTube)



趣旨説明の様子(スクール TA 中出)



動画視聴の様子 (現地会場)



受講生インタビューリレー動画『未開催ツアー』

松山アーバンデザイン
チャンネル登録者数 121人

193 回視聴 2022/05/11
2021年度の開催を促した社会実験『urban design week』は、アーバンデザイン・スマートシティスクール等福井市の

公開中の動画の一場面 (YouTube)

【動画の感想】

動画を視聴して、受講生の山之内さんからは「自分の頭の中だけで勝手に想像していた他のグループの活動が、動画としてカタチにしてもらうことで、“こういうことをやろうとしていたんだな”と確認できて、すごくよかった。企画ありがとうございました」とのコメントがありました。同じく、受講生の崎山さんは「社会実験 urban design week. としてどのように各スクール活動をつないでいこうとしていたのか、ツアー全体が形になっていてわかりやすかった。自分たちが頑張って取り組んでいた企画は、そういう風につながることであったんだな」と言うのがよくわかり、良かったです」、メンターの石飛氏は「人が介さなくても分析できる時代であるが、AIではできないことが活動成果としてあった」と感想を述べていました。

松村副センター長からは「自分が面白いと思うことにやりたいことをドライブしていくことが今後の松山に繋がる」とのコメントをいただきました。野志市長からは「ゆるい動画であるからこそ、このような場では面白いと感じた」、「動画を通して、各グループの良さを熱心に伝えていただきました。色んな方がまちづくりに取り組まれていることは松山の財産です」との激励をいただきました。



コメントの様子（松村副センター長）

【修了証と記念品授与】

スクール TA がデザイン提案した修了証と記念品（コースター）が、現地会場に集まった受講生一人一人に授与された。修了証は羽藤センター長から、記念品は野志市長から手渡していただいた。



修了証（最終デザイン）



記念品のコースター（最終デザイン）



授与の様子



コメントの様子（オンライン出席者）

【閉会挨拶】

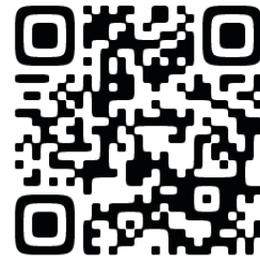
羽藤先生からは「実際に活動したことで、すぐに結果が出るわけではないということを経験し、まちづくりって簡単じゃないなと実感したと思います。ただ、そういう中だからこそ気づくことがあるし、学べることがある」とのコメントがありました。また、「今まで自分たちが知っていたこと、わかっていると思っていたことが通用しない中で、いったんこれまでの学びを忘れて現場で学び直すことで、上手いかなかったこともあったかもしれませんが、その学び直しの中で“アーバンデザイン”と“スマートシティ”と言うことが、皆さんの頭と体の中に、人と人とのつながりを通して、ちゃんと入っていったのではないかと思います」と受講生の活動を労いました。そして、ご支援いただいた地元協力者や松山市の方々に感謝の気持ちを述べ、受講生の修了を祝う言葉と拍手をもって2021年度のスクール活動を締めくくりました。(TA 松尾)



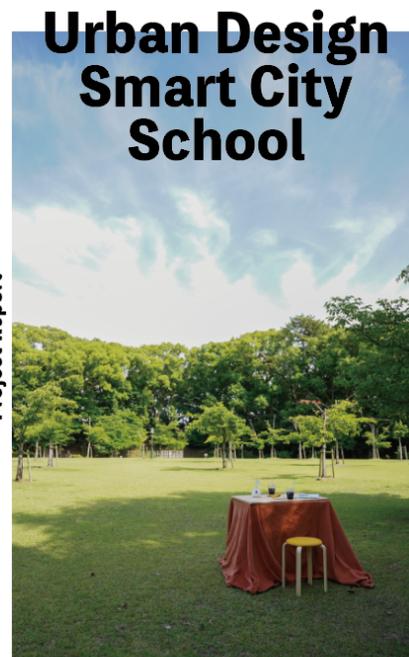
修了式（現地会場）の様子

年度をまたいでの活動となった2021年度UDSCクルールの活動については、別途プロジェクトレポートを作成し、UDCMホームページ内のスマートシティスクールまとめページ（下記二次元バーコード）で公開している。受講生の感想コメントなども読むことができるので、ぜひご覧いただきたい。

なお、製本した冊子は、UDCMもぶるラウンジにて配布している。



UDSC スクールまとめページの
二次元バーコード
(2021年度プロジェクトレポート)



2021.7-2022.4

2021年度プロジェクトレポートの表紙

(3) 2022 年度 UDSC スクールの活動

1) 体制

本年 2022 年度は、最終的に 18 名の受講生が、3 グループにわかれて地域資源を活かした展示や活動プランづくりとその実践に向けて取り組んだ。受講生の内訳は表のとおりである。

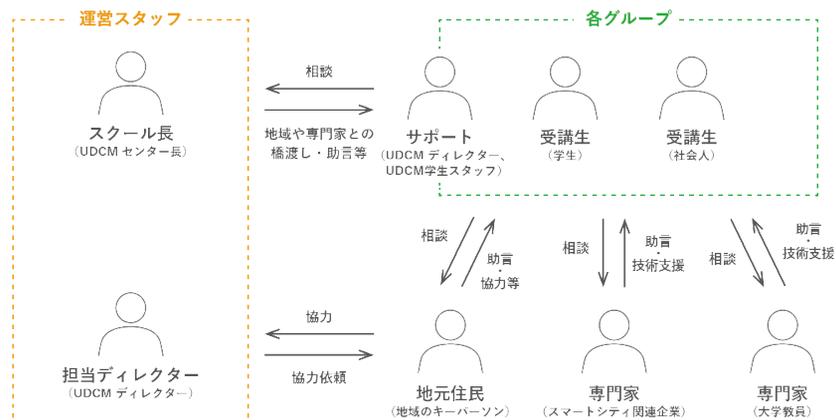
また、協力者（地域のキーパーソンや大学教員などの専門家）との橋渡しや各グループへの助言など、全体運営を担当する UDCM ディレクターとは別に、各グループに UDCM ディレクターと UDCM 学生スタッフ（スクール TA）をサポートメンバーとして配置し、グループの活動に伴走する役割を担った。各グループのサポートメンバーと、各グループの受講生数は、表 2 のとおりである。

表 受講生の内訳

肩書	所属	人数	
学生	愛媛大学	6	10
	松山大学	3	
	東京大学	1	
社会人	松山市役所	3	8
	愛媛県庁	1	
	広島県庁	1	
	東京海上日動火災保険	2	
	NPO サポートセンター	1	

表 各グループの構成

グループ名	サポートメンバー	学生 受講生	社会人 受講生	グループ合計 受講生数
歴史班	渡邊 浩司 (UDCM ディレクター) 中出 舞 (スクール TA)	2	2	4
地域デザイン班	竹内 仁美 (UDCM ディレクター) 谷 歩実 (スクール TA 兼 2022 年度受講生)	5	3	8
モビリティ班	三谷 卓摩 (UDCM ディレクター) 松尾 悠馬 (スクール TA)	3	3	6



運営体制

受講生のグループ分けについては、受講申し込み時に興味・関心のあるグループを確認し、受講生本人の希望に沿ったグループに振り分けた。その結果、人数配分に偏りが生じたため、サポートメンバー配置の際に、経験値が高いメンバーを人数の少ないグループに配置するなど、調整をおこなった。

2) スケジュール

2022年8月の開講以降、受講生は全4回のレクチャーを受けながら、グループワークを通じて、地域資源を活かした展示や活動プランづくりとその実践に取り組んだ。下表にレクチャーや発表会など、全体スケジュールを示す。

表 全体スケジュール

月 日	内 容
2022.8.23	準備会・ガイダンス ※オンライン開催 「地域デザインミュージアムをつくる」講師：羽藤 英二（東京大学 教授 /UDCM センター長）
2022.8.26	第1回 レクチャー「八戸市美術館」 ※オンライン開催 講師：浅子 佳英（PRINT&BUILD/UDCM プロジェクトディレクター）、西澤 徹夫（西澤徹夫建設事務所 主宰）、森 純平（東京藝術大学 助教 / 一般社団法人 PAIR 代表理事）
2022.9.1	全体トーク「レクチャー1の感想など」 ※オンライン開催 講師：羽藤 英二（東京大学 教授 /UDCM センター長）
2022.9.3	第2回 レクチャー「地域デザインの実践と理論」 ※ハイブリッド開催（現地会場：坂の上の雲ミュージアム） 講師：青柳 菜摘（美術作家）、伊藤 香織（東京理科大学教授 /UDCM プロジェクトディレクター）、川口 真沙美（日本デザイン振興会）、増橋 佳菜（東京大学大学院修士1年）
2022.9.3	第3回 レクチャー「松山のミュージアムを識る」 ※ハイブリッド開催（現地会場：坂の上の雲ミュージアム） 講師：平岡 瑛二氏（子規記念博物館 学芸員）、徳永 佳世氏（坂の上の雲ミュージアム 学芸員）、中野 靖子氏（伊丹十三記念館 学芸員）
2022.9.4	全体トーク「グループワーク進捗発表」※ハイブリッド開催、現地会場：愛媛大学 講師：羽藤 英二（東京大学 教授 /UDCM センター長）
2022.9.8	第4回 レクチャー「スマートシティ」※オンライン開催 講師：大村珠太郎（清水建設）、谷口暢夫（NEC）
2022.9.11	全体トーク「グループワーク進捗発表」※ハイブリッド開催、現地会場：愛媛大学 講師：羽藤 英二（東京大学 教授 /UDCM センター長）
2022.9.30	全体トーク「グループ企画内容発表」※オンライン開催 講師：羽藤 英二（東京大学 教授 /UDCM センター長）
2022.10.14～23	展示・企画実施 ※社会実験 urban design week. 内プログラムとして 歴史班：Memory Museum（会場：三津浜商店街内空き店舗） 地域デザイン班：まつやま銘店大解剖（会場：UDCM もぶるラウンジ） モビリティ班：未来の中ノ川 水辺の癒し体験（会場：総合コミュニティセンターこども館前）
2022.11.20	各グループ活動レポート提出
2022.12.23	2022年度 UDSC スクールふりかえりの会および修了式 ※ハイブリッド開催（現地会場：UDCM もぶるラウンジ）

なお、UDSC スクールのレクチャーは、アーバンデザイン研究会を兼ねて開催したため、受講生以外も聴講できるよう、UDCM の YouTube チャンネルにてライブ配信をおこなった。ライブ配信は申込不要、参加無料で市民などがリアルタイムで視聴することができる仕様とした。各レクチャーの内容については、4 章にて振り返る。



対面でのグループワークの様子

3) グループワーク等の実施

グループワークについては、グループメンバーの都合や COVID-19 感染状況に合わせ、対面とオンラインを織り交ぜて取り組んだ。実施頻度はグループによってまちまちであったが、定期的にオンラインで集まり、議論や準備を進めていた。

グループ内外のコミュニケーションについては、UDSC スクール用にワークスペースを開設した Slack を積極的に利用するよう呼びかけたため、日常的な交流や資料の共有などが Slack 上でおこなわれた。運営スタッフも Slack 上での各グループ内のやりとりを確認することができたため、ある程度、各グループの状況や進捗を把握することができた。



対面での全体トーク（進捗発表）の様子

Slack 上での資料や進捗共有の様子

4) 各グループの実施内容

グループワークや羽藤センター長等も交えた全体トークでの議論を通じて、3グループが実際に取り組んだ展示・企画等について、各グループが実施後に作成した活動レポートにて振り返る。

『Memory Museum ～未来へ紡ぐ三津浜の記憶～』

歴史班：

柳田恵利（松山大学3年）、的場風香（愛媛大学2年）、山下日菜子（愛媛県庁）、井上優花（松山市役所）、渡邊浩司（UDCM）、中出舞（UDCM）

三津浜の町の発展は、港と朝市から始まり、明治時代には鉄道を開通するなど大いににぎわっていた。1980年代からは海上旅客輸送の需要低下、それに伴う来街者の減少、さらに地区住民の減少・高齢化が同時に進展し、三津の商業地は急速に勢いを失った。そのような三津浜を盛り上げようと平成初期からまちづくり活動が行われていた。

今回の企画は、形成史的な「歴史」だけでなく「記憶」をアーカイブするような展示を行い、地域の方々が昔の記憶をたどり、話し合うことができる場をスクール生がアイデアを出しながら工夫して創った。また、展示を見た後、実際に町を歩き、自身で歴史に触れる体験することを意図した展示とした。華やかでにぎわいのあった近代から現代における三津浜の歴史を伝えることで、地元の方や観光客に三津浜の魅力を知ってもらうことを目的とした。

10月15日（土）、16日（日）、22日（土）、23日（日）の4日間、三津浜の約150年の歴史について年表（縦1.8m×横4.0m）としてまとめ、古写真、解説文などと合わせて展示した。また、地域の方7名にご協力いただき、三津浜での記憶をインタビュー、撮影した映像と昭和33年に撮影した貴重な8mmフィルム映像をお借りして編集し、ドキュメンタリー映像として上映した。さらに、三津浜の都市形成の移り変わりを学べる時代ごとの古地図や昭和53年に三津浜で撮影さ

れた活気に満ち、人情溢れる古写真、賑わいをもう一度取り戻そうとまちづくり協議会が現在取り組んでいる活動資料などを展示した。加えて、来場者の展示に関する記憶や情報を書き込んだ付箋の貼付や、来場者が蘇った記憶をホワイトボードに書くことで日々成長する Museum とした。

その結果、延べ229人という多くの方に見てもらうことができた。年代も幅広く、地域以外の方々にも興味をもってもらうことができた。特に地域の方からはたくさんのエピソードを伺うことができ、30以上のエピソードをしたためた付箋が展示に加えられた。地域の方々が話が盛り上がる場面もあり、MemoryMuseumにより三津浜の人々が記憶を蘇らせ、その記憶を未来へと紡ぐことができたのではないかと考える。

今回の展示を通して、今失われつつある地域コミュニティの重要性を感じた。地域のコミュニティは、その場が盛り上がるだけではなく、地域の活気に繋がりと、新たな人や考えが出来る場になるのではないかと考える。昔、自然と育まれていた地域コミュニティの空間を、新たに作っていくことが地域の活性化に繋がると考える。また、たくさんの方にご来場いただくことができたものの、広報については、もう少し工夫することで、さらに多くの方に来てもらえたのではないかと考える。今回のような展示をするうえで、SNS等の効果的な使い方も考える必要があると感じた。



開催当日の様子（歴史班）

『まつやま銘店大解剖』

地域デザイン班：

武田芽生子（愛媛大学）、清水凜（愛媛大学）、西澤岳冬（愛媛大学）、円福寺咲紀（松山大学）、谷歩実（愛媛大学/UDCM）、今本光（松山市役所）、瀧宮桃子（東京海上日動火災保険）、山本千絵（まつやま NPO サポートセンター）、竹内仁美（UDCM）

松山と言えば、鯛めしや松山城、道後温泉などが有名だが、それ以外にも魅力はたくさんある。しかし観光客にあまり知られていないのが残念だという話から始まった。そこで松山の魅力を改めて考えたときに、よく他県の人から「松山の人は温かい」と言われることを思い出した。そして私たちにとっての地域デザインとは何かを考えたときに「松山の温かさ」と考え、温かさを感じさせるものとして、人だけでなく個人的な思い出や歴史に注目した。そこでまず、松山市に住む様々な年代の人に「おすすめの場所（風景やお店）とそこに関するエピソード」を聞いた。また、老舗でかつ展示会場から近いお店としてアミティエとAMOURへインタビューに伺うことにした。また質問内容は、全体での集まりでいただいた意見などから、お店の紹介よりは店主の人生や松山に関するものとし、多角的に伝えたいということから「動画」、「展示」、「パンフレット」の3企画を行うことにした。

展示期間中、計110名の方にご来場いただき、パンフレットは計60部持ち帰っていただいた。展示を天井から吊るすことで立体感を出し、ラウンジに入っただけで来場者の目に留まりやすくすることができた。映像やその他の展示はじっくり見てくださる方が多くいらっしや、来場者と作り上げていく「まつやま銘店マップ」も、多くの方に記入していただいた。またこれらの展示を通し、来場者と会話する中で、「このお店知ってる！」「この場所にこんなエピソードがあったんだ～」「こういうお店あったの知らなかった」などという意見をもらうことができた。お店や風景と合わせて、ガイドブックには載っていない個人的エピソードを伝えることで、来場者にとっても、自身の思

い出を振り返ったり、新たな発見のきっかけになったなら幸いである。これらのことから、「地元の人に松山の魅力を再発見してもらおう」「この企画を通して心を温かくしてもらおう」という目的は達成できたと思う。

目的の1つであった「観光客の方に松山へもう1度訪れたいと思ってもらうこと」を達成するためには、現地での展示だけではなく、SNSやYouTubeで発信することも必要であると考えている。そして今回「まつやま銘店マップ」に記入していただき新たに集まったお店やエピソードも、SNSやYouTubeで発信することで、観光客はもちろん、地元の人にも伝えていきたい。また店主へインタビューをしたことで、店主の“人生”に注目した展示も面白そうだと感じた。店主の人生を通してお店を見ることで、常連客の方は新たな見方ができ、そのお店におこなったことのない方にも興味をもってもらい、実際に足を運ぶきっかけになるからだ。

最後に、今回私たちがおこなった企画のメインである、松山市に住む様々な年代の人に聞いた「おすすめの場所とそこに関するエピソード」の紹介。これはまた第2弾、3弾と続けていくことのできる企画である。なぜなら日が経つに連れてお店の数と個人的エピソード（＝思い出）は増えていくからである。今後も自分たちの銘店を見つけ、「松山の温かさ」を多くの人に伝えていきたい。



開催当日の様子（地域デザイン班）

『未来の中ノ川 水辺の癒し体験』

モビリティ班：

田村有衣莉（愛媛大学）、平田瑤（松山大学）、冨永淳平（東京海上日動火災保険）、田中一浩（広島県）、小川大智（東京大学大学院）、岡田直大（松山市）、三谷卓摩（UDCM）、松尾悠馬（UDCM）

江戸後期、松山城下と三津浜間を連絡する「中ノ川」は、造り酒屋の物資や禄米などの運搬に活用され、その荷物の積み下ろし場所であった現在の湊町3・4丁目付近は、商業が集積し大いに発展したとされる。その後戦後において、湊町3・4丁目付近は松山有数の飲み屋街として発展するなど、川は地域をつなぎ、人々の暮らし・交流・商業の発展に大きな機能を果たしてきた。しかしながら、現在の「中ノ川」は、市民からさほど関心をもたれず、日常生活において親水空間としても親しめる状況とはなっていない。そこで、モビリティ班では、「中ノ川」にもっと関心を持って頂き、将来的に魅力的な水辺空間としていくため、水運の歴史に焦点を当てるとともに、水辺を体験しながら利活用の将来像を描くことで、水辺の再生に向けた足がかりをつくることとした。

現在の中ノ川は、暗渠化し、さらに開渠であっても水流が十分でない区間が多く、川縁を車両が走行する区間が大半なため、水辺の体験箇所としてはあまり適していない。そこで、中ノ川と隣接した松山市総合コミュニティセンターに広場や水路があること、さらに車両運行実験の停留所でもあることから、当該箇所での水辺体験イベントを実施することとした。内容は「歴史紹介」、「水辺の癒し体験」、「未来の中ノ川・お絵描き体験」である。「歴史紹介」では、歴史チラシ用に大きなパネルを作成したことで、図書館やコミュニティセンター帰りの様々な人に立ち寄ってもらうことができ、中ノ川に対する想いについて伺うことができた。年配の方からは、湊町の戦後の賑わい、さらには下流側でたくさんの魚が取れたこと、コンクリート張りではない自然な川への想い入れを語ってもらうこ

とができた。一方、家族連れや若い方からは、散策できる水辺空間になってほしいとの話を聞くことができた。今回のイベント実施箇所には、ベンチが数基設置されており、昼休憩時にサンドウィッチを食べている方やのんびり休憩されている方がおられた。イベントの実施により、さらに楽しんでもらう時間や機会を提供できたのではないかと感じた。また建物間や川縁が市道で分断されている施設内のレイアウトは、工夫によってはもっと魅力的な空間にできるのではないかと感じた。「水辺の癒し体験」では、水がきれいであったため、底に沈めた花びらを見ることができ、流れる川と水辺でゆっくり過ごす時間を想像することができたのではないだろうか。「未来の中ノ川・お絵描き体験」に参加した子どもの親御さんに話を伺うと、このように外で遊ぶことが出来るのはとても良い、もっと増えてほしいと話してもらえた。

水辺を体験しながら利活用の将来像を描くことにより、水辺整備の機運を高める可能性があることを示すことができた。当該箇所の西側ではJR松山駅付近連続立体交差事業が実施されていたり、市総合コミュニティセンターのコスモシアターでは老朽化がみられたりすることから、これらの事業の進捗や水運の歴史も踏まえた魅力的な水辺空間の整備につなげることが望まれる。今回、シミュレーションを用いた将来予測まで実施することができなかったため、それは今後の課題としたい。



開催当日の様子（モビリティ班）

5) 2022 年度 UDSC スクール修了式

2022年12月23日(金)、2022年度UDSCスクール松山のふりかえりの会および修了式を、ハイブリッド形式で開催した。受講生をはじめ、羽藤センター長、松村副センター長、スクール講師などの関係者と、一般視聴者がオンラインと現地会場(UDCMもぶるラウンジ)に集まった。開催の様子を、出席者のコメントを中心に、スクールTAを務める学生スタッフ(松尾)のレポートにて振り返る。

【開会挨拶】

はじめに羽藤センター長から、2022年度UDSCスクールのテーマである『地域デザインミュージアムをつくる』について、各班の活動の様子を振り返りながら、テーマに込めた意味について言及していただきました。また「ふりかえりの会の中で感想や議論を深め、新たな気づきを発見してほしい」とのメッセージをいただきました。



挨拶の様子(羽藤センター長)

【各グループの活動報告】

つづいて、各班から活動報告というかたちで、今年度のUDSCスクール活動のふりかえりを行いました。トップバッターは、三津浜地区でミュージアムづくりをおこなった歴史班の活動報告です。歴史班は、文献だけでなく、地元の方々から提供していただいた古写真や、ご協力いただいたインタビューを基に、地区の歴史や地域の方々の生活、記憶をアーカイブし、日々

成長していくような展示をおこないました。また、古写真を展示して地域の方が話し合うような生きた展示を目指した結果、来場した地域の人同士で話が盛り上がることもあり、ミュージアムをきっかけに交流がうまれ、新たな地域の歴史や人との出会いになると感じる活動になりました。

活動報告後、受講生からは「三津浜というまちが大好きになった」との感想がありました。中出TAからは「三津浜で活動をする上でいろいろなものを三津浜から与えてもらった」、渡邊ディレクターからは「三津浜に何度も足を運ぶことで、三津浜というまちを身近に感じる事ができた」との感想がありました。

羽藤センター長から「会場の展示の密度が高く、松山の魅力を気づかされるような展示の仕方と、チームワークが良かった」、四戸ディレクターからは「ミュージアムに入ってきた人が記憶をたどることでミュージアムの可能性をリアルに見ることができ、将来の雰囲気を探す場所になっていた」とのコメントがありました。



報告の様子(歴史班)

つぎに、地域デザイン班の活動報告です。地域デザイン班は、松山の魅力の発見と『心を温かくしてもらおう』ことを目指した活動をおこないました。具体的には、松山の魅力を観光客に伝えるために、松山に住む人々へのインタビューの実施を通して2店舗にインタビューをおこないました。このインタビュー映像は、メンバーが編集をおこない、展示会場で上映しました。その他にも、前述のインタビューで集めたお店や風景

の写真を、それぞれに対する個人的なエピソードと一緒にパネルで展示したり、パンフレットを作成したり、展示を見た人に新たな地域の魅力を発見してもらうことを目指し、展示を工夫しました。



報告の様子（地域デザイン班）

活動報告後、受講生からは「初めてのことが多く、動画編集やアポイントの取り方が難しかったが、良い形で企画ができた」との感想がありました。竹内ディレクターからは「自分たちがしたいことに加え、普通ではない展示を行うにはどうすればよいかを意識して楽しく活動できた」との感想がありました。

羽藤センター長からは「わからないことと誠実に向き合うことで、松山が魅力的になるような期待と驚きのある企画になっていた」、松本啓治 坂の上の雲ミュージアム総館長からは「これまでも似たような企画はあったが、実際にパンフレットを作成して広報を行うなど、手軽に松山のお店を調べられることが面白い取り組みであり、今後の発展に期待したい」とのコメントがありました。



コメントの様子（松本総館長）

さいごに、モビリティ班が発表しました。モビリティ班は『未来の中ノ川 水辺の癒し体験』をテーマに、中ノ川の歴史と親水空間に関心を持っていただけるような活動をイメージし、活動しました。水辺の癒し体験では、会場としたコミュニティセンターこども館沿いの水路に、花びらを浮かべたり、造花を投げ入れてもらったりして参加者に楽しんでもらいました。お絵描き体験では、用意したアイテムやペンで現在の中ノ川のモノクロ写真にお絵描きをしてもらいました。



報告の様子（モビリティ班）

活動報告後、受講生から「花手水がどうやったらできるか、試行錯誤しながらもきれいな形にでき、家族連れの方々が楽しそうにしている姿が印象的であった」との感想がありました。松尾TAからは「個人的にはお絵描き体験がよかったと思っていて、鳥を描いている子供にどうして鳥なのかと尋ねたら「川に鳥さんがたくさんいるほうが楽しいから」と言っていて、とても深いなと感じた」、三谷ディレクターからは「コミュニティセンターのスペースの活用等の不安が大きかったが、一つの活動の形にすることができたことが良かった」との感想がありました。

羽藤センター長からは「中ノ川に可能性を感じ、新しい場所を見出すことができている。触れられる水辺があることの気づきが得られ、三津浜とつながっていくことへの期待が感じられる」、松本総館長からは「松山に潤いを出すための水という所に目を付けたのが素晴らしく、花を使った楽しみ方によって将来に繋がるような活動であった」とのコメントがありました。

【全体コメント】

現地会場にいらっしゃった方からは「こういった取り組みがこれからも続くと松山がより良くなる」とのご意見がありました。

オンラインで出席して下さった松村暢彦 UDCM 副センター長からは、今年度の UDSC スクール活動全体について「多くの方々に見てもらう機会をつくることはモチベーションにもつながるため、社会が変わる音を心の中で聞けるようになるような活動にこれからも参加してほしい」とのメッセージがありました。



コメントの様子（松村副センター長）

【修了証と記念品授与】

活動のふりかえり後、修了式をおこない、羽藤センター長から、修了証と記念品が授与されました。修了証と記念品（コースター）は、2021年度のものと同じデザインです。



授与の様子



修了式（現地会場）の様子

【閉会挨拶】

羽藤センター長からは「その瞬間、その場所にしか存在しないような活動であり、見に来てくれた人にしか伝わらないものが大切だと感じられるような活動であった」との総括コメントをいただき、2022年度のスクール修了式を締めくくりました。



挨拶の様子（羽藤センター長）

2022年度のUDSCスクールは、3グループに分かれて具体的な活動をおこないました。私自身はモビリティ班のサポートを主におこないましたが、当日の活動に至る過程によって結果は大きく変わると感じました。どの班も『地域デザインミュージアムをつくる』というテーマに沿って、工夫しながら活動していたと感じました。今年度のUDSCスクールはふりかえりの会および修了式をもって修了となりますが、各班のおこなった活動はこれからも松山のまちとUDCMに受け継がれていくと思います。これからも松山に隠れている新たな気づきを発見していきましょう！（TA松尾）

2022年度UDSCスクールの活動についても、別途プロジェクトレポートを作成し、UDCMホームページ内のUDSCスクールまとめページ（下記二次元バーコード）で公開している。レクチャーでお世話になった講師の方々の感想コメントなども読むことができる。

なお、製本した冊子は、UDCMもぶるラウンジにて配布している。



UDSC スクールまとめページの
二次元バーコード
(2022年度プロジェクトレポート)



Urban Design Smart City School
Project Report

2022年度プロジェクトレポートの表紙

6) 受講者の声

今後のUDSCスクール運営やUDCMのプログラムデザインの参考とすること、受講生の率直な感想を把握することを目的に、2022年度の受講生を対象とした受講アンケート調査をスクールの主な活動が終了した後におこなった。調査概要と結果は次のとおりである。

UDSCスクール受講アンケート調査

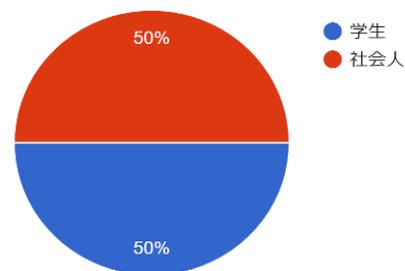
【調査概要】

期間：2022年12月1日～12月31日の1か月間

方法：アンケート形式（Googleフォーム）

対象：受講生18名

回答数：10（回答率 約55.6%）



受講アンケート2022

アーバンデザイン・スマートシティスクール2022を受講しての感想をお聞かせください。いただいた感想やご意見は、今後の取り組みの参考とさせていただきます。

回答締切：2022年12月23日

eastboard55@gmail.com (共有なし)
[アカウントを切り替える](#)

*必須

学生ですか？社会人ですか？ *

学生
 社会人

スクールの開催時期（8-11月）について、満足度を教えてください。 *

たいへん満足している
 やや満足している
 どちらでもない
 やや満足していない
 まったく満足していない

開催時期（8-11月）の満足度の回答理由を、教えてください。 *

回答を入力

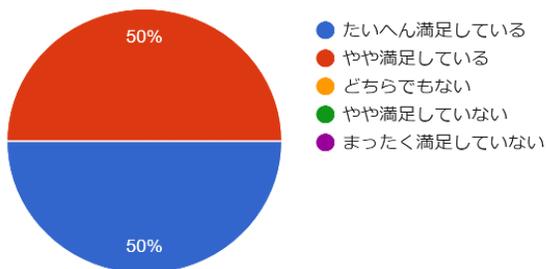
スクールの開催時期（約3か月間）について、満足度を教えてください。 *

たいへん満足している
 やや満足している

調査票（Googleフォーム）

【調査結果】

開催時期（8-11月）についての満足度（N=10）



たいへん満足している 回答者の満足度の理由（N=5）

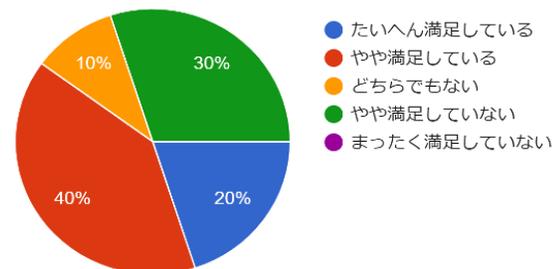
- 業務に余裕がある時期だったので参加しやすかった（社会人）
- 気温がちょうど良い時期にイベントができて良かった（社会人）
- 自由時間がたくさんある夏休みにかかっていたからです（学生）
- 夏休みの期間を使って活動することができたので、学校がある時期より参加できたと思う（学生）
- 前半は夏休みだったので、活動に参加しやすかったです。平日の三津浜に丸一日滞在し、情報収集をすることも夏休みでなければ難しかったと感じます。情報収集を早くにできたため、具体的な方向性が決まりました。夏休みと重なっていることで多くのメリットがあったと感じます（学生）

やや満足している 回答者の満足度の理由（N=5）

- 気候のよい秋にイベントを実施することができたから（社会人）
- 仕事等を含めて、少し落ち着いている時期なので、参加しやすかったです（社会人）
- 内容は充実していたが、期間が短くできることが限られたため（社会人）
- 夏休み中に制作に取り掛かることができたから（学生）
- 夏季休暇を含んでいたため、予定が合わせやすかったと感じたから（学生）

開催時期（8-11月）については、「たいへん満足している（50%、N=5）」、「やや満足している（50%、N=5）」という高い満足度を得られた。自由記述からも、学生と社会人ともに、授業や業務が忙しくない時期と重なったため、また気候の良い時期に企画実施をできたことが、満足度に貢献していると捉えることができる。

開催期間（約3か月）についての満足度（N=10）



たいへん満足している 回答者の満足度の理由（N=5）

- 企画を考え作るのに十分な長さだと感じたからです（学生）
- アーバンデザインウィークが先過ぎることもなく、企画を考える十分な時間もあり、ちょうどよかったと思う（学生）

やや満足している 回答者の満足度の理由（N=4）

- ミュージアム内容を吟味するにはもう少しだけ長い方がよかったと感じた（社会人）
- もう少し期間が長くてもよいと思った（社会人）
- 期間が短くできることが限られた（社会人）
- 感覚としてはとても短い期間でした。しかし、だからこそ短期間に集中して取り組めたのだと考えます。作業が続いた1,2週間は大変でしたが、そこに詰め込められたのはよかったと感じます。ただ、もう少し長ければもっと大がかりなことも出来たかもしれないと思いました（学生）

どちらでもない 回答者の満足度の理由（N=1）

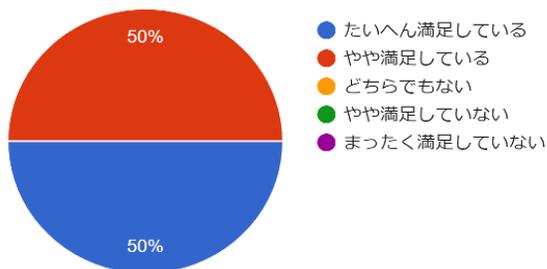
- 短期間で集中的に制作できた一方でスケジュールの調整が難しく分担ができなかった（学生）

やや満足していない 回答者の満足度の理由（N=3）

- 準備時間が短く感じた（社会人）
- 期間が集中しているというメリットはありますが、企画を実施するには少し短く感じました（社会人）
- もう少し時間をかけて展示物等の作成を行いたかったと感じたから（学生）

開催期間（約3か月間）については、6割の回答者から「たいへん満足している（20%、N=2）」、「やや満足している（40%、N=4）」という回答を得た。一方で、4割の回答者は、期間が短いと感じたようである。その理由として「企画準備期間が足りなかった」、「メンバーのスケジュール調整が難しかった」などの自由記述コメントが目立った。

受講内容・方法についての満足度 (N=10)



たいへん満足している 回答者の満足度の理由 (N=5)

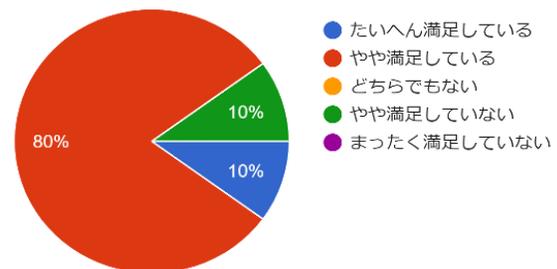
- 普段話を聞くことのできないアーティストや学芸員の方にも話が聞けて大変貴重だった (社会人)
- オンラインでも対面でもレクチャーを聞いて良かった (社会人)
- 受講方法が複数あり、社会人などの時間に制限がある人も受講しやすいと感じたからです (学生)
- どれもとても興味深い内容のレクチャーでした。初めて知ることが多く、たくさんの刺激を受けました。街づくりへの理解を深められたと感じます。また、対面とオンラインの双方を用意してくれたので、参加しやすかったです。グループワークが欠かせない後半の時期は、オンラインを活用することで全員と意見交換ができました。一方で対面があったからこそ、講義を自分ごととして聞くことができ、グループワークでメンバーと仲良くなれたと感じます (学生)
- 学芸員の方等の貴重なお話を聞くことができ、あとで動画で見直すこともでき大変満足できるものだったから (学生)

やや満足している 回答者の満足度の理由 (N=5)

- 事前に資料を確認し質問事項を準備できればよかったが、質問を行うことができ有益であった (社会人)
- 普段は聞けないお話を頂き、貴重な時間になった (社会人)
- なかなかお話を伺う機会が少ない講師のお話が聴けて、とても良かったです。まちづくりについて様々な視点での考えを知ることができた貴重な機会となりました。ありがとうございます (社会人)
- zoomを取り入れているのはよかったが、時間が毎回超過していたので参加することに前向きになれないことがあった (学生)
- 色々な方のお話が聞けてよかった (学生)

受講の内容・方法については、「たいへん満足している (50%、N=5)」、「やや満足している (50%、N=5)」という高い満足度を得た。特に受講方法を複数設けたことや、アーカイブ動画を視聴可能にしたことが、自由記述コメントにて評価された。

グループ活動 (企画の検討・実施) の満足度 (N=10)



たいへん満足している 回答者の満足度の理由 (N=1)

- とても満足できるものでした。初めての取り組みであり、最初は不安しかありませんでした。しかし、グループのメンバーとも親密になれ、展示も自分なりに成功したと感じます。同じ大学以外の人々と話せたことで、色々なことを知ることができました。短い期間でしたが、予定通り展示物を作成でき、会場全体を使った展示となりました。前日に準備が完成したときは大きな達成感を覚えました。自分も動画作成としてそこに参加できてよかったです。会場に来た人に話しかけ、昔の話を聞くことができました。さらに、そこで偶然その場に居合わせた人たちで会話が生まれる場面もあり、自分達が目指していた展示ができたと感じました (学生)

やや満足している 回答者の満足度の理由 (N=8)

- 自分たちが考えた内容が形になったこと、またそれを地域の方に見てもらい、展示について話してもらえたことが達成感があった。また、学生と社会人など、さまざまな背景を持った人が同じテーマについて集まって考える経験ができてよかった (社会人)
- 学生、社会人等の様々な方と意見交換を行うことができよかった (社会人)
- 期間が短くできることが限られたため (社会人)
- 班員の人数が少なく、一人一人の準備量が他の班より多いのではないかと思った。各班の人数を揃えてもらいたかった (社会人)
- この企画をして様々なことを学ぶことができましたが、もう少し型にはまらない、このような機会にしかできないことを追求してみるのも面白そうだと感じたためです (学生)
- 企画の考案など、やることの分担が偏っていたため大変だった (学生)
- スケジュールの調整と作業の役割分担が難しかった (学生)
- 活動期間が短かったためアーバンデザインウィークまでに仕上げるのが大変だったが、満足のいくパンフレットを作成することができ達成感を味わうことができたから (学生)

やや満足していない 回答者の満足度の理由 (N=1)

- グループメンバーの予定がなかなか合わず、企画内容や準備等に時間が足りないと感じました。(社会人)

グループ活動(企画の検討・実施)については、「たいへん満足している(10%、N=1)」、「やや満足している80%、N=8」という高い満足度を得た。一方で、「やや満足している80%、N=8」回答者の一部や、「やや満足していない(10%、N=1)」回答者の自由記述にもあるように、グループ内のスケジュール調整や作業分担がうまくいかなかったと感じた回答者も一定数いる。

受講前後で、自身に起こった変化 (N=10)

- 松山のことをもっと知りたいと思うようになった。また、まちには文字や写真ではわからない歴史があるということを知り、まちに何を残すべきかを考えるようになった(社会人)
- たくさん気づきができること。企画途中のアドバイスや進捗報告会の大切さ(軌道修正や企画をよりよいものにできるため)。(学生)
- 以前は、もっと活用できるのに…と感じる場所があっても、そう思うだけで終わっていたが、企画や提案をすると何かの機会を通して実現され、それが波及していくのではないかと感じるようになった(学生)
- 人々の記憶や大事にしてきたものなど、街の文脈を掘り起こし、まちづくりに反映していきたいと感じた(社会人)
- 知らなかったお店を知ることができた(学生)
- 松山市の新たな魅力を見つけることができ、受講前より松山市が好きになりました(社会人)
- 地域ごとの特色を感じながら、町を散歩するのが好きになりました(社会人)
- 学生の方の考え方やミュージアムという視点からみるまちづくりなど、自分にとって新しい考え方を知るともいい機会となりました。今までの自分とは違う見方でまちを見ることを意識するようになりました(社会人)
- まちづくりについて以前よりも具体的に考えられるようになったと感じます。普段のちょっとした中でも地域資源に当たるとは、この取り組みは色々な効果があるのではないかと感じるようになりました。まちづくりに関する知識も目に留まるようになりました。また、実際に経験したことで街づくりに関わる楽しさを感じました。また体験したいと強く思うようになりました(学生)
- 松山についてあまり知らなかったが、スクール受講後松山の地域資源や地域性について興味を持つようになった。松山のまちづくり活動にもっと携わりたいと思うようになった(学生)

まとめ

アンケート調査に回答した受講生たちはおおむね満足していること、そしてその理由と今後に向けての改善点や課題を把握することができた。

まず、おおむね満足している理由については、「開催時期(8-11月)」が大学生の夏休み期間(8-9月)に被り、作業等がおこないやすかったことや気候の良い時期(10月)に企画を実施できたことが評価されている点があげられる。今後、開催時期を設定する際の参考となる結果が得られた。また「受講の内容・方法」についても、受講方法を複数設けたことや、アーカイブ動画を視聴可能にした点等が評価されており、今後も欠席者や対面での参加が難しい受講生が取り残される状況とならないよう運営することが必要であろう。

一方で、「開催期間(約3か月間)」と「グループ活動(企画の検討・実施)」は、改善の余地がある。いずれかの項目に満足していないと回答した回答者は、その理由として、主に企画の準備期間不足やグループメンバーのスケジュール調整が難しかったことを挙げている。期間を長くするという単純な改善策もあるが、過去にUDCMプロジェクトに参画していた大学生の傾向を見る限り、期間が長くなると活動への興味関心や集中力が低下し、活動内容が間延びする可能性も否定できない。そこで、例えば活動初期に、過去の企画の進め方やスケジュールを学ぶプロセスを運営に盛り込むことや、フォロースタッフとして寄り添うUDCMスタッフが単なる助言や事務手続きの支援にとどまらず、一部のグループにて既に実行されていたようなプロジェクトマネージャーの役割を担いながら活動に奔走することも改善策の1つである。

また「受講前後で、自身に起こった変化」に寄せられたコメント「松山のまちづくり活動にもっと携わりたいと思うようになった」のような意向も把握された。UDCMではスクール活動を終えたグループの活動支援は既におこなっているが、今後は個人での関わり方など、まちへの多様な関わりしるのデザインが、まちづくりに資するプログラムデザインとしての課題の1つとなる。



全体トーク後の集合写真（上段 9/4、下段 9/11）

(4) 都市回遊型社会実験『urban design week.』

1) 概要

『urban design week.』(以降「UDweek.」とする)は、アーバンデザイン・スマートシティスクール松山の活動プラン実施と松山スマートシティプロジェクトのフィールド実証実験が連動した都市回遊型の社会実験である。受講生やプロジェクトメンバーたちが、市内の各敷地での豊かな空間と機会(プログラム)づくり、それらをつなぐ車両(モビリティ、愛称: MATSUMOBI)運行に取り組む。都市の魅力・課題と向き合い、これからのまちについて参加者と共に考えることを目的にしている。

2022年1月の初開催を目指していたが、前述のとおりCOVID-19の影響により2021年度内の開催を見送り、2022年10月に初開催となった。

次項以降にて、2022年10月に実際に開催した際の体制や内容、開催結果を報告する。なお、松山スマートシティプロジェクトメンバーが取り組んだMATSUMOBI運行をはじめ、フィールド実証実験の詳細等については、スマートシティの章にて報告する。



2022年10月開催テーマ画像

2) 実施体制

UDweek.の内容は、『プログラム』と『モビリティ(MATSUMOBI)』の2つに分けられる。

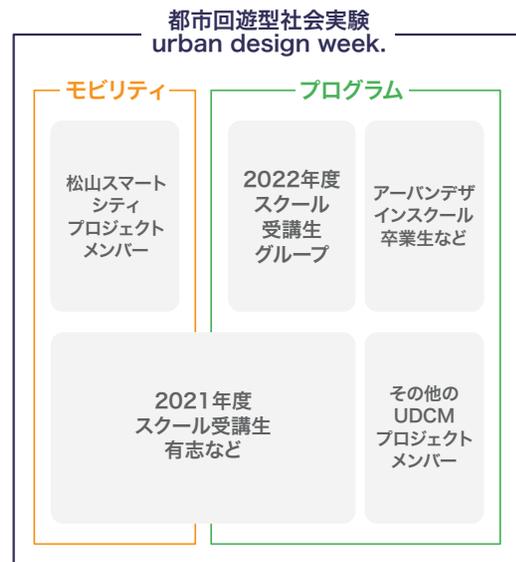


図-2 実施体制

上図のとおり、2022年10月開催時の『プログラム』は「2022年度受講生グループ」(後述①②⑧)、「2021年度スクール受講生有志など」(後述③⑤⑨)、「アーバンデザインスクール卒業生など」(後述⑥)、「その他のUDCMプロジェクトメンバー」(後述④⑦)によって実施されるものである。また『モビリティ(MATSUMOBI)』の運行とそれに関する調査分析については「松山スマートシティプロジェクトメンバー」と「2021年度スクール受講生有志など」が連携して取り組んだ。

3) 事前広報(情報発信)

UDweek.開催についての事前広報は、主に次の3つの方法でおこなった。

1. SNS (Instagram、Twitter、facebook)
2. 折込チラシ(愛媛新聞朝刊)
3. UDSC スクール関係者等への声かけ

1. SNS (Instagram、Twitter、facebook)

SNSでの事前広報については、それぞれの特徴にあわせて取り組んだ。Instagramの投稿は、興味関心を持ってもらえる投稿となるよう、プログラムの内容が垣間見えるアイテムや準備風景などの写真に重きを置いた。Twitterは、伝えたい情報を短文にまとめ、詳細などは、特設ウェブサイトのリンク添付のみとした。Facebookは、UDweek、や各プログラムが気になった方が、特設サイトに移動しなくても済むよう、イベント機能を活用し、各プログラムの詳細を別途投稿した。

2. 折込チラシ (愛媛新聞朝刊)

SNSでの広報は、UDCMやまちづくりに既に興味関心が高い方には情報が届きやすいが、そうでない方には届く可能性が低いと捉えている。そのため今回は、愛媛新聞朝刊にチラシを折り込むこととした。開催初日、松山市内中心部半径5km圏内（伊予郡松前町含む）に60,000部を折り込んだ。



折込チラシ

3. UDSC スクール関係者等への声かけ

前述以外の経路として、UDSC スクールでお世話になった講師や地域の方々、また普段からお世話になっているUDCM関係者、過去の個別プロジェクトにてお世話になった地域の方々など、受講生やUDCMスタッフから各プログラムのチラシやパンフレットセット（後述）などを送付しUDweek.に招待した。

4) 開催期間中の情報発信

UDweek.開催期間中の各会場の様子やプログラムの開催可否情報などは、主に次の2つの方法で案内した。

1. SNS (Instagram、Twitter)
2. 総合案内所 (UDCM もぶる ラウンジ)
3. 仮設掲示板 (JR 松山駅南側敷地)

1. SNS (Instagram、Twitter)

開催期間中、インターネットを活用した情報発信は、各プログラム会場にて、UDCMスタッフが直接スマートフォンやタブレット端末で動画中継するなど、最新情報を届けつつ、アーカイブできるよう、TwitterとInstagramに絞っておこなった。

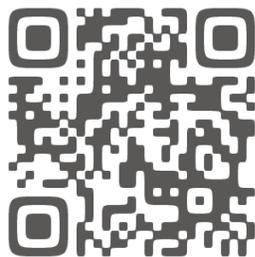
毎日、開催されるプログラムの組み合わせなどが異なっていたため、毎朝、当日の開催プログラムの概要について、TwitterとInstagramにて発信した。また、屋外でのプログラムは天候の状況によっては中止や内容変更の可能性があったため、天候などにより中止や内容変更が生じる場合は、Twitterで発信する旨を、事前広報の際にお知らせし、印刷物等にもその旨を記載しておいた。またプログラム実施中の様子などは、Instagramのストーリー機能を活用して発信するとともに、ハイライト機能を活かし、動画を敷地別、開催日別でアーカイブした。

またUDCM『松山歴史まちあるきプロジェクト』のInstagramアカウントと連携した情報発信をおこなうことで、松山市内に点在して同時に開催される複数のプログラムの様子を発信し続けることができる体制をとった。何より、松山歴史まちあるきプロジェクト

のアカウントは、UDweek. アカウント開設前から独自の視点で松山のまちについての各種情報発信に取り組んでいたため、UDweek. アカウント単独で情報発信するよりも、多くの方に情報を目にしていただけたと考えた。



UDweek. の Instagram アカウント



UDweek. の Instagram アカウント
二次元バーコード

2. 総合案内所 (UDCM もぶるラウンジ)

対面での情報発信としては、まちづくり拠点であるUDCM もぶるラウンジ前庭に「総合案内所」を設け、毎日UDCMスタッフがプログラム案内やMATSUMOBIの乗り方、アンケート回答依頼など、直接、参加者に呼びかけをおこなった。また施設利用者や通行者など、UDweek. 参加を目的とした来訪者以外の方にも、参加の呼びかけや、開催主催の説明などをおこなった。



総合案内所開設の様子

また、総合案内所と各プログラム会場では、MAP付きUDweek. 全体パンフレットと、各プログラムのチラシ、参加者アンケート協力依頼カードがセットとなった「UDweek. パンフレットセット」を、参加者や通行者に配付した。加えて、総合案内所では、昨年度UDSCスクール受講生などが開発し、2022年1月開催のために準備していたアイテムを紹介する冊子「UDweek. アイテムブック」も配付し、今回は使用さ

れなかった3種類の手作りこたつなど、昨年度未開催となった際の受講生たちの思いを広めようと試みた。



パンフレットセット



アイテムブック (表紙)

3. 仮設掲示板 (JR 松山駅南側敷地)

陸の玄関口として多くの県外客や通勤通学者が行き交う JR 松山駅の南側敷地 (プロジェクト③開催場所であり、MATSUMOBI 停留所の近く) に、開催初日の朝から最終日まで、仮設の掲示板を設置させていただき、UDweek. の広報をおこなった。

なお、プログラム実施時以外はスタッフが常駐しないため、仮設掲示板を目にする人の数やその効果を測ることは、今回の運営人数では難しいと考えていたが、偶然にもプログラム④ (内容は後述) にご協力いた

いた外部のイラストレーターの方が、MATSUMOBI 乗車時に居合わせた県外からの来街者とのエピソードを、Instagram に投稿されており、そのときの様子を垣間見ることができた。



mit0519さん、他16人が「いいね!」しました

atomorish 23日まで、無料で市内を走っているモビリティバス (MATSUMOBI) に乗って、セキ美術館@道後へ、バスは、将来のモビリティサービスのかたちを検討する、というプロジェクトの一環。黄色いみかん箱が目印の停留所に行き、乗り場のQRコードを読み込んで、ちよいと入力すると、なんと! 5分もかからずバスがやって来てくれる! 乗りたいバスがどこを走っているかも、事前に地図で確認ができ (この地図はたっちゃん悪戦苦闘しながら作ったやつである) なかなか快

速石が結核療養中の正岡子規を呼び寄せ一緒に暮らしたという、愚陀仏庵の跡地も停留所の1つであった。

たまたま、東京から観光に来てるというおっちゃんとの、この停留所で一緒に。動きやすい、旅慣れた格好のおっちゃんからの、「ココって、MATSUMOBIの停留所です、よね?!」という会話からスタートし、話の流れで、言、築地のかんセンターで働いていた話になると、なんとおっちゃんは、かんセンターに20回近く入院を繰り返しながら闘病中だという。がんになって、やりたい事をやろう、行きたいところに行こうと決めて、色々いつらっしゃるそうなる。いろんな土地の話をしなが、バスを待ったが、普通の停留所では起きなかったであろう会話が、なんだか楽しかった。

モビリティバスの運行は、この日曜まで。セキ美術館のチケットも車内でもらえて芸術の秋も満喫コーストこじんまりとした室内で素敵な絵画が品よく待っています。エッチングとリトグラフがやっぱり素敵さ♪

イラストレーターさんの投稿

5) サイン計画およびデザイン

各プログラム会場の出入口や受付などの集合場所をわかりやすく参加者に伝えるために、サイン計画にも注力した。具体的には、下記3つのサインについてデザイン検討および制作をおこなった。

1. SNS (Instagram、Twitter、facebook)
2. 折込チラシ (愛媛新聞朝刊)
3. UDSC スクール関係者等への声かけ

1. 各プログラム会場サイン

会場サインを検討する上で重視したのは「(各プログラムのポスターや準備アイテムと喧嘩しない) シンプルさ」、「状況によりすぐに持ち運びできる軽さと見張っている人がいなくても安心する重厚さの切り替えができる」ことの2点である。

スクール TA と一緒に、他都市の芸術祭や展示企画などのデザイン事例のリサーチをおこない、各プログラムの準備物との兼ね合いから白いカラーコーンを各会場のサインとして採用した。

なお、頭部の丸型キャップ部分には「プログラム名称」、「全体概要パンフレットに載っているプログラム番号」、「開催日時」、「UDweek. ロゴ」を共通事項として記載した。屋外に設置する場合は、専用のコーンベツトを使用し、転倒防止を図った。



会場サイン全景



会場サイン設置の様子

2. モビリティ停留所サイン

停留所サインを検討する上で重視したのは、「MATSUMOBI 運転手や乗客がを見つけやすいよう視認性が高いもの」、「まちなかに置いたときに悪目立ちしないもの」、「5 日間ほぼ屋外に置きっぱなしにしても大丈夫な作り」、「停留所名や MATSUMOBI や UDweek. に関する情報を掲示できる」ことの4点である。

会場サイン同様、スクール TA と検討を重ね、地元住民にとっては見慣れた「収穫コンテナ (通称：みかんコンテナ)」を、「ウォータータンク」と組み合わせ「結束バンド」で固定した UDweek. オリジナル停留所サインを制作した。

なお、停留所サインには「停留所名」のほかに、「MATSUMOBI 呼び出し用二次元バーコード」、「MATSUMOBI 呼び出し手順」、「MATSUMOBI 路線図」、「プログラムの概要一覧」を掲示した。



停留所サイン全景



サインに掲示した二次元コードを読み取る参加者の様子



停留所サインに掲示した MATSUMOBI 路線図

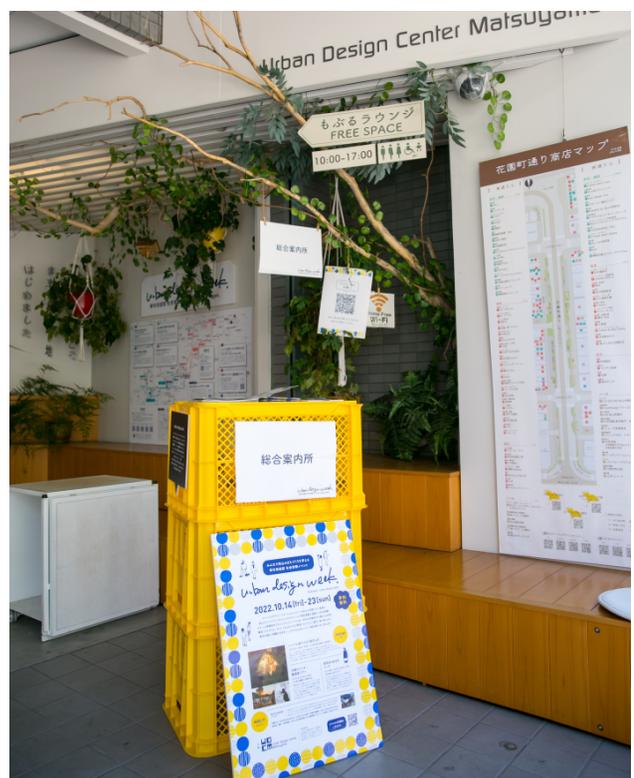


停留所サインに掲示したプログラムの概要一覧

3. 総合案内所サイン

総合案内所サインを検討する上で重視したのは、「視認性」と「UDweek.としての統一感（まとまり）」の2点である。

検討の結果、モビリティ停留所と同じ材料と構造で設えることとした。また総合案内所としては、みかんコンテナを用いたサインだけでなく、案内所を開設するUDCMもぶるラウンジ前庭全体を使って、UDweek.の情報発信をおこなう設えとした。具体的には、新聞折り込みチラシを引き延ばしたポスターや、UDweek.の各プログラム会場やMATSUMOBI路線が記載されたマップをA0サイズに拡大印刷したパネルなども掲示し、対応するUDCMスタッフ側も案内がしやすいように設えた。



総合案内所サインおよび全体の設え



urban design week
都市回遊型 社会実験 urban design week

ウィー・ミーツ・マツヤマ WE-MEETS-MATSUYAMA

urban design weekは、2022年1月の初開催を目指していましたが、直前にCOVID-19の感染状況が大きく変化したことを鑑み、開催を見送りました。

“未開催”となった1月のテーマは『マスクの向こうの風景』。2021年度のアーバンデザイン・スマートシティスクール受講生たちと、都市や地域で過ごす豊かな空間と機会を取り戻すためのさまざまなアクティビティや、次世代交通サービスの導入を目指したモビリティを準備していました。そして、皆さんに「都市を見つめるまなざしを覆っているマスクの向こうにある風景を、urban design weekをきっかけに、一緒に見に行きましょう」と呼びかけ、まちの魅力や課題と向き合う機会づくりと、それらの可視化による共有を試みようとしていましたが叶いませんでした。

それでも、スクール受講生たちと対話を続け、その機会を、映像制作を通してつくり出しました。4月からYouTubeで公開中の動画『未開催ツアー』です。さらに、urban design weekの初開催に向けて再出発するため、我々は新しい仲間を募集しました。2022年度のスクール受講生たちです。

PROGRAM

MAP	PROGRAM	DATE	PLACE
①	Memory Museum ～未来へ紡ぐ三津浜の記憶～	10/15[土] 16[日] 22[土] 23[日]	三津浜商店街内
②	まつやま銘店大解剖	10/14[金]～23[日]	UDCMもぶるラウンジ
③	松山駅前“仮設”芝生広場	10/23[日]	JR松山駅 南側敷地
④	歴史まちあるきトーク	10/14[金]～23[日]	UDCMもぶるラウンジ
⑤	いっぺん袋でぶらり坂さんぽ	10/15[土]	上人坂・坂下広場
⑥	夕焼けベンチ+裏道後ツアー	10/15[土]	上人坂・宝蔵寺
⑦	UDCMレクチャー	10/14[金] 17[月] 20[木] 21[金]	UDCMもぶるラウンジ
⑧	未来の中ノ川 水辺の癒し体験	10/16[日] 22[土] 23[日]	総合コミュニティセンターこども館前
—	なぞときウォークラリー今昔	—	アプリ上で開催

※開催スケジュールは変更になる可能性があります。各プログラムについてはカレンダーやInstagramを、当日などの直前情報についてはTwitterをご覧ください

裏面の二次元バーコードを読み取ってご覧ください →

PROJECT MEMBER

青柳 菜摘 / 浅子 佳美 / 東 賢吾 / 阿部 光 / 安倍 ひより / 石飛 直彦 / 井上 優花 / 伊藤 香織 / 今本 光 / 胡 光 / 円福寺 咲紀 / 大西 桃泉 / 大野 利恵 / 大野 正夫 / 大村 珠太郎 / 大山 雄己 / 大平 康治 / 岡田 直大 / 小川 大智 / 小川 真夢 / 奥村 敏仁 / 片岡 由香 / 桂川 大誓 / 川口 真沙美 / 河村 清美 / 北島 俊哉 / 木下 朋香 / 小林 里穂 / 崎山 久美子 / 佐々木 康弘 / 重松 建宏 / 四戸 秀和 / 芝原 貴史 / 清水 朱里 / 清水 凜 / 城野 彩乃 / 須賀 拓実 / 菅井 稜真 / 高市 龍介 / 高田 まつり / 瀧宮 桃子 / 竹内 仁美 / 武田 芽生子 / 竹原 悠花 / 太宰 誠 / 田中 一浩 / 谷 歩実 / 谷口 暢夫 / 田村 有衣莉 / 辻 早紀 / 土田 聖 / 寺田 基 / 徳永 佳世 / 富永 淳平 / 仲岡 光生 / 中出 舞 / 中野 靖子 / 西澤 岳冬 / 西澤 徹夫 / 橋本 美月 / 羽藤 英二 / 羽鳥 剛史 / 板東 ゆかり / 日野 順子 / 平岡 瑛二 / 平田 瑠 / 平塚 愛生 / 福島 利昭 / 福富 涼加 / 藤田 遼 / 細川 直央人 / 正岡 采瑠 / 増田 千哉 / 増橋 佳菜 / 松尾 悠馬 / 松村 暢彦 / 松本 亜子 / 松本 啓治 / 的場 風香 / 眞部 良輔 / 三谷 卓摩 / 村上 悠斗 / 森 純平 / 森田 俊光 / 八代 優志 / 柳田 恵利 / 山口 瑠南 / 山下 日菜子 / 山澤 満 / 山之内 崇 / 山本 千絵 / 弓立 真紀 / 横井 恭佑 / 吉田 英生 / 吉松 音々 / 力村 真由 / 和田 奈々 / 和田 留奈 / 渡邊 浩司 (五十音順)

全体パンフレット

week.

参加
無料

#udweek



2022年度スクール受講生たちは、歴史、地域資源、モビリティに着目し、自分たちなりの活動や表現をするために、調査や議論を重ねています。併せて、2021年度スクール受講生の有志たちも、初開催に向けて再始動しています。そんななかで生まれたのが、2022年10月開催の今回のテーマ『ウィー・ミーツ・マツヤマ WE-MEETS-MATSUYAMA』です。

一人一人が、自分の興味と向き合う中で、まちや地域と向き合うだけでなく、自分自身とも向き合っています。それは、併走しているスタッフたちも同じです。それぞれの向き合い方が表現となってアウトプットされたとき、そこにはきっと、まちや地域が混ざり合ったその人らしさと、まちらしさ、松山らしさが、プログラムとして表面化されることでしょう。

urban design week.を楽しむことを通して、まだ知らない松山のこと、当たり前になっている松山のこと、忘れていている松山のこと、いろんな松山に出会い、混ざり合うことができるのではないかと考えています。urban design week.をきっかけに、あなたの松山をみつめてみてください。そして、私たちに教えてください。

2022年10月。松山でお待ちしています。

MOBILITY

●MATSUMOBI

将来のモビリティサービスのかたちを検討するため、urban design week.のさまざまなプログラムをつなぐ車両(愛称:MATSUMOBI)を運行します。※MATSUMOBIは、松山スマートシティプロジェクトのフィールド実証実験の一部として運行されます。

- 運行日/2022年10月19日(水)~23日(日)までの5日間
- 運行時間帯/9:00-13:00と14:00-18:00
- 料金/無料 ●利用者/どなたでも利用可能(ただし乗車時アンケートへの回答にご協力ください)



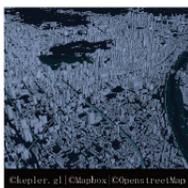
MATSUMOBIの
詳細はこちら



運行ルート&利用方法については裏面をご覧ください →

●松山スマートシティプロジェクト

既成市街地の更新や次世代都市サービスの導入をモデルケースとして、データ駆動型都市プランニングに基づいた歩いて暮らせるまちづくりの実現を目指している。公民学が連携する松山スマートシティ推進コンソーシアムにより、民間企業や大学が持つ技術・情報等を活用した取り組みを行っている。



●urban design week.

アーバンデザイン・スマートシティスクール松山の活動プラン実施と松山スマートシティプロジェクトのフィールド実証実験が連動した都市回遊型社会実験。スクール受講者やプロジェクトメンバーたちが、市内各地での豊かな空間と機会(プログラム)づくり、それらをつなぐ車両(モビリティ、愛称:MATSUMOBI)運行に取り組みます。都市の魅力・課題と向き合い、これからのまちについて参加者と共に考えます。

●アーバンデザイン・スマートシティスクール松山 (主催:UDCM 後援:松山市)

地域資源を生かし、新たな公共空間の構想と計画を実践する市民参加型学習プログラム。2021年度は41名(学生24名、社会人17名)、2022年度は19名(学生11名、社会人8名)の受講生たちが、オンライン・オフラインを織り交ぜながら計画・準備を進めました。



●松山アーバンデザインセンター(UDCM)とは

「公・民・学」が連携するまちづくり組織です。将来ビジョンの検討や都市空間のデザインマネジメント等のハード面、まちづくりの担い手育成やプログラムデザイン等のソフト面、双方のアプローチから総合的なまちづくりに取り組んでいます。現在は花園町通りに拠点を構え、事務所に併設したフリースペース「もぶるラウンジ」の運営や公共空間の利活用、スマートシティに係わる研究・調査、実践活動をおこなっています。



注意事項

- マスクの着用などCOVID-19感染拡大防止策にご協力をお願いします
- 体調がすぐれない方(発熱、咳など)は、参加をお控えください
- 人数制限など、COVID-19感染拡大防止の観点からスタッフの指示があった場合はご協力をお願いします
- 天候やCOVID-19感染拡大状況等に応じて、延期や中止、内容の変更などが発生する可能性があります。予めご了承ください
- スタッフは、本社会実験の記録のために写真及び動画を撮影します。予めご了承ください

UDweek.プログラム以外のまち情報

まつやまアートカレッジ アートと福祉学科 10月19日(水) 19:00~20:40
まつやまアートカレッジ 現代アート入門学科 10月21日(金) 19:00~20:40
愛媛大学(社会共創学部本館/総合研究棟2)
[主催]松山ブンカ・ラボ @bunkamatsuyama

道後オンセナート ハダカヒロバ秋まつり 10月10日(月・祝)~23日(日)
道後 [主催]未来へつなぐ道後まちづくり実行委員会 @dogoosenart

道後にきたつの路 日曜朝市 湯あがり市 10月23日(日) 8:00~12:00
道後(にきたつの路) [主催]道後にきたつの路日曜朝市実行委員会

堀之内マルシェ 10月11日(火)~23日(日) 10:00~15:00
堀之内(東堀端寄り) [管理・運営]二之丸堀之内管理事務所

花園町通り産直市 10月15日(土)、22日(土) 10:00~14:00
花園町通り [主催]花園まちづくりプロジェクト協議会 @matsuyamarche

お城下マルシェ花園 10月16日(日) 10:00~15:00
花園町通り [主催]花園まちづくりプロジェクト協議会 @ojokamarche

まつやま花園日曜市 10月23日(日) 10:00~15:00
花園町通り [主催]花園みんなで作るプロジェクト実行委員会 @hanazonodori

伊予弁紙芝居 10月22日(土) 14:00~16:00
UDCMもぶるラウンジ [主催]信子おばちゃん

UDCM
学生スタッフ
企画あり

ネット(概要面)



1 Memory Museum

～未来へ紡ぐ三津浜の記憶～
10/15[土] 16[日] 22[土] 23[日] 10:00～17:00
三津浜商店街内

戦災を免れた三津浜には、私たちがまだ知らない歴史が残っています。活気と人情が溢れるまち三津浜の歴史や人々の記憶を、文字や写真、映像などによる展示とともに伝え、未来の三津浜へと紡いでいきます。私たちが感じた新しい三津浜の姿をご覧ください。

3 松山駅前“仮設”芝生広場

10/23[日] 11:00～18:00
JR松山駅 南側敷地 ※小雨決行

「えきまち時間を豊かに 待ち時間を豊かに、短く感じられる場所」をコンセプトとした仮設の芝生広場を、JR松山駅の南側敷地に1日限定でつくります。約60㎡の芝生広場には、ハンモック、テント、テーブル、クッション、お絵描き黒板、絵本や図書等を用意し、誰もが気軽に立ち寄り、リラックスできる空間づくりを目指します。

2 まつやま銘店大解剖

10/14[金]～23[日] 10:00～17:00
UDCMもぶるラウンジ

松山の食の魅力は、必ずしも名物料理だけではありません。地元の人に関して集まった銘店から見えてきたのは、店主やお店にかかわる人たちの個性と歴史。店主へのインタビューと推薦者のエピソードを紐解くことで、銘店を大解剖し、その魅力を映像や展示でお伝えします。

4 歴史まちあるきトーク

10/14[金]～23[日] 10:00～17:00
UDCMもぶるラウンジ

松山のまちの歴史を探りながら、動画制作やSNSでの情報発信を日々おこなっている「松山歴史まちあるき」プロジェクト。今回は、坂の上の雲ミュージアム総館長の松本啓治氏との歴史トーク映像などを展示。まちの変遷や松山の交通、正岡子規たちとまちについてなど、現在のまちを歩くだけではわからないことを学ぶ展示です。

PROGRAM

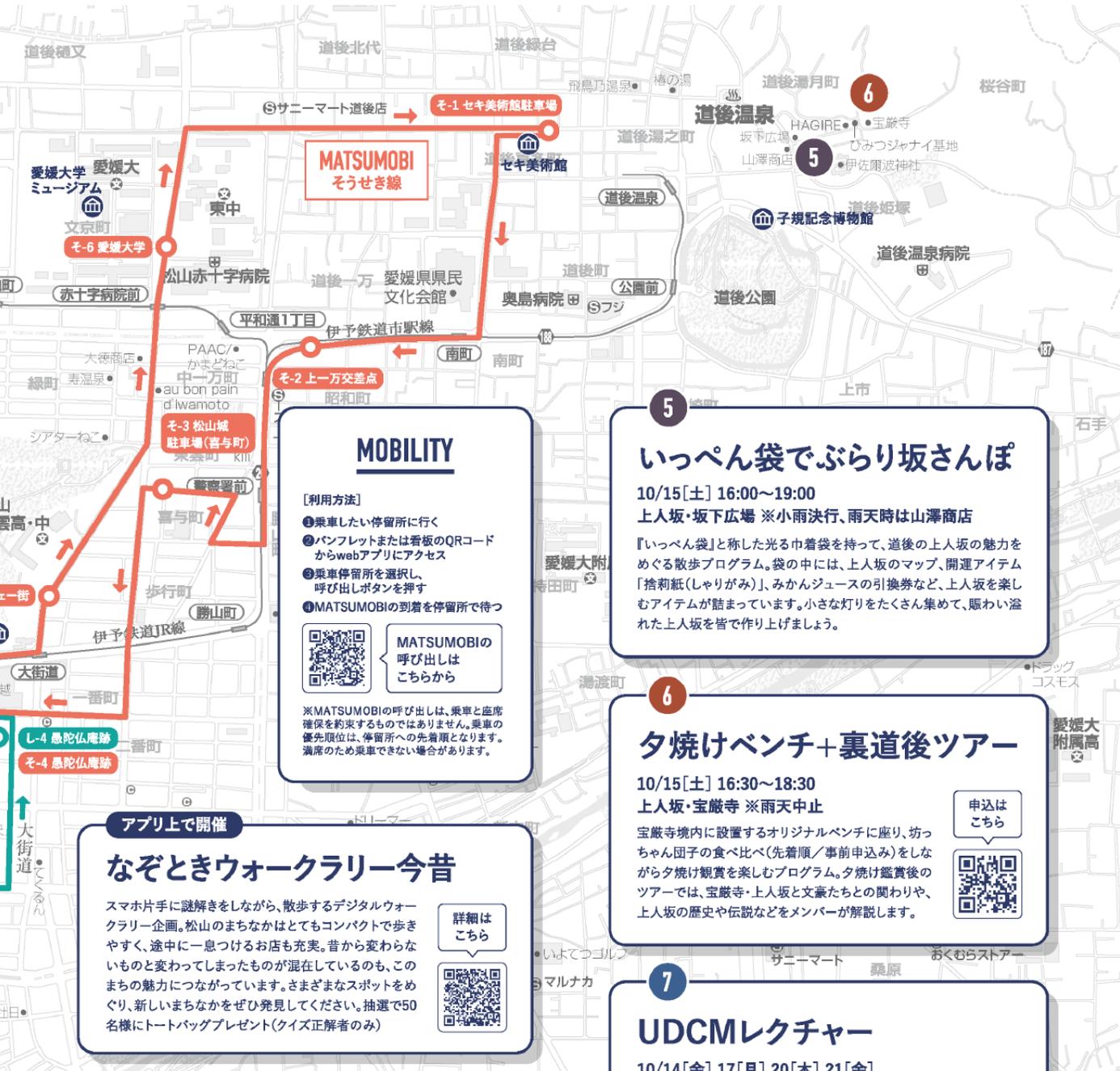
- 開催スケジュールは変更になる可能性があります。
- 各プログラムについてはカレンダーやInstagramを、当日などの直前情報についてはTwitterをご覧ください
- アンケートのお願い／松山のいろいろな側面に出会いながら、松山というまちやそこに生きる人びとを身近に感じていただきたいです。ぜひ、皆さまが感じたことなどを、私たちに教えてください。

特設サイト	カレンダー	Instagram	Twitter	アンケート

UDweek.プログラム以外にも、まちには素敵な企画や学びの場所があります。今年のスクール活動テーマに関連し、ミュージアムを地図上でご紹介。ぜひ、お立ち寄りください。



全体パンフレット



MOBILITY

【利用方法】

- ①乗車したい停留所に行く
- ②パンフレットまたは看板のQRコードからwebアプリにアクセス
- ③乗車停留所を選択し、呼び出しボタンを押す
- ④MATSUMOBIの到着を停留所で待つ

MATSUMOBIの呼び出しはこちらから

※MATSUMOBIの呼び出しは、乗車と座席確保を約束するものではありません。乗車の優先順位は、停留所への到着順となります。満席のため乗車できない場合があります。

5

いっぺん袋でぶらり坂さんぽ

10/15[土] 16:00~19:00
 上人坂・坂下広場 ※小雨決行、雨天時は山澤商店

『いっぺん袋』と称した光る巾着袋を持って、道後の上人坂の魅力をめぐる散歩プログラム。袋の中には、上人坂のマップ、開運アイテム「捨刺紙(しゃりがみ)」、みかんジュースの引換券など、上人坂を楽しむアイテムが詰まっています。小さな灯りをたくさん集めて、賑わい溢れた上人坂を皆で作ら上げましょう。

6

夕焼けベンチ+裏道後ツアー

10/15[土] 16:30~18:30
 上人坂・宝蔵寺 ※雨天中止

宝蔵寺境内に設置するオリジナルベンチに座り、坊っちゃん団子の食べ比べ(先着順/事前申込み)をしながら夕焼け観賞を楽しむプログラム。夕焼け鑑賞後のツアーでは、宝蔵寺・上人坂と文豪たちとの関わりや、上人坂の歴史や伝説などをメンバーが解説します。

申込はこちら

7

UDCMレクチャー

10/14[金] 17[月] 20[木] 21[金]
 UDCMもぶるラウンジ

UDCMのことやurban design week.について紹介するレクチャー、UDCMディレクターが30分程度、お話しさせていただきます。事前申込制。空きがあれば当日飛び入り参加も可能ですが、なるべく事前にお申込みください。

申込はこちら

8

未来の中ノ川 水辺の癒し体験

10/16[日] 22[土] 23[日] 10:00~15:00
 総合コミュニティセンターこども館前

松山中心部には、日常生活や散策路・憩いの場として活用される水辺空間が少ないのが現状です。そこで、江戸時代には水上輸送に用いられていた「中ノ川」を対象に、今は見過ごされている水辺の癒し空間を演出します。親子で花や風船などを使って、それぞれのイメージする未来の水辺をつくりながらゆっくりと流れる時間を一緒に楽しみましょう。

アプリ上で開催

なぞときウォークラリー今昔

スマホ片手に謎解きしながら、散歩するデジタルウォークラリー企画。松山のまちなかにはとてもコンパクトで歩きやすく、途中に一息つけるお店も充実。昔から変わらないものと変わってしまったものが混在しているのも、このまちの魅力につながっています。さまざまなスポットをめぐる、新しいまちなかをぜひ発見してください。抽選で50名様にトートバッグプレゼント(クイズ正解者のみ)

詳細はこちら



スポット (マップ面)

3) プログラム

2022年10月14日～23日の間に、次の9つのプログラムが松山市内各所にて開催された。順に開催概要と結果を個別に記す。

- ① Memory Museum ～未来へ紡ぐ三津浜の記憶～
- ② まつやま銘店大解剖
- ③ 松山駅前“仮設”芝生広場
- ④ 歴史まちあるきトーク
- ⑤ いっぺん袋でぶらり坂さんぽ
- ⑥ 夕焼けベンチ+裏道後ツアー
- ⑦ UDCM レクチャー
- ⑧ 未来の中ノ川 水辺の癒し体験
- ⑨ なぞときウォークラリー今昔

なお、2022年度スクール受講生が実施した①②⑦の開催結果については、本章(3)2022年度スマートシティスクールの活動 4)各グループの実施内容にて報告済みのため省略、④については、5章(1)にて報告しているため省略する。

① Memory Museum ～未来へ紡ぐ三津浜の記憶～

2022年度スクール受講生グループ「歴史班」による展示企画である。週末のみの4日間で延べ229名が来場し、来場者からヒアリングした三津浜でのエピソードや記憶が30以上集まり、またそのエピソードを通じて来場者同士の交流が促され、地域デザインミュージアムの可能性を感じさせる企画となった。(結果については省略)

[概要] 戦災を免れた三津浜には、私たちがまだ知らない歴史が残っています。活気と人情が溢れるまち三津浜の歴史や人々の記憶を、文字や写真、映像などによる展示とともに伝え、未来の三津浜へと紡いでいきます。私たちが感じた新しい三津浜の姿をご覧ください。

会期：2022年10月15日(土)、16日(日)、
22日(土)、23日(日)

会場：三津浜商店街内空き店舗

時間：10時～17時

主催：2022年度スクール受講生 歴史班



企画フライヤー



開催当日の様子

②まつやま銘店大解剖

2022年度スクール受講生グループ「地域デザイン班」による展示企画である。14日間で110名が来場。他グループよりメンバー人数が多いことを活かし、「動画」、「展示」、「パンフレット」の3企画を実施した。(結果については省略)

〔概要〕 松山の食の魅力は、必ずしも名物料理だけではありません。地元の人に聞いて集まった酪店から見てきたのは、店主やお店にかかわる人たちの個性と歴史。店主へのインタビューと推薦者のエピソードを紐解くことで、銘店を大解剖し、その魅力を映像や展示でお伝えします。

会期：2022年10月14日（金）～23日（日）

会場：UDCM もぶるラウンジ

時間：10時～17時

主催：2022年度スクール受講生地域デザイン班



動画上映の様子



推薦者エピソードの展示



制作したパンフレット

2022
まつやま
銘店
大解剖
~urban design week~

10/14金 ~ 10/23日
10:00 ~ 17:00

参加無料
申込不要

松山の食の魅力は、必ずしも名物料理だけではありません。
地元の人に聞いて集まった酪店から見てきたのは、店主やお店にかかわる人たちの個性と歴史。
店主へのインタビューと推薦者のエピソードを紐解くことで、銘店を大解剖し、
その魅力を映像や展示でお伝えします。松山の銘店の秘密を知りたいあなたのご来場お待ちしております。

展示内容

- まつやま銘店マップの推薦者エピソードの展示
- あなたのおすすめスポットを募集します！
urban design weekの期間中、展示会場で、
あなたがおすすめしたい松山のスポットやお店を
募集しています！あなただけのエピソードとともに
一緒にまつやま銘店マップを作りましょう。
- 厳選したお店の店主インタビューの動画配信
- おすすめスポットを載せたパンフレットの配布 等

展示会場
松山アーバンデザインセンター もぶるラウンジ
愛媛県松山市花園町4-9 用田ビル1階

注意事項
イベントにご参加いただく皆様には、マスクの着用、
手指の消毒等、新型コロナウイルス感染症対策へ
のご協力をお願いいたします。
また、室内のウイルス感染状況や天候によっては、
開催中止となる場合もございます。
その場合は、urban design weekの twitter
(@ud_week) や SNS でお知らせいたします。

twitter
@ud_week

主催 アーバンデザイン・スマートシティフェスティバル2022 地域デザイン班
後援 松山アーバンデザインセンター、松山市

企画フライヤー

く生まれ変わる松山駅の賑わいにも繋げていくために、「駅待ち時間」というコンセプトを掲げ、後述の活動を経て、企画したプログラムの運営・効果検証を行いました。



JR 松山駅の様子

2. 活動内容

はじめに、駅利用者の方々と住民の皆さまのニーズを把握するため、メンバー全員で松山駅のフィールドワークを行いました。その中で、乗り継ぎの際に接続の関係で待ち時間が発生してしまうこと、しかし店舗やベンチが少ないため人々の体感の待ち時間を長いこと、一方で駅舎の南側に現在使用されていない工事中の敷地があること等を発見しました。

次に、これら発見を踏まえて、メンターの芝原さんとUDCM板東さんにご指導いただきながら話し合いを重ねました。その結果、後述のような、誰もが気軽に立ち寄り、自由に使うことができる“駅前芝生広場”を仮設することに決定しました。

3. 企画実施

当広場のこだわりは、休憩はもちろん、団欒・ランチ・昼寝・読書等利用者の背景に応じて、多様な利用用途がある点です。駅利用者と市民の方々が自然と集い、地域のコミュニティとして機能するよう工夫しました。また、今回は1日限定ということで、広場内にご意見ボードを設置したり、運営スタッフがプログラム参加者に直接お声がけをさせていただいたりして、地域の皆さまの声を収集することにも力を入れました。

広場でおこなった具体的なプログラムの内容は、次の3つです。

1 くつろぎハンモック & クッション

休日のキャンプをイメージし、松山青少年センターとUDCMからお借りしたハンモック2体と大型のクッション10個を芝生広場に無造作に設置しました。一組当たりの滞在時間が長かったことから、これらの備品は、心地の良い空間を作る役割を果たし、家族団欒の助けとなっていたことが分かります。また、初めてハンモックに乗られる方が多く、写真撮影を楽しむ姿や子どもから大人までの無邪気な笑顔が見られました。



ハンモックで遊ぶ親子の様子

2 絵本もあるよ！小さな図書館

小さな図書館のテーマは、旅行・まちづくり・食・松山の歴史など「人々と豊かな暮らし」です。また、写真とイラストが豊富に載っている書籍であることを条件とし、来場者が短時間で楽しむことができるように工夫しました。特に、お父さまがレジャーに関する本を読み、ご家族に週末のお出かけ先を提案されている姿が目立っていました。昼過ぎの時間帯には、プログラム参加者による即興の読み聞かせが始まり、芝生広場で穏やかな時間が流れていました。加えて、来場者が自由におすすめの本を書き込むことができる黒板を設置し、秋の読書の啓発を行いました。



参加者による読み聞かせの様子

3 落ち葉プールでどんぐり探し

庭師の巴園・小野豊さんに、お子さまを対象に大きな落ち葉のプールで、どんぐり探しができるイベントを行っていただきました。幼児から小学生の子どもたちは、落ち葉の形や色、手触り、踏み心地などを楽しみながら、秋を体感していました。最後に子供たちは、それぞれが落ち葉プールの中から見つけたお気に入りのどんぐりや松ぼっくりを袋いっぱいを持ち帰っていました。



落ち葉プールの様子

4. 成果と課題

開催当日のは11時から7時間、芝生広場を仮設・開放し、延べ134名にご参加いただきました。開場時刻からファミリー層を中心に来場者が途切れることなく、松山駅の南側に賑わいを見せました。中には、お子様の要望で1日に2回以上来場される親子も数組いらっしゃいました。

更に、会場から「こんな場所が毎日あったらいいのに」や「子どもが大喜びしており、とても良いイベントだった」という声が多数聞こえたことから、人々が駅で豊かな時間を過ごすという目標を達成することが出来たのではないかと考えます。

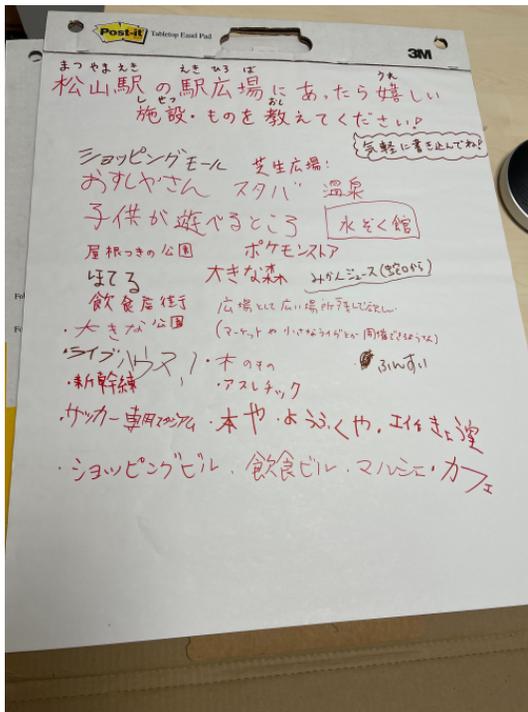
また、本プログラムに関するアンケートを、Googleフォームを利用して行い、10名にご協力いただきました。本プログラムについて「大変満足」・「まあまあ満足」という回答が80%、今後このような取り組みがあったら参加したいという回答が90%を占める結果でした。

今後の課題としては、ファミリー層以外の方も参加しやすい雰囲気を作ることが挙げられます。今回、中高生や子育て中ではない方々の参加が少なかったです。改善策としては、学生や主婦の方がターゲットのプログラムも同時開催する、駅前芝生広場の面積を広げて静かにくつろげるブースを作るなどが考えられます。

5. 今後の展望

本プログラムを通じて、参加者の満足度や感想から松山駅の駅広場の需要をより認識する事ができました。例えば、芝生広場に設置したご意見ボードの「松山駅にあったら嬉しい施設・ものは何ですか?」という問いに対して、大きな公園・広い場所・大きな森・アスレチック・サッカー専用スタジアム等広場や自然に関する回答が多数ありました。また、人工芝が敷かれていることにより、地べたに直接座ることが出来る、赤ちゃん連れの家族が全員で楽しむことが出来るという感想から、芝生は広場を利用する人々の安心感に繋がっていることが分かりました。

将来、新しく生まれ変わった松山駅に駅広場が登場すれば、松山市民を始めとする多くの人々に愛される場所となるのではないのでしょうか。



参加者が書き込んだ松山駅広場にあたら嬉しいもの



広場全景

⑤いっぺん袋でぶらり坂さんぽ

2021年度スクール受講生グループ「道後グループ」が提案し、有志メンバーで実現に向けて取り組んだ企画である。1日限定の上人坂企画に130名が参加。光る巾着袋を手にした参加者が上人坂を闊歩する風景を生み出した。また、2018年度アーバンデザインスクール卒業生が立ち上げたNPO団体イトコ道後による宝蔵寺を中心とした企画（後述『夕焼けベンチ+裏道後ツアー』）と連携したことにより、対象とした上人坂のポテンシャルを地元住民にも知ってもらう重要な第一歩を踏み出したことは、本企画の成果である。

【概要】『いっぺん袋』と称した光る巾着袋を持って、道後の上人坂の魅力をめぐる散歩プログラム。袋の中には、上人坂のマップ、開運アイテム「捨莉紙（しゃりがみ）」、みかんジュースの引換券など、上人坂を楽しむアイテムが詰まっています。小さな灯りをたくさん集めて、賑わい溢れた上人坂を皆で作ってあげましょう。

会期：2022年10月15日（土）

会場：道後・上人坂（坂下広場）

時間：16時～19時

主催：2021年度スクール受講生 道後グループ有志

主催：2021年度スクール受講生 松山駅グループ有志



準備の様子



企画フライヤー

企画実施に参加した、2021年度スクール受講生グループ「道後グループ」有志メンバーによる活動レポートにて、本企画の詳細を報告する。

【活動レポート】

道後グループ（愛媛大学4年 安倍ひより）

1. 企画の背景と目的

道後は愛媛県有数の観光地として、道後温泉本館を中心に多くの観光客で賑わっている。しかし、道後温泉本館改修工事や新型コロナウイルスによる観光客数の減少、道後全体での回遊性が乏しいことや、多くの歴史的観光資源が存在しているものの、魅力を十分に引き出すことができていないことなど、様々な課題も存在している。そこで、私達はそれらの課題を解決すべく、上人坂エリアに着目し、企画を検討した。

上人坂は、昔、宝厳寺の門前町として人が集まり、その後は遊郭のある通りとして、活気に満ちていたエリアである。しかし、現在は昔の印象とは異なり、人通りが少なく、駐車場や空き地が目立っている。一方で、宝厳寺の再建やひみつジャナイ基地の設置、坂下広場の整備、アトリエや飲食店の開業、地域住民による様々な活動の活発化など、今後、道後地区においてさらに発展していくエリアでもある。道後全体においても、「道後温泉活性化計画」の重点エリアとして上人坂エリアを掲げており、上人坂の整備による観光客の回遊性向上を狙い、道後温泉本館に寄与した観光の脱却を図っている。

そのような上人坂エリアの賑わいを取り戻し、現在道後が抱える課題の解決に繋がたいという思いから、道後グループでは、「いっぺん袋でぶらり坂さんぽ」というプログラムを実施した。この企画は、「いっぺん袋」という光る袋を持って夜の上人坂を歩いてもらうというものである。また、ただ坂を歩いてもらうだけでなく、まちあるきを楽しんでもらえるような仕掛けを用意し、既に存在している道後の観光資源について知ってもらえるような工夫も施した。これらの取り組みを通して、多くの人に上人坂エリアの魅力を知ってもらい、観光客のみならず、地元の人々にも参加していただくことで、上人坂の新しいイメージ形成を行おうと考えた。



夜の上人坂の様子（坂上から）

2. いっぺん袋とは

いっぺん袋とは、道後の観光資源を詰めた光る袋である。現在の道後には既に様々なマップなどの観光資源が存在するが、それらを1つの袋にまとめることで、よりまちあるきを楽しんでもらうことができるのではないかと考えた。今ある道後の観光資源を有効に活用し、多くの人に知ってもらいたいという思いが込められており、今後道後のまちあるきにかかせないアイテムとして定着できるようなものを目指した。いっぺん袋という名称は、宝厳寺で生まれた時宗の開祖である、一遍上人（いっぺんしょうにん）の「いっぺん」から名付けた。

●いっぺん袋の素材

いっぺん袋の素材を決めるにあたって、リネン、コットン、オーガニック、不織布など、様々な素材の袋の中に実際にライトを入れて、どのような光り方になるのかを実験した。結果的に、手に馴染みやすく、光り方がイベントのイメージと一番合致したコットン素材のものを使用することにした。

●いっぺん袋のデザイン

いっぺん袋の表面には、道後グループの安倍が一遍上人をイメージして作成した消しゴムハンコを製作し、メンバーで手分けして押印した。上人坂らしさに加え、つい手にとりたくなるような、可愛らしさも兼ね備えた袋になるように意識したデザインとした。



いっぺん袋（最終デザイン）

●いっぺん袋の中身

いっぺん袋の中には、2021年に道後温泉開運めぐりに新たに加わった開運アイテムである捨莉紙（しゃりがみ）、知られざる裏道後ツアーで使用されている、上人坂周辺の今と昔の情報が裏表に記載された地図、みかんジュースの引換券、袋を光らすための小型のLEDライトを入れた。



LEDが袋の中で光る様子（最終デザイン）

3. 企画内容

2022年10月15日（土）に「いっぺん袋でぶらり坂さんぽ」を開催し、130名の方に参加していただいた。開催時間は16時～19時で、16時からいっぺん袋の配布、16時30分からみかんジュースの引き換えを開始した。

企画内容は、道後の観光資源やマップ、光源等を詰めた「いっぺん袋」という光る袋を持って、夜の上人坂を歩いてもらうという内容である。いっぺん袋は合計130袋用意し、配布は、道後温泉本館近くの「振鷺亭」、上人坂の入り口にある「坂下広場」の2箇所でおこなった。袋の配布場所には、事前に道後温泉事務所の方に教えていただいた、上人坂付近の歩行者通行量が多い時間帯である14時台からイベントの告知看板を設置することで、プログラム告知をおこなった。告知看板は、道後グループのメンバーである和田が作成したフライヤーを拡大印刷し、A1サイズのボードに貼り付けたものをイーゼルに設置した。イーゼルはストリングライトで飾り付けを行い、通りがかった人の目に留まるような工夫を施した。事前に告知を見て参加していただいた方々に加え、当日たまたま通りがかった方

にも興味を持っていただくことができ、袋の配布からおおよそ1時間ほどで、用意していた130袋すべての配布を終了した。また、ただ袋を持って上人坂を歩いってもらうだけでなく、坂を歩くのが楽しくなるような仕掛けも3つ用意した。



ストリングライトで飾り付けされた告知看板

1 捨莉紙の体験

捨莉紙とは、一遍上人の捨てる思想を現代風にアレンジし、ネガティブな考えや捨てたい心を捨莉紙に書き、宝厳寺境内の手水舎で水に溶かして流すもので、道後温泉誇れるまちづくり推進協議会が2013年から主催している住民参加型プロジェクト「道後温泉開運めぐり」に、2021年に新しく加わったアイテムである。宝厳寺の歴史を活かしたとても魅力的なアイテムであるが、始まってから時間が経っておらずあまり周知が進んでいない。そのような現状を踏まえ、今回のプログラムの参加者に捨莉紙を体験してもらうことを通して、捨莉紙の存在に加え、宝厳寺や一遍上人の歴史についても知ってもらおうと考えた。また、プログラム時間が夜であったため、捨莉紙を溶かす手水舎のライトアップもおこなった。手水舎の内部は手元が見えるよう潜水ライトで照らし、手水舎の周辺もストリングライトを使用して飾り付けをおこなった。

2 上人坂に点在する俳句看板等のライトアップ

上人坂に点在する、正岡子規が詠んだ花にまつわる俳句の看板や、坂にある主要な看板について、投光器を使用しライトアップをおこなった。投光器の光の色が白色だったため、黄色を印刷したトレーシングペーパーを光の部分に貼り付け、イベントのイメージに

合わせて温かみのある黄色い光で照らした。それらの看板を見つけながら歩くことで、さらに坂を歩くのを楽しんでもらえるのではないかと考えた。



捨莉紙



手水舎で捨莉紙体験する参加者の様子

3 みかんジュースの配布

新しく上人坂の坂下にできた坂下広場での滞留機会の創出のために、いっぺん袋の中にはみかんジュースの引換券を同封し、坂下広場で引換券とみかんジュースを交換できるようにした。みかんジュースはポンジュースの200mlの紙パックを配布し、引換券は、消しゴムハンコで作成したみかんのスタンプを押したものを使用した。



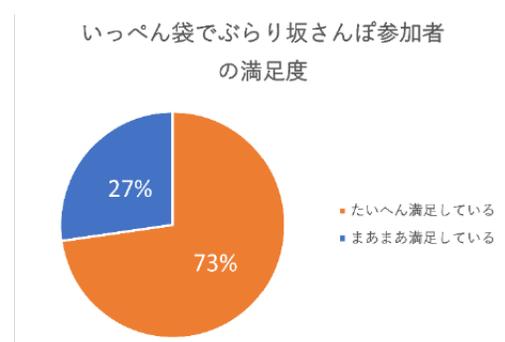
みかんジュースの引換券（最終デザイン）



配布したみかんジュース

4. 成果と課題

参加者アンケートは、11名の方にお答えいただいた。満足度については、「たいへん満足している」が73%、「まあまあ満足している」が27%という結果になった。



グラフ1 アンケート結果（満足度）

プログラムの感想については、「地元だったが、これまで宝厳寺や上人坂周辺のことを知らなかったの、知ることができて良かった」や、「宝厳寺の新しい開運めぐりがあることを知ってとてもワクワクした」や、「いっぺん袋のデザインやライトが可愛かった」などのお言葉をいただいた。これらの感想から、上人坂を歩くことや捨莉紙を体験してもらうを通して、宝厳寺や上人坂周辺の歴史文化への理解を深め、道後の新たな魅力を発見してもらうことが少しはできたのではないと思う。また、道後開運めぐりプロジェクトのプロデュースを手掛け、捨莉紙の生みの親である石川様にもご参加いただき、「いっぺん袋が可愛い。捨莉紙を流す手水舎のライトアップが良かった」というお言葉を直接いただいた。

開催当日は、いっぺん袋でぶらり坂さんぽと、夕焼けベンチ in 宝厳寺の、両方の企画への参加者が多くいらっしやう。イトコ道後と同日に開催させていただけたことで、より多くの方に興味を持っていただくことができ、双方の参加者の方々にも満足していただけるようなプログラムになったのではないと思う。

たくさんの方に興味を持っていただくことができたのはとても嬉しいことであったのだが、用意していたいっぺん袋が早い段階で配布を終了してしまったのが反省点である。参加したいと言ってくださった観光客の方などに袋をお配りできなかったのはとても残念であり、もう少し余裕をもって用意しておくべきであった。また、夜の上人坂をいっぺん袋の明かりで灯すことで賑わいを創出し、新たな上人坂のイメージ形成を行うといった、プログラムの目的を果たすためには、坂を歩いてもらいたい時間にプログラムに来ていただくための工夫が必要であった。そのためには、いっぺん袋の配布時間を調節することや、歩いてもらいたい時間に来てもらえるような仕掛けを念入りに用意することの必要性が把握できた。

5. 今後の展望

今後の展望として、イトコ道後にいっぺん袋のアイデアを引き継ぎ、今後もいっぺん袋を知られざる裏道後ツアーで活用していただけることになった。そのため、袋のアイデアと、プログラムの際に作成した消しゴムハンコをイトコ道後にお譲りした。道後グループとしては1日限りのイベントとなってしまったが、今後もイトコ道後で継続的に活用してもらえることになったことはとても嬉しく、更にたくさんの方に道後のまちあるきを楽しんでもらえることを願っている。なにより、今後、同様のエリアや類似目的のイベントを開催しようと考えている方には、今回の私たちの反省点を活かし、更にエリアの魅力を伝えられるような企画にしていただければと思う。そのために、私たち道後グループの成果と課題が少しでも役に立てば、たいへん光栄である。



坂を散歩する参加者

6. ご協力いただいた皆さま

宝厳寺住職 長岡陽子さま／山澤商店 山澤満さま／Ti create 石川智子さま／道後温泉事務所のみなさま／温泉マッサージセンター 大久保さま／道後温泉旅館協同組合（観光案内所）のみなさま／2021年度UDSC スクール花園グループ 細川直央人さま・モビリティグループ 岡田直大さま／2022年度UDSC スクール 歴史班 井上優花さま・TA 中出舞さま／和田家の皆さま／UDCM 四戸秀和さま・板東ゆかりさま／UDCMの皆さま

⑥夕焼けベンチ+裏道後ツアー

2018年度アーバンデザインスクール卒業生が立ち上げたNPO団体イトコ道後による企画である。スクール受講生としての活動終了後も、NPOを立ち上げ、道後・上人坂を中心に活動している。UDCMとしてはUDNMまちづくり活動支援事業としてイトコ道後のプログラム支援をおこないつつ、前述の2021年度スクール受講生企画との連携調整をおこなった。詳細については、後述のまちづくり支援事業で報告する。



制作したUDCMの活動年表

⑥UDCMレクチャー

平日に開催されるUDweek.プログラムのバリエーションを増やすことと、まちづくり拠点として運営されている「もぶるラウンジ」の情報発信機能強化を目的として、視察対応時のみ実施しているレクチャーを30分の短縮版に再構築した企画である。平日5日間、計7回開催し、計13名(10/14(金)0名、10/17(月)午前1名・午後3名、10/20(木)午前1名・午後1名、10/21(金)午前2名・午後5名)の参加があった。UDweek.参加者アンケートには「もぶるラウンジ展示の花園商店街の歴史が懐かしかった」などのコメントが寄せられた。また、これを機に、まちづくり拠点として運営している「もぶるラウンジ」に、UDCMのこれまでの活動年表を作成し、展示できたことは、成果の1つであると捉えている。



レクチャーの様子(10/17)



レクチャーの様子(10/21)

[概要] UDCMのこと、これまで取り組んできたプロジェクトのこと、urban design week.のことについて紹介するレクチャー。UDCM常勤ディレクターが30分程度、お話しさせていただきます。一度に対応できる人数に限りがあるため、事前申込制のプログラムです。

会期:2022年10月14日(金)、17日(月)、20日(木)、21日(金)

会場:UDCMもぶるラウンジ

時間:11時~11時30分、14時~14時30分

主催:UDCM(担当:板東・四戸・渡邊・三谷)

⑧未来の中ノ川 水辺の癒し体験

2022年度スクール受講生グループ「モビリティ班」による企画である。土日3日間で211名が来場。過去と未来の水辺に注目した3つの企画を実施した。開催結果はスクール活動の項目を参照。

[概要] 松山中心部には日常生活や散策路・憩いの場として活用される水辺空間が少ないのが0現状です。そこで江戸時代には水上輸送に用いられていた「中ノ川」を対象に今は見過ごされている水辺の癒し空間を演出。親子で花や風船などを使ってそれぞれのイメージする未来の水辺をつくりながらゆっくりと流れる時間を一緒に楽しみましょう。

会期:2022年10月16日(日)、22日(土)、23日(日)
 会場:総合コミュニティセンター ども館前
 時間:10時~15時
 主催:2022年度スクール受講生 モビリティ班



制作した中ノ川の歴史紹介パネル



水辺の癒し体験の様子



未来の中ノ川・お絵かき体験の様子

未来の中ノ川 水辺の癒し体験

松山中心部は、日常生活や憩いの場として活用される水辺空間が少ない現状があります。そこで、「中ノ川」を対象に、今は見過ごされている水辺の癒し空間を演出します。それぞれのイメージする未来の水辺を作り、ゆったり流れる時間を楽しみましょう。

展示内容

1. 水辺に花を浮かべる
水辺に花を浮かべ、景で癒される水辺空間を演出します。
2. みんなで描こう、中ノ川の未来
中ノ川の未来にアイテムを貼り付け、水辺空間の未来を考えます。
3. 癒し空間の創出
水際に椅子と机を設置し、水辺に新しいみつつ緑の癒しを創出します。

展示会場
松山総合コミュニティセンター ども館前

実施日
10/16(日) 10:00-15:00
10/22(土) 10:00-15:00
10/23(日) 10:00-15:00 ※雨天中止

申込不要 参加無料

主催 アーバンデザイン・スマートシティスクール2022 モビリティ班/後援 松山アーバンデザインセンター、松山市

企画フライヤー

⑨なぞときウォークラリー今昔

2021年度スクール受講生グループ「まちなかグループ（グループ名：まちなかおさんぽ♣）」によるアプリ上の企画である。UDweek 期間中に開始し、約1か月間開催した。詳しい開催結果は、グループが運営している SNS アカウント（Twitter および Instagram）@moc_matsuyama をご確認ください。

〔概要〕 スマホ片手に謎解きをしながら、散歩するデジタルウォークラリー企画。松山のまちなかはとてもコンパクトで歩きやすく、途中に一息つけるお店も充実。昔から変わらないものと変わってしまったものが混在しているのも、このまちの魅力につながっています。さまざまなスポットをめぐり、新しいまちなかをぜひ発見してください。

会期：2022年10月22日（土）～11月20日（日）

方法：アプリ上で開催

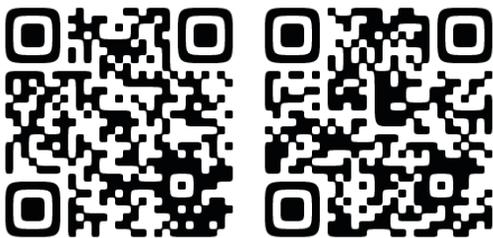
主催：2021年度スクール受講生 まちなかグループ有志



企画フライヤー1



企画フライヤー2



まちなかグループ（まちなかおさんぽ♣）
の Twitter（左）、Instagram（右）アカウント
二次元バーコード



企画フライヤー3

4) モビリティ (MATSUMOBI)

将来のモビリティサービスのかたちを検討するため、UDweek. のさまざまなプログラムをつなぐ車両(愛称：MATSUMOBI) を運行。この MATSUMOBI は、松山スマートシティプロジェクトのフィールド実証実験の一部として運行され、運行には 2021 年度スクール受講生モビリティグループ有志も参画した。

松山スマートシティプロジェクトによるフィールド実証実験の詳細については、スマートシティの章にて報告する。

[概要]

運行日：2022 年 10 月 19 日 (水) ～ 23 日 (日)

運行時間帯：9 時～ 13 時、14 時～ 18 時

料金：無料

利用者：どなたでも利用可能 (ただし乗車時にアンケート回答への協力を依頼する)



MATSUMOBI と参加者

5) 開催結果

初開催となった UDweek. は、10 月 14 日 (金) から 23 日 (日) までの 10 日間、計 9 プログラムと車両運行を実施した。UDweek. 全体としては、のべ約 970 名の参加があった。各プログラムおよび車両運行の開催日数と参加人数は、下表のとおりである。

プログラム名	開催日数	参加人数
① Memory Museum ～未来へ紡ぐ三津浜の記憶～	4	229
②まつやま銘店大解剖	10	約 110
③松山駅前“仮設”芝生広場	1	約 130
④歴史まちあるきトーク	10	※ 1
⑤いっぺん袋でぶらり坂さんぽ	1	150
⑥夕焼けベンチ+裏道後ツアー	1	※ 2
⑦ UDCM レクチャー	4	13
⑧未来の中ノ川 水辺の癒し体験	3	約 211
⑨なぞときウォークラリー今昔	2	※ 3
MATSUMOBI (車両運行)	5	のべ 128

※ 1 同じ施設内で複数のプログラムが開催されていたため、計測が不可能であった

※ 2 ⑤に含まれるため集計からは除外

※ 3 UDweek. 期間中の参加人数の算定が不可能なため集計からは除外

表 -1 参加者人数の内訳

UDweek. 参加者の感想やリアクションを把握するために実施したアンケート調査には、48 名の回答があった。調査概要と結果は次のとおりである。

UDweek. 参加者アンケート調査

【調査概要】

期間：2022年10月14日～10月30日の17日間（開催終了後1週間）

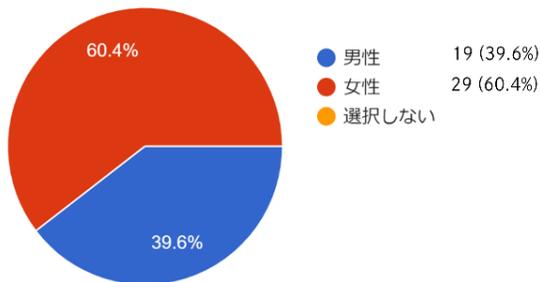
方法：アンケート形式（Google フォーム）

対象：UDweek. 参加者

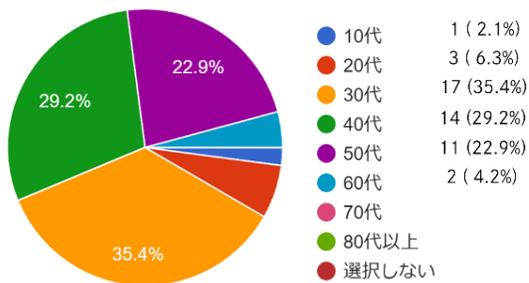
回答数：48

【調査結果】

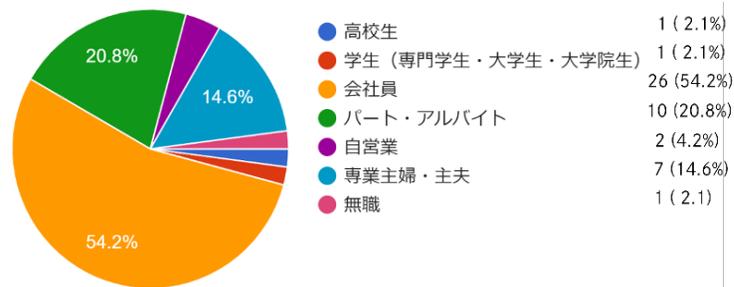
回答者の性別（N=48）



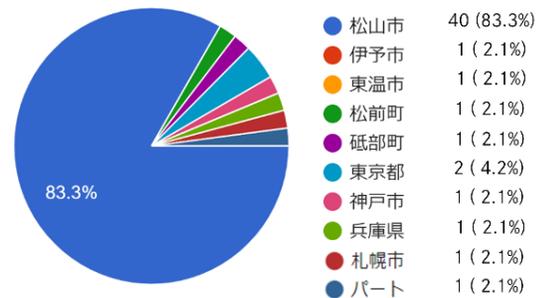
回答者の年代（N=48）



回答者の職業（N=48）



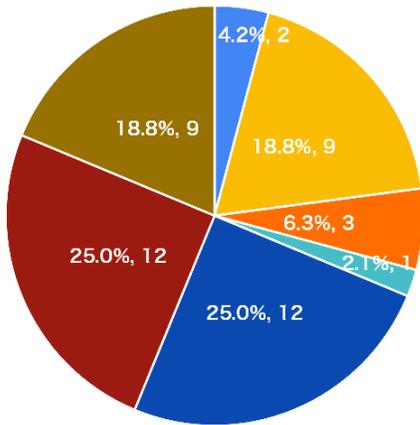
回答者の居住地（N=48）



回答者の傾向としては、約6割が女性、約4割が男性。主な年代は、30代（35.4%）、40代（29.2%）、50代（22.9%）であり、70代以上の回答はなかった。職業は、5割強が会社員、2割強がパート・アルバイトという、社会人が主な回答者となった。居住地は、約8割が松山市に住んでいる方であるが、周辺市町を含め、県外居住者の回答もあった。

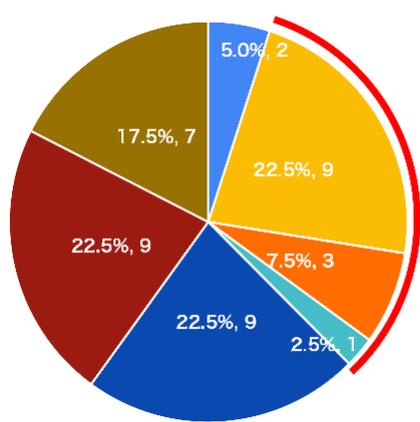
今回、当該アンケートのための調査員を別途配置することができなかったため、参加者への回答依頼方法としては、市内各地でのプログラム運営スタッフが回答フォームに飛べる二次元バーコード付きカードを配布する程度にとどまった。そのため、積極的な回答依頼ができなかったことが回答数が伸びなかったこと、また参加者自身がデジタル端末を用いての回答する形式のみの調査となったことが、70代以上の回答者がいなかったことに影響していると捉えている。

回答者の職業 (N=48)



■ 新聞の折込チラシ	2 (4.2%)
■ UDCMもぶる라운ジに掲示しているチラシ	0 (0.0%)
■ urban design week.もしくはUDCMのウェブサイト	9 (18.8%)
■ Twitter	0 (0.0%)
■ Instagram	3 (6.3%)
■ Facebook	1 (2.1%)
■ 知人からの紹介	12 (25.0%)
■ 現地 (会場付近) で知った	12 (25.0%)
■ PP調査モニター	9 (18.8%)

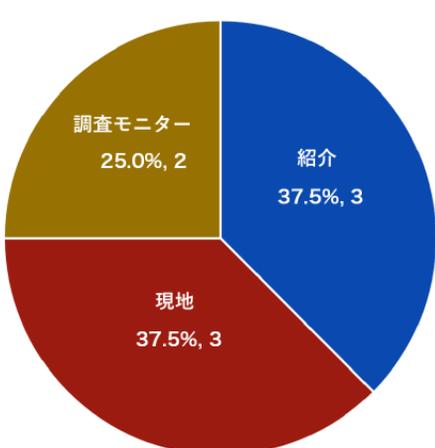
[松山市 居住者] (N=40)



回答者がUDweek.に参加したきっかけとして、どのような経路で開催情報を得たのかについては、「知人からの紹介で知った (25%、N=12)」、「現地 (会場付近) で知った (25%、N=12)」が最も回答数が多かったが、回答項目として細分化していたウェブサイトや各種SNSを選択した回答数を合算すると、前述の2経路とほぼ同数の27.1% (N=13) の回答者がインターネット上で知ったことになる。

また、回答者の居住地に着目すると、「インターネットで知った」と回答した13名は、全員松山市内居住者であることがわかった。松山市外また県外居住者 (N=8) については、「知人からの紹介で知った (37.5%、N=3)」、「現地 (会場付近) で知った (37.5%、N=3)」、「調査モニター情報で知った (25.0%、N=2)」という結果となった。

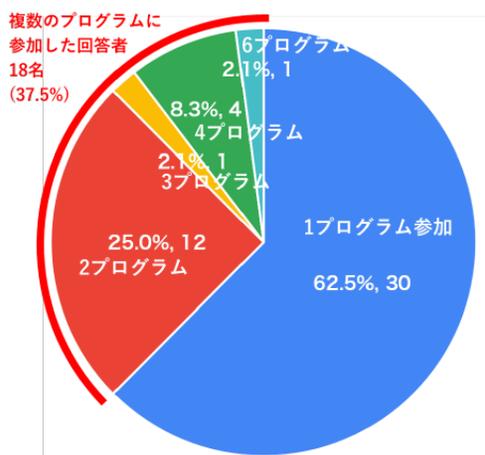
回答者の職業 (N=48)



回答者 48 名が参加したプログラムとモビリティ (N=80)



【回答者の参加プログラム】(N=48)



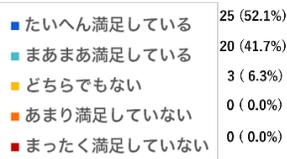
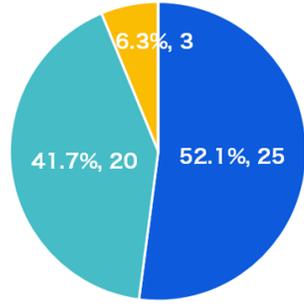
次に、回答者が参加したと回答したプログラムとモビリティ路線についての傾向や反応を探る。

まず、プログラムを回答数の多い順に並べると、「⑧未来の中ノ川 水辺の癒し体験 (N=17)」、「②まつやま銘店大解剖 (N=12)」、「⑤いっぺん袋でぶらり坂さんぼ (N=11)」、「①Memory Museum ～未来へ紡ぐ三津浜の記憶～ (N=10)」、「③松山駅前“仮設”芝生広場 (N=10)」となる。ただし、前述のとおり、プログラム毎に開催日数が異なり、参加できる機会に差が生じていたことに着目し、回答数を開催日数で割った数値(1日あたりの回答数)を算出すると、数値が高い順に「⑤いっぺん袋でぶらり坂さんぼ (11.0)」、「③松山駅前“仮設”芝生広場 (10.0)」、「⑥夕焼けベンチ+

プログラム名	回答数/開催日数 (1日あたりの回答数)
① Memory Museum ～未来へ紡ぐ三津浜の記憶～	10/4 (2.5)
②まつやま銘店大解剖	12/10 (1.2)
③松山駅前“仮設”芝生広場	10/1 (10.0)
④歴史まちあるきトーク	6/10 (0.6)
⑤いっぺん袋でぶらり坂さんぼ	11/1 (11.0)
⑥夕焼けベンチ+裏道後ツアー	6/1 (6.0)
⑦ UDCM レクチャー	2/4 (0.5)
⑧未来の中ノ川 水辺の癒し体験	17/3 (3.4)
⑨なぞときウォークラリー今昔	0/2 (0.0)
MATSUMOBI (しき線)	3/5 (0.6)
MATSUMOBI (そうせき線)	3/5 (0.6)

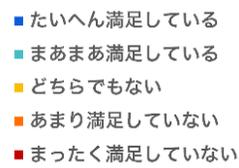
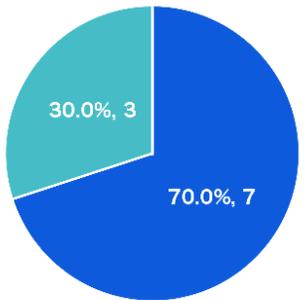
裏道後ツアー (6.0)」、「⑧未来の中ノ川 水辺の癒し体験 (3.4)」、「①Memory Museum ～未来へ紡ぐ三津浜の記憶～ (2.5)」となる。後述するプログラム別の満足度の参考値を見る限り、いずれも「たいへん満足している」回答率が50.0%以上のプログラムである。

回答者が参加したプログラムとモビリティ路線の満足度 (N=48)



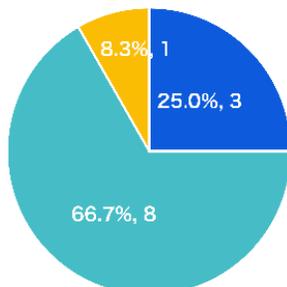
[① Memory Museum ～未来へ紡ぐ三津浜の記憶～の満足度] (1)

※参考値
分類【2】



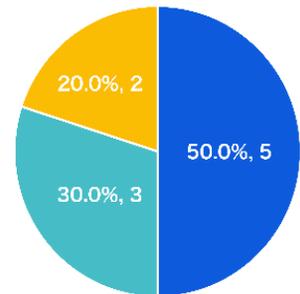
[②まつやま銘店大解剖の満足度] (N=12)

※参考値
分類【3】



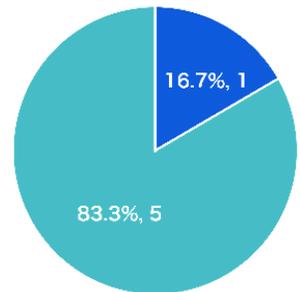
[③松山駅前“仮設”芝生広場の満足度] (N=10)

※参考値
分類【1】



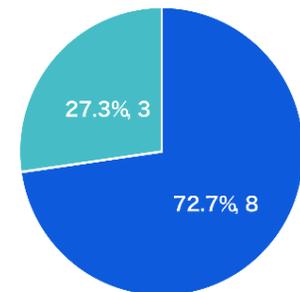
[④歴史まちあるきトークの満足度] (N=6)

※参考値
分類【3】



[⑤いっぺん袋でぶらり坂さんぽの満足度] (N=11)

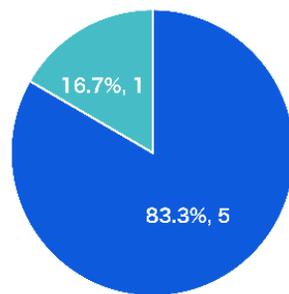
※参考値
分類【1】



〔⑥夕焼けベンチ+裏道後ツアーの満足度〕(N=6)

※参考値

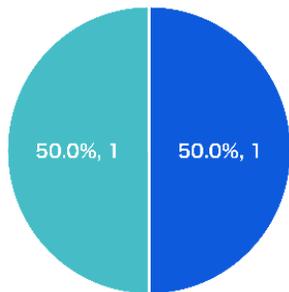
分類【1】



〔⑦UDCMレクチャーの満足度〕(N=2)

※参考値

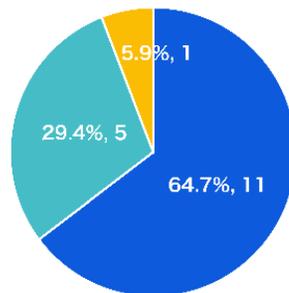
分類【2】



〔⑧未来の中ノ川 水辺の癒し体験の満足度〕(N=17)

※参考値

分類【2】



〔⑨なぞときウォークラリー今昔の満足度〕(N=0)

※回答者0のためグラフなし

左記グラフは、回答者が参加したプログラムとモビリティ路線に対する全体満足度の集計結果（全体結果）と、その回答を、回答者が参加したと回答したプログラム別に置き換えた満足度の結果である。後者は、そのプログラム単独で問うた満足度の結果ではないので参考値※として取り扱う。

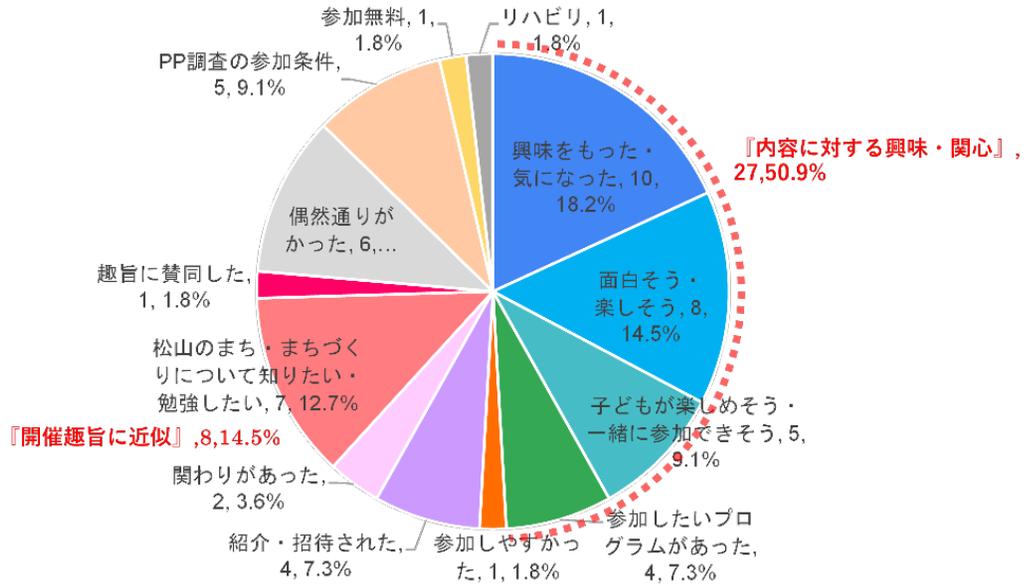
全体結果をみると、「たいへん満足している（N=25、52.1%）」、「まあまあ満足している（N=20、41.7%）」という高い満足度を得ている。参考値ではあるが、プログラム別満足度を見てみると、参加した回答者がいなかった⑨を除いては、いずれのプログラムも回答者にはおおむね満足されていると捉えることができる。

今回実施した各プログラムにおける回答者の反応やその傾向を探るために、各プログラムの目的と参加者との関わり方に着目してみると、今回実施したプログラムは、次の3つに分類することができる。

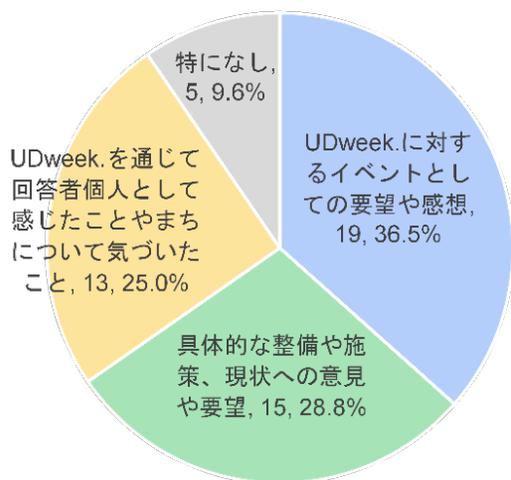
-
- 【1】 アクティビティやその誘発を意図したプログラム（③⑤⑥）
 - 【2】 展示やワークショップを行いながらスタッフが参加者の意見や思いを直接拾い集めるプログラム（①⑦⑧）
 - 【3】 リサーチした結果の展示や現地スタッフ運営を伴わないプログラム（②④）
-

そのうえで、プログラム別満足度（参考値）を見てみると、【1】【2】は「たいへん満足している」回答者が50%以上おり、その他の回答者もおおむね「まあまあ満足している」回答者である。【3】は「たいへん満足している」回答者より「まあまあ満足している」回答者の方が倍以上いる。参考値のため推測の域を出ないが、情報等を一方的に受けとるプログラムよりも、参加者自身が体験する、または対話を伴い交流が発生するプログラムの方が、回答者の満足度が高かったと捉えることもできそうである。

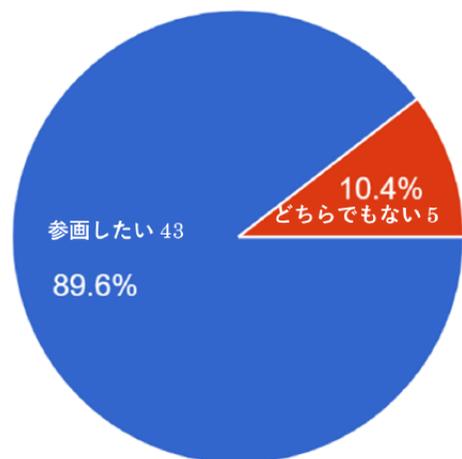
urban design week. に参加した理由 (N=55)



urban design week. への意見・感想やまちの課題だと感じたこと、知った松山のことなど (N=52)



今後の企画やまちづくりに関する取り組みへの参画意向 (N=48)



さいごに、UDweek. の開催目的である「都市の魅力・課題と向き合い、これからのまちについて参加者と共に考えること」に関して“まちを再考する機会づくり”として、どのような反応を回答者から得たのか、調査結果をみていく。

「UDweek. に参加した理由」として寄せられた自由記述コメント（N=55）を分類すると、左記のとおり整理することができる。「興味をもった・気になった（N=10,18.2%）」や「子供が楽しめそう・一緒に参加できそう（N=5,9.1%）」という『内容に対する興味・関心』に関する理由（自由記述）が約5割を占めた。一方、「松山のまち・まちづくりについて知りたい・勉強したい（N=7,12.7%）」という『開催趣旨に近似』した理由は、1割程度である。

「UDweek. への意見・感想やまちの課題だと感じたこと、知った松山のことなど」に寄せられた自由記述コメント（N=52）を分類すると、左記のとおり4つに整理することができる。最も割合を占めたのは「UDweek. に対するイベントとしての要望や感想（N=19,36.5%）」であり、4割強を占めた。「特になし（N=5,9.6%）」以外については、「具体的な整備や施策、現状への意見や要望（N=15,28.8%）」、「UDweek. を通じて回答者個人として感じたことやまちについて気づいたこと（N=13,25.0%）」ともに約3割であった。

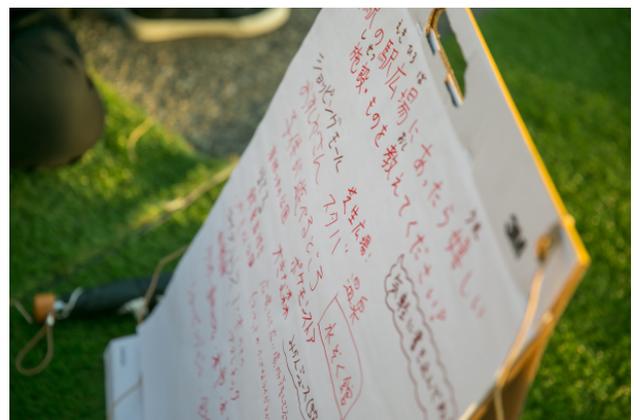
「今後の企画やまちづくりに関する取り組みへの参加意向（N=48）」は、9割に近い43名の回答者が「参加したい」と回答し、残り約1割にあたる5名は「どちらでもない」という回答結果であった。

総括

参加者アンケートの結果が、2022年10月開催のUDweek. の結果の全てではないが、初開催となった今回の振り返りとしては、意味のある一定の結果が得られたと言えよう。特に、回答者のほとんどの方に、参加したプログラムが評価されたことや、参考値ではあるが評価が高かったプログラムの傾向、UDweek. のことを知ったきっかけ（経路）を把握できたことは、今後のプログラムデザインのみならず、UDCMの各プロジェクトにおける企画検討段階や情報発信面において、参考となる結果を得ることができた。

また、参加した理由が必ずしも「松山のまちや、まちづくりを知りたい・関わりたい」という理由でなかった場合、つまり、アンケート調査結果で約5割の回答者が参加の理由にあげていた「面白そう、楽しそう」という気軽な動機の方が半数いた今回のUDweek. のように、プログラムの実施を通じて「参加したプログラムの感想」だけでなく、「まちへの思いや意見」を拾い出し、把握することができることがわかった。つまり、今回のUDweek. は“まちを再考する機会づくり”として、一定の役割は達成できたのではないだろうか。

一方で、今後も継続的にこのようなまちと向き合う機会づくりをおこない、プログラムを実施しながら拾い上げたまちの声を次の段階の取り組みに活かす循環ができてはじめて、今回のUDweek. が、単発の集客イベントではなく、まちづくりに資するプログラムであったと言えるのであろう。



(5) UDSC スクールおよび UDweek. 後の展開

1) 「Memory Museum ～未来へ紡ぐ三津浜の記憶～」の常設化

三津浜公民館の館長から打診があり、2022年度UDSCスクール受講生グループ「歴史班」が作成した「Memory Museum ～未来へ紡ぐ三津浜の記憶～」が12月2日から三津浜公民館に常設展示されることになった。常設化にあたっては、公民館職員および地域住民有志とともに、展示の再編集作業をおこなった。

【三津浜公民館での常設展示】

月日：2022年12月2日（金）開始

時間：平日 9:00～17:00 / 土曜 9:00～12:00

※日曜日、祝日、年末年始を除く

場所：三津浜公民館（松山市三津3丁目2-30）

備考：観覧無料



三津浜公民館での常設展示の様子

2) NPO 団体イトコ道後による「いっぺん袋」の継続活用の決定

2021年度UDSCスクール受講生グループ「道後グループ」が開発した「いっぺん袋」が、道後・上人坂エリアの魅力発信や回遊性向上を目的として活動しているNPO団体イトコ道後のプログラムアイテムとして引き継がれ、継続的に活用されることになった。また11月と12月に各1回、いっぺん袋を活用した「夕焼けベンチ in 宝厳寺」が開催された。

【夕焼けベンチ in 宝厳寺】

月日：2022年11月26日（土）・12月4日（日）

※雨天中止

時間：16:00～17:45の予定

16:00～境内での夕焼け鑑賞

17:15頃～裏道後ガイドツアー

場所：道後・宝厳寺境内（松山市道後湯月町5-4）

備考：参加無料。夕焼け鑑賞とガイドツアーは申込不要、夕焼け鑑賞時のお茶と道後銘菓お接待のみ申込制（先着20名）

主催：NPO 団体イトコ道後



プログラム開催の様子（11/26）

Chapter

03

まちづくり拠点の運営

UDCM のオフィスに併設されている「もぶるラウンジ」は、休憩やトイレ利用に加え、まちづくりに関する書籍・雑誌等の閲覧、まちづくり活動等を中心とした専用利用ができるスペースである。

2022 年度の運営方針を、「コロナ禍の状況をふまえた運営をおこなう。花園町や企業と連携した企画、蔵書を活用した企画等をおこなう。市民等が気軽に入り、交流できる開かれた空間づくりを図る。」として、取り組んできたもぶるラウンジでの活動について振り返る。

- ・もぶるラウンジの運営
- ・学生スタッフ企画の実施

(1) もぶるラウンジの運営

1) 利用者推移

今年度（2022年4月～2023年3月）のラウンジ利用者数は、延べ6,783人、月平均は約565人（前年度は延べ5,090人、月平均は約463人）であった。前年度と比較すると約1,700人利用者が増え、またCOVID-19の感染拡大期前2019年度の利用者は延べ7,587人であったことから、徐々に利用者が増えている。

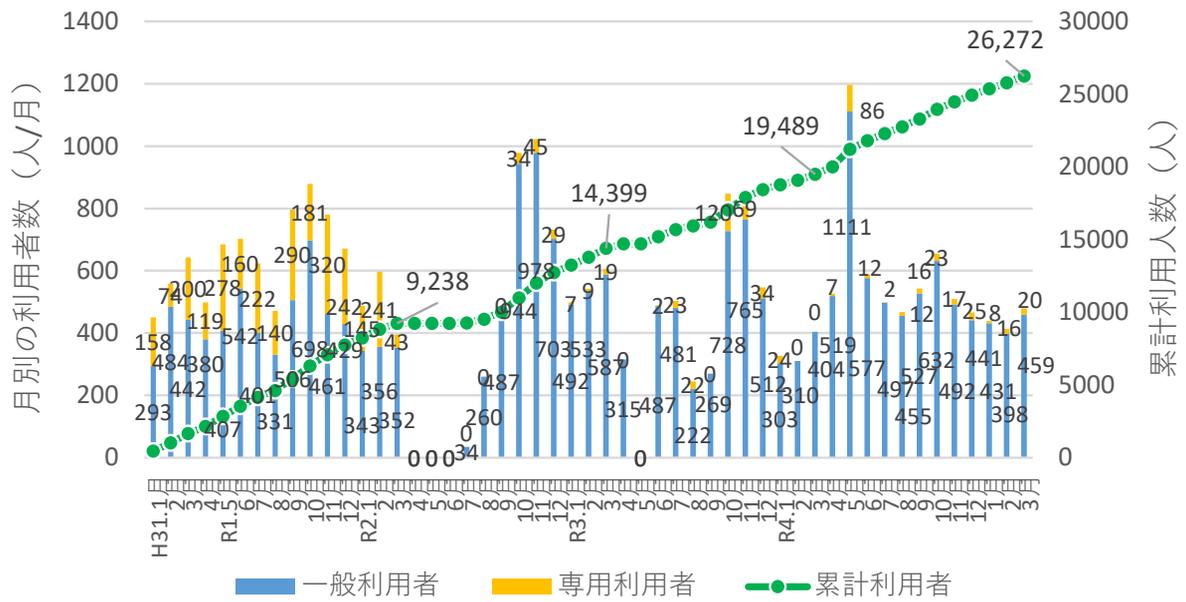
利用者の属性としては、平日休日共に30～50代の利用割合が約半数を占め、前年度と比較すると20代以下の割合が少し減少している。ラウンジや花園町通りでのイベント開催時に訪れていた家族連れや、若い世代の利用減少が影響していると推測される。今後は、幅広い年代の方々に利用していただけるように企画や広報等を進めていくことが課題である。



ラウンジ中庭利用の様子



ラウンジ利用の様子（企画開催時）



2) 専用利用の傾向

今年度、専用利用の申請件数は40件あった。しかし、天候不良や代表者の体調不良等で利用のキャンセルが8件あり、実際に専用利用されたのは32件であった。

次表のとおり、今年度初めての利用が6団体あり、愛媛県ユニセフ協会さんは、2019年12月ぶりの利用であった。その他、アロマサークル、伊予弁紙芝居、花園まちづくりプロジェクト協議会は、前年度から引き続き、ほぼ毎月定期的にご利用いただいた。新規利用では、句会や哲学カフェ等、一般の方のグループ活動での利用機会が多く、そうした活動の場を探している方に利用してもらえるように取り組んでいきたい。



ナチュラルマイコスメ作り



信子おばさんの伊予弁紙芝居



ユニセフ ワークショップ

専用利用一覧（UDCM関係者の専用利用は除く）

イベント等名称	申請者	日時	人数
ナチュラルマイコスメ作り	アロマサークル	4月2日(土) 10:30~13:30	6
		5月7日(土) 10:30~13:30	9
		6月11日(土) 10:30~13:30	3
		7月16日(土) 10:30~13:30	キャンセル
		9月17日(土) 10:30~13:30	5
		10月29日(土) 10:30~13:30	8
		12月17日(土) 10:30~13:30	4
		2月18日(土) 10:30~13:30	8
		3月18日(土) 10:30~13:30	キャンセル
		信子おばさんの伊予弁紙芝居	伊予弁紙芝居
5月28日(土) 14:00~16:00	13		
6月25日(土) 14:00~16:00	キャンセル		
7月23日(土) 14:00~16:00	2		
8月27日(土) 14:00~16:00	1		
9月24日(土) 14:00~16:00	1		
10月22日(土) 14:00~16:00	9		
11月26日(土) 14:00~16:00	10		
12月24日(土) 14:00~16:00	0		
1月28日(土) 14:00~16:00	キャンセル		
		3月26日(土) 13:00~15:00	8

専用利用一覧（UDCM 関係者の専用利用は除く）

イベント等名称	申請者	日時	人数
		5月22日(日) 10:00~16:00	10
		6月26日(日) 10:00~16:00	9
		8月28日(日) 10:00~16:00	4
まつやま花園日曜市本部		10月23日(日) 10:00~16:00	キャンセル
		11月27日(日) 10:00~16:00	7
	花園まちづくり プロジェクト協議会	12月25日(日) 10:00~16:00	8
		1月22日(日) 10:00~16:00	4
まつやま花園砥部焼まつり 本部・救護室		5月28日(土) 10:00~17:00	27
		5月29日(日) 10:00~17:00	27
まつやま花園土曜夜市本部		7月9日(日) 16:00~21:00	キャンセル
Baker's etc Market in 花園町通り本部		10月30日(日) 10:00~16:00	6
体験会打ち合わせ	タートル松山RDC 【新規利用】	9月17日(土) 10:30~13:30	10
「そうそうさんいらっしゃい」		10月1日(土) 13:30~16:00	キャンセル
「7人の士と進め！」	松山しごと創造センター 【新規利用】	12月17日(土) 12:00~15:00	キャンセル
		1月28日(土) 13:30~16:00	4
人流調査結果報告会	日立東大ラボ 【新規利用】	12月14日(水) 13:00~15:00	6
あまね哲学カフェ	あまね哲学カフェ 【新規利用】	12月18日(日) 12:00~15:30	7
IRORI 交流句会	IRORI 【新規利用】	2月4日(土) 13:00~16:30	8
ユニセフ ワークショップ	愛媛県ユニセフ協会	3月19日(土) 10:00~12:30	5
短詩遠足	同級生 【新規利用】	3月24日(金) 10:00~13:00	7

3) ライブラリーの活用

もぶるラウンジには、まちづくりや暮らし、デザインなどに関する蔵書が約 1000 冊あり、自由に閲覧することができる。また利用者登録をしていただくと、どなたでも貸し出しサービスをご利用いただくことができ、今年度の図書貸し出し冊数は合計 80 冊、新規貸し出し登録者数は 19 人、3 月末時点での総貸し出し登録者数は 203 人であった。

より多くの方にライブラリーを知っていただき、もぶるラウンジおよびまちなかへ来ていただくきっかけとなるよう、今年度新たな取り組みをおこなった。

① 専門的な書籍以外にも、小説やエッセイといった文庫本や絵本等、一般の方も手に取りやすい幅広いジャンルの本を追加購入した。それらの新しい本のコーナーに POP を付け（学生スタッフ作成）目に留まりやすくなるよう工夫した。

② ラウンジ前庭に、可動式の本棚を新たに設置した。こちらで考案したデザイン案を元に（有）愛媛防虫ランバーに製作を依頼し、最終的な組み立ての部分は UDCM の学生スタッフやディレクターと一緒におこなった。書籍を並べる木箱部分や本立てを外して動かせる仕様にし、状況によってさまざまな活用ができる。

この本棚を設置したことで、ライブラリーの書籍がもぶるラウンジ利用者のみでなく花園町通りの歩行者の目にも留まるようになり、書籍を手にしたたり前庭のベンチに座り読んでいかれる方が増加した。



新規図書のコーナーと作成した POP



前庭に設置した可動式本棚

4) 連携事業

① 「urban design week.」との連携企画

もぶるラウンジでは、2022年3月12日(土)～9月30日(金)まで、「urban design week.」(2021年度)の関連企画として、展示企画『未開催展』を実施した。

その後、2022年10月14日(金)～23日(日)の期間は、「urban design week.」(2022年度)の展示会場として、『まつやま銘店大解剖』(アーバンデザイン・スマートシテイスクール松山受講生グループ「地域デザイン班」による展示企画)、『松山歴史まちあるきトーク』(連携プロジェクト「松山歴史まちあるき」との共同企画)を開催した。『松山歴史まちあるきトーク』は、会期後も2023年2月28日まで映像放映&パネル展示をおこなった。

② 松山ブンカ・ラボ企画協力

UDCMとオフィスシェアする松山ブンカ・ラボの企画(トークやワークショップ等)で、今年度ももぶるラウンジを数回利用いただいた。また、以下の企画では展示会場として協力した。

しらんことだらけ博物館 展覧会

「あなたのしらん世界展」

会期：2023年2月26日(日)～3月26日(日)

会場：UDCM もぶるラウンジ、PAAC 平和通りアートセンター



イベントバナー



展示の様子

(2) 学生スタッフ企画の実施

UDCMでは学生スタッフをまちづくりの担い手と捉え、ラウンジ運営や企画実施等を通じて担い手育成に取り組んでいる。学生スタッフ企画は、COVID-19の感染拡大の影響により2020年2月より中止していたが、2022年4月より約2年ぶりに再開した。今年度は、花園町通りで毎月開催されている「お城下マルシェ花園」「まつやま花園日曜日」の開催日に合わせて、計10回おこなった。企画の参加者数は、延べ467人であった。

企画内容の考案、企画書の作成、チラシの作成、材料の準備、当日の運営等、学生主体で進め、ディレクターがサポートを行いながら実施した。ほぼ毎月企画をおこなうことで、徐々に認知されリピーターも増えてきた。

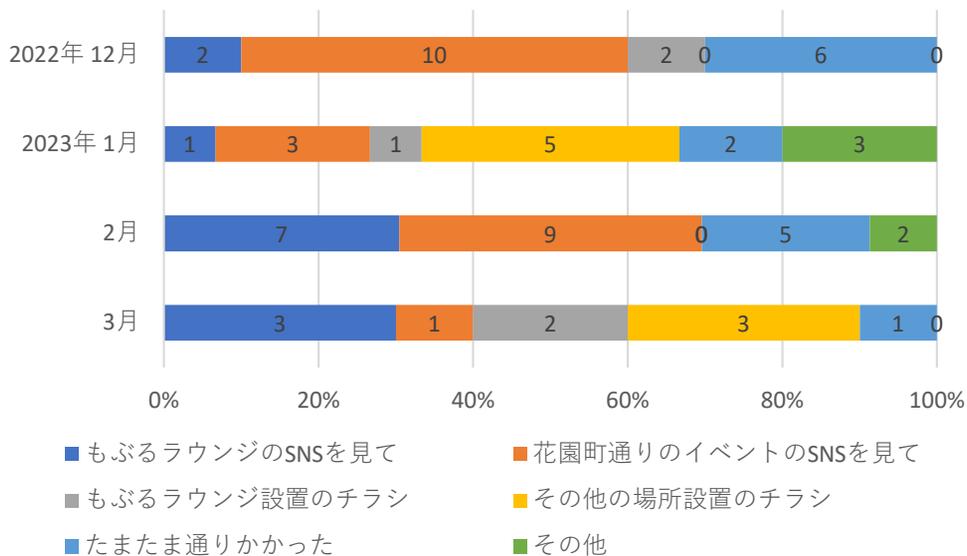
以下、2022年12月～2023年3月の企画時におこなった参加者アンケートの結果と、今年度おこなった企画について、詳細を記載する。

1) 企画の参加者アンケート結果

① イベントを知ったきっかけ

最初にアンケートを取った12月は、「花園町通りのイベント（お城下マルシェ花園）のSNSを見て」や「たまたま通りかかって」という、花園町通りのイベントメインで来られていた参加者の割合が大きかったが、徐々に「もぶるラウンジのSNSを見て」の割合も増加してきていることが分かる。またチラシは、てくるんや児童館で見て来られた方もいらっしやったことから、もぶるラウンジ以外の場所に設置することもわずかではあるが効果があった。その他は、イベント情報をまとめたwebマガジンを見た方、知人からの紹介といったコメントがあった。

今後も、もぶるラウンジのSNSを用いた情報発信の強化、目を引く分かりやすいチラシデザインの作成等、学生企画およびもぶるラウンジを知って参加してもらう工夫を、学生スタッフと協力し取り組んでいきたいと考える。



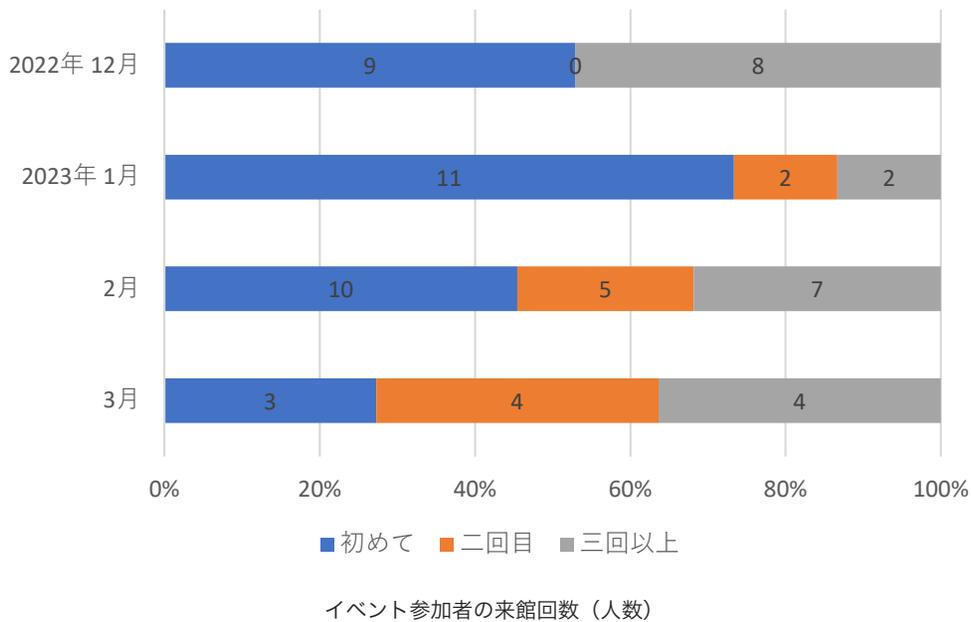
イベントを知ったきっかけ（人数）

② イベント参加者の来館回数

最初にアンケートを取った12月は、「初めて」と「三回以上」の方が同程度の割合だったが、徐々に「初めて」の方の割合が減り、「二回目」の方が増加してきていることが分かる。チラシを貰ってと再度参加して下さる方や、何度かお見かけする方も増えてきていることから、リピーターが確実に増えてきていると感じる。リピーターを増やすことも必要だが、新たな方にも参加していただきたいため、来館回数の割合が同程度で続いていくことが良い傾向であると考えている。

③ 企画についての要望

アンケートでは、どのような企画があれば参加したいか自由記入欄も設けている。その中で最も多い意見が、「子どもと参加できるイベント」「子どもが楽しめるもの」であった。また「季節に合わせたイベント」も数件記載があり、親子向けの季節に合わせた企画は今後も続けていきたい。その他には、「音楽ワークショップ」「フラワーアレンジ」「ハンドメイド」といったワークショップ形式の企画、「なぞなぞ」「大迷路」「街全体のクイズラリー」といった参加型の企画もあった。いただいたご意見も参考にさせていただき、多様な企画をおこなっていきたい。



2) 個別企画の詳細

①『せかいに1つだけのたまご』

2022年4月17日(日) 10:00～15:00

(「お城下マルシェ花園」と同日開催)

参加人数：52人

「イースター」に合わせた企画として、プラスチックの卵を装飾してイースターエッグを作るワークショップを実施した。参加者の大半が小学生以下の子どもであったが、保護者の方も一緒に楽しんでたまごを作成していた。絵を描いたりテープやシールを貼ったりと、幅広い年齢の子どもがそれぞれ楽しめる企画で、出来上がったものを持って帰ることができる点も喜んでいただけたと考える。

花園町通りにテーブルとマットを設置しておこなったことも、歩行者の目に留まり参加しやすくなる機会となった。パンフレット類も配布し、UDCMを知ってもらう機会にもなった。またラウンジ内の展示を見たり、前庭で開催していた「はなぞのくじ」にも数組参加していただくことができた。



4月企画実施の様子



完成したイースターエッグ



4月企画チラシ

②『オリジナルちょうちんをつくろう!』

2022年7月16日(日) 16:00～20:00

参加人数：41人

「花園夜市」(お城下マルシェ花園特別編)の開催に合わせて、夕方～夜のイベントを企画した。和紙製の白色のちょうちんに水彩ペンやマスキングテープ、折り紙などで飾り付けをしてもらってちょうちん作りのワークショップを実施した。自分で自由にデザインできる点や、LED電球で光らせることができる点が喜んでいただけた。中学生や大学生にも参加してもらい、浴衣に合ったデザインにしたり、手で持って帰ることも含めて楽しんでもらうことができた。

当日は「花園夜市」が中止になったこともあり、通りを歩く人が少なく集客に苦労したが、チラシと見本を持って周辺エリアに宣伝に行くなどして時間いっぱい参加者を確保した。



7月企画実施の様子



参加者と完成したちょうちん



7月企画チラシ

③④『オリジナルブックマークをつくろう』

2022年9月18日(日) 10:00～15:00

2022年10月16日(日) 10:00～15:00

(「お城下マルシェ花園」と同日開催)

参加人数：59人

「読書の秋」に合わせた企画として、窓枠付きの台紙に押し花やシール、マスキングテープを貼ったり、イラストを描いたりするなどの飾り付けをおこなうブックマーク(栞)作りのワークショップを実施した。使用する押し花は、花園町通りの花屋「花勝」さんのドライフラワーを購入し使用した。子どもだけではなく、保護者も栞を作られる方が多く、ご年配の方が一人で参加する事例もあった。実用的で、押し花を使うなどおしゃれなデザインにしたことが効果的であったと考えられる。

9月は台風接近により同日開催の「お城下マルシェ花園」が中止になり、参加者が少なかったため、10月のマルシェの日に同内容の企画を再度実施した。10月は多くの方に参加いただき、花園町通りにパンフレット置き場や、おえかき黒板のブースを設置し、参加者にUDCMの広報もおこなうことができた。おえかき黒板には、おすすめの本を書き込んでもらえるようにした。



10月企画実施の様子



花園町通りに設置した黒板



9, 10月企画チラシ

⑤『ハロウィンかぼちゃとリンリンステッキをつくろう！』

2022年10月23日(日) 10:00～15:00

(「まつやま花園日曜日」と同日開催)

参加人数：78人

ハロウィンに合わせた企画として、「ハロウィンかぼちゃ」と「リンリンステッキ」を作るワークショップを実施した。「ハロウィンかぼちゃ」は、マスキングテープを自由に貼ってもらい、オリジナルかぼちゃを作ってもらった。「リンリンステッキ」は、透明の丸いケースに鈴を入れて音が鳴るようにし、それに竹串をさし全体を飾り付けした後、毛糸の髪の毛を付けた。少し難易度が高かったが、子どもたちは保護者の方に協力してもらい作成し、12時頃には用意していたものが無くなるほどの盛況だった。(材料を追加で準備し対応した)

「まつやま花園日曜日」での企画は初めてだったが、多くの方にご参加いただいた。もぶる라운ジのInstagramのフォロワーの方が来てくださったり、Instagramも徐々に認知されてきた。



10月企画実施の様子



10月企画実施の様子

もぶる라운ジ 10月学生企画

参加無料
申込不要
定員 50名

『ハロウィンかぼちゃとかぼちゃのリンリンステッキをつくろう！』

2022年 10月23日(日) 10:00～15:00

松山アーバンデザインセンター
もぶる라운ジ
(松山市民会館4F 岡田ビル1階)

もぶる라운ジ Instagram

#mubulounge

QRコード

お問い合わせ先
090-9388-1247

※イベントにご参加いただく皆さまには、必ず事前登録をお願いいたします。また、館内のカメラや監視カメラによる撮影、録音はご遠慮させていただきます。
その場合は、InstagramやSNSでお知らせいたします。

10月企画チラシ

⑥『手作り万華鏡で自分だけの天体を観察しよう!』

2022年11月20日(日) 10:00～15:00

(「お城下マルシェ花園」と同日開催)

参加人数: 51人

冬は一番きれいな星空をみられる季節ということで、万華鏡作りのワークショップを実施した。万華鏡の中には、ビー玉・ビーズ・スパンコール、外部は色ペン・マスキングテープ・折り紙等で好きに飾り付けができる内容とした。朝から盛況で、開始後2時間の12時ごろには、用意していた20個+予備の10個もすべて終了した。材料が多く工程が少し難しかったが、材料の切り離しや組み立てなど、事前準備を学生スタッフでおこなった。当日もベビーオイルやスパンコールの扱い等、小さな子には難しい点もあったが、新聞紙やペーパータオルを多めに用意し対応することができた。



11月企画実施の様子



11月企画チラシ



参加者と完成した万華鏡

⑦『クリスマスのおくりもの ～とびだすカードとオーナメントをつくろう～』

2022年12月18日(日) 10:00～15:00

(「まつやま花園日曜日」と同日開催)

参加人数：38人

とびだすクリスマスカードとクリスマスオーナメント作りのワークショップを実施した。カードの台紙やパーツはこちらで事前に用意し、当日はそれらを組み合わせて作成できるようにした。ツリーも準備し完成したオーナメントを飾ってもらうように考えていたが、実際は作ったものは持って帰る方が多く、ツリーや雪だるまの看板は写真撮影スポットとしてご利用いただいた。

寒さと強風により花園町通りの人通りも少なく、参加人数もこれまでより少なくなった。また通りに出したこたつも利用したが、天候を考慮したレイアウトや設営準備も必要であった。



12月企画実施の様子

もふるラウンジ学生企画

クリスマスのおくりもの

～とびだすカードとオーナメントをつくろう～

サンタさんもびっくり!!
とびだすカードと
可愛いオーナメントで
クリスマスをお祝いしよう!
Merry Xmas!

参加無料
予約不要
定員 40名

12月18日(日)
10:00～15:00
※材料が無くなり次第終了します

会場
松山アーバンデザインセンター
もふるラウンジ
(松山市花園町4-9 岡田ビル1階)

12月企画チラシ



完成したオーナメント

⑧『鬼のマラカスで鬼をおいはらおう』

2023年1月22日(日) 10:00～15:00

(「まつやま花園日曜市」と同日開催)

参加人数：45人

節分に合わせた企画として、鬼のマラカスを作るワークショップを実施した。本体はガチャガチャの空きカプセルを利用し、鬼の顔やパンツの部分のシールやマスキングテープを貼り自由に作成してもらった。鬼のツノや髪の毛、中身のビーズなどのパーツもさまざまなものを準備したことで、選んで組み合わせることを楽しんでもらい満足度が高い企画となった。

寒い日ではあったが、約1時間で用意していた30個が終了した。子どもだけでなく、親子でそれぞれ作成している方が多くみられた。



1月企画実施の様子



1月企画チラシ



完成した鬼のマラカス

⑨『紙とんぼを作って飛ばそう!』

2023年2月26日(日) 10:00～15:00

(「まつやま花園日曜日」と同日開催)

参加人数：73人

紙パックを使った紙とんぼを参加者に作ってもらい、それを飛ばして測定する紙とんぼ飛ばし大会を実施した。紙とんぼ自体は簡単に作れるものだが、羽の大きさを調整したり、羽の部分にペンで絵を描いたり、テープを貼ったりと、オリジナルの紙とんぼをそれぞれ作ってもらった。その後、チェキで記念撮影をしてから、紙とんぼを飛ばしてもらい、測定結果を書いた表彰状も作成しお渡しした。また3位までの結果は、模造紙にニックネームと飛距離を記入しラウンジ内に1ヶ月展示、Instagramでも公表した。

作るだけでなく参加型の企画にすることで、チェキで撮影することなど、新たな試みをいくつかおこなうことができた。



2月企画実施の様子



2月企画チラシ



紙とんぼを飛ばす参加者

⑩『タオルアートをつくろう
～もぶるラウンジから春のプレゼント～』

2023年3月26日（日） 10:00～15:00
（「まつやま花園日曜日」と同日開催）
参加人数：30人

株式会社伊織から、販売できないタオルをアップサイクルして使用していただけないかと相談を受け、タオルアートを作るワークショップを実施した。譲っていただいたタオルで作れるものを調べ、くまとバラの2種類を作れるように準備した。作り方の説明用紙も準備し、他のタオルや自宅でも作ってもらえるようにした。

当日は雨で人通りが少なかったが、リピータの方や、子どもだけでなく大人の方、高齢者の方も多く参加してくださいました。タオルアートは、準備する材料も少なく済むため、今後も企画が早く終わった時におこなうなど、続けていきたい企画である。



3月企画実施の様子



3月企画チラシ



完成したタオルアート

Chapter

04

研究会、研究活動

研究会は、講師の方をお招きしたアーバンデザイン研究会として、アーバンデザイン・スマートシティスクール松山の講義を兼ねるかたちで、計4回オンラインにて開催した。また、2022年3月には「松山の新たな駅まちづくりシンポジウム」を松山市との共同で開催した。

- ・アーバンデザイン研究会
- ・シンポジウムの開催

(1) アーバンデザイン研究会

2022年度のアーバンデザイン研究会は、アーバンデザイン・スマートシティスクール松山のレクチャー（講義）を兼ねて計4回開催した。それぞれの回について、スクールTAを務めるUDCM学生スタッフのレポートをもとに振り返ってみたい。



2022.08.26

Vol.21「八戸市美術館」

兼 スクール第1回レクチャー

ゲスト講師：

浅子 佳英 (PRINT&BUILD/UDCM プロジェクトディレクター)

西澤 徹夫 (西澤徹夫建築事務所 主宰)

森 純平 (東京藝術大学 助教 / 一般社団法人 PAIR 代表理事)

「八戸市美術館」のことをメインテーマに、ゲスト講師3名によるレクチャーがおこなわれました。

まず、浅子氏による八戸市美術館の展示品の詳細と展示会の構想・意図についてのお話がありました。八戸市に暮らしている方々が持ち寄った毛布を使用した作品など、個性的で独創的な作品が多く、使用品を活用した作品などが印象に残りました。絵が単に美術館の中にあるだけではなく、展示会全体を通してみると八戸市の文化、まちと美術・作家・絵画の関わりが見えてくるとのご説明をいただきました。地域デザインの素材の掘り起こしについては、無難な所から興味・関心を抱き、数珠つなぎ的に興味・関心を広げて、本来、美術館との関連性が無いものから視野を広げて繋げていくような視点が重要であるといったお話をいただきました。西澤氏からはスケール感が丁度良く、まとまりがあるために広がっていくようなマインドマップのような情報が必要との意見をいただきました。

続いて、アーカイブしていくための空間、展示するための空間、活動していくための空間のデザインについて、羽藤英二氏 (UDCM センター長) との討議が行われました。羽藤氏によるアーカイブの価値についての持論の後、ゲスト講師3名それぞれの考えについて伺いました。西澤氏は、蓄積や痕跡がこびりついていくなど、空間や場所に活動が残っていくような雰囲気や仕組みを作ることが記憶や記録に結び付くアーカイブになると語られました。森氏は、何を残すのか決断すること、変わらないために変え続けたいと仰るということがアーカイブの問題としてあると語られました。浅子氏は、現実空間の重要さを紐解き、そこから現実空間をネット空間の討論がされました。その中で西澤氏が述べた「現実世界がネット世界を追従する場所になってきている」という言葉が印象に残りました。



開催の様子 (Vol.21)

また、松山の魅力をアーカイブ・発信することに関する議論が行われました。その中で、自分の好きな風景や子どもの頃に習った独自の文化を持ち寄って話すと面白くなるのではないかというお話が出ました。受講生からは、松山のまちのイメージについて伺いたいという質問がありました。西澤氏は綺麗な曲線を描いている路面電車、浅子氏は石手寺が良いとの意見を述べられました。三者三様の意見をかき集め、話し合うことそのものが地域デザインであるという話で盛り上がりました。ゲスト講師3名の熱意が伝わり、実りあるレクチャーでした。(TA 松尾)



2022.09.03

Vol.22「地域デザインの実践と理論」

兼 スクール第2回レクチャー

ゲスト講師：

青柳 菜摘（美術作家）

伊藤 香織（東京理科大学教授 /UDCM プロジェクトディレクター）

川口 真沙美（日本デザイン振興会）

増橋 佳菜（東京大学大学院修士1年）

「地域デザインの実践と理論」をメインテーマに、4名の講師の方々をお招きし、レクチャーしていただきました。

はじめに、青柳菜摘氏（美術作家）から、作品のコンセプトや道後クリエイティブステイ時の活動内容についてご紹介いただきました。その中で、作品を制作する際に「目に見えないものをどう記録するか」を考えて作品を制作しているというお話があり、気軽に撮影ができる時代であるがゆえに、自分が見ている景色を一枚の写真や動画にすべて捉えられると勘違いしがちであるというお話が印象に残りました。また、こうした考えの下、時間の経過や見慣れてしまったものなど、今まで見えなかったことに気付くことができるか、見つけた際にどう探しに行けるかを作品制作の際に考えているという、作品への思いをご説明いただきました。道後のクリエイティブステイでは、「ネットで配信して積み重ねるものと実際に自分で書いたものというオンラインとオフラインのものを積み重ねていくということをしてきた」とご説明していただき、個人の記録でも配信をすることで場所として社会で共有される面白さについてのお話も印象に残りました。

次に、伊藤香織氏（東京理科大学教授 /UDCM プロジェクトディレクター）からは、グッドデザイン賞受賞作品にみる「地域デザイン」について、そして地域芸術祭について、ご紹介いただきました。グッドデザイン賞については、2020年と2021年に選出された空間や地域で行われている取り組みのデザインを例に、様々な立場や地域の特性を生かした「地域デザイン」についてお話しいただきました。その中で、内向的になりやすい地域デザインを地域外の人の視点を入れることで、捉え方に変化が生まれるというお話が印象に残りました。また、地域芸術祭の事例を踏まえて、定義付けの難しい地域アートが持つ地域の魅力を発信する可能性の高さについても、お話しいただきました。



現地会場の様子 (Vol.22)

つづいて、川口真沙美氏（日本デザイン振興会）からは、何がデザインミュージアムに必要なことについて、ご自身の考えをお話しいただきました。デザインには、地域資源や歴史文化を共有することによって地域らしさの共通理解をする“アーカイブ”と、見出した地域らしさを継承していく“プロモーション”の2つに分けることができるとご説明いただきました。また、グッドデザイン賞が担う役割や仕組み・理念やデザインの領域の広さについてもご説明をいただき、その中で、審査の視点ではその時代で良いとされているものをもとに評価していること、それらを時系列に並べて日本のデザインとして共有することで生活文化との関係性なども併せて考えることができるというお話が印象に残りました。

デザインプロモーションの変化によりデザイナーではない人のデザインに対するかかわり方や自分の興味関心のある分野をキャッチする仕組みなど、デザインを通して身の回りの社会の課題について考えることができるとお話いただきました。



レクチャーの様子 (Vol.22)

さいごに、増橋佳菜氏（東京大学大学院修士1年）から、2022年3月に実施したミュージアムツアー「江東区防災ミュージアム」についてご紹介いただきました。このツアーは、異なるコンセプトを持った3つのミュージアムをツアーとして回ること自体が模擬避難体験になっており、各ミュージアムの展示では、過去の被害から実際の被害想定などを視覚だけでなく、体感してもらうことで防災について考えていただくきっかけになっている点と、抽象的な表現をすることで、来客者のイメージがわかりやすいと考えたという点が、印象に残りました。

今回のレクチャーは、「地域デザイン」の可能性の広さや、空間と時間をとらえた表現方法などを学ぶことができ、地域デザインミュージアムへの期待が膨らむ大変貴重な機会となりました。(TA 谷)



2022.09.03

Vol.23「松山のミュージアムを識る」

兼 スクール第3回レクチャー

ゲスト講師：

平岡 瑛二氏（子規記念博物館 学芸員）

徳永 佳世氏（坂の上の雲ミュージアム 学芸員）

中野 靖子氏（伊丹十三記念館 学芸員）

「松山のミュージアムを識る」をテーマに、松山を代表するミュージアムである子規記念博物館、坂の上の雲ミュージアム、伊丹十三記念館から3名の学芸員の方々をお招きし、レクチャーしていただきました。

はじめに、平岡瑛二氏から、博物館のコンセプトや展示、俳句大会などの博物館主催の活動についてご説明をいただきました。その中で、「正岡子規という一人の人間を見ると、俳人や歌人、明治時代を生きた青年などさまざまな側面がある。子規の生涯を通じて、松山の伝統や文化、近代文学、近代史といったことを広く見てもらおうという展示をしている。」というお話が印象に残りました。

つづいて、徳永佳世氏から、坂の上の雲ミュージアムが持つ3つの機能（小説「坂の上の雲」に関する展示機能・フィールドミュージアムのガイダンス機能・まちづくり支援機能）や展示デザインについてお話していただきました。展示デザインについては、視覚的、聴覚的に見せていくことで、小説について改めて思索を深められるような展示空間の構成をおこなっているとし、イラストを用いた展示デザインや模型や音声を使った場面の立体再現、空間演出など実例写真をふまえながらご紹介いただきました。

つづいて、中野靖子氏（伊丹十三記念館 学芸員）から、記念館のコンセプトや学芸員の日常業務、企画展の構想についてお話いただきました。まず、記念館の概要と設立経緯について、映画監督である伊丹十三の生い立ちや松山との関わりをふまえながら、ご説明いただきました。また、記念館の設計デザインについて、外観・内観の写真や平面図を用いながらご紹介いただきました。さらに、館内の展示構成について、伊丹十三の少年時代から映画監督になるまでの仕事や趣味について、年代を辿るように展示されているとした上で、多様な展示デザインが施された館内写真をふまえながらお話いただきました。そして、企画展の構想については、開館からおこなわれてきた6つの企画展を遡りながら、その概要や背景などをご説明いただきました。お話の中で、「誰にでも覚えがあること、みんながやっていること、みんながもやもやと疑問に感じていることを切り口にする、お客様にも興味を持っていただけて、伊丹十三を（映画監督としてだけでなく、）また違った側面から見ていただけるのではないかと思う」という言葉が印象に残りました。



レクチャーの様子 (Vol.23)

レクチャー後は、羽藤英二 UDCM センター長と3名の学芸員の方々によるクロストークがおこなわれました。まず、羽藤センター長から、講義の感想として、各ミュージアムがもつデザインの個性についてお話いただきました。

それぞれに展示されている年表から見られる時代、時間の表現の仕方など細やかに施されるデザインの工夫に触れながら、「展示を見ている者の人生と展示されている者の人生が近づいていくような感覚が『展示』から生まれる」と述べられました。また、正岡子規、司馬遼太郎、伊丹十三という3人の創作者と松山との接点について触れながら、「松山というまちが変わって行く中で、彼らがどのような創作活動を行っていたのかを知ることや、人々が生きた時代を表している都市という器を表現することで、彼らが生きた時間をもう少しだけ近くに感じるきっかけになるのではないか」とお話いただきました。



クロストークの様子 (Vol.23)

さらに、羽藤センター長は、ミュージアムは展示機能だけではなく、文化的な場所としての機能もあるとした上で、3名の学芸員の方々に対し、『学芸員として感じる課題や苦勞』という話題提供がなされました。平岡氏からは、年代の古い資料は文字資料が多いので、単にパネル化するだけではなく、映像やイラストなどを用いた工夫が必要な点を挙げられました。また、中野氏からは、伊丹十三記念館が郊外に位置し、観光向きでない点を挙げ、来館者数を伸ばすための課題について述べられました。そして、徳永氏からは、若い世代に関心を持ってもらうための展示のあり方について取り上げ、さまざまな仕掛けを作って、展示の中に入れていきやすくする工夫が必要と述べられました。

羽藤センター長からは、ミュージアムの外を出たときに、当時の時代が感じられたり、当時の情景に共感できるようになるといいとした上で、本スクールの受講生にも、時代を超えて、共感を生み出す仕掛けをいろいろな表現の仕方でも挑戦してもらいたいとしました。



質疑の様子 (Vol.23)

質疑応答の時間では、スクール受講生から「ミュージアムは一回行ってしまうと、その後行かなくなってしまうことが多いが、何回も見るとこそ味わえる、考えるというようなことがあれば教えてほしい」という質問が上がりました。これに対し、中野氏からは、「毎日の生活の中でも、目がいくところが違うと思う。変わらないものを見て、自分の変化を感じることに楽しさを覚えたり、お客様の見方から新たな発見を感じることが楽しい」とお話しいただきました。

さいごに、羽藤センター長は、「今、ミュージアムが地域資源を価値化させるものとして重要なインフラストラクチャーだと認識されるようになってきている。地域の人に新しい気づきを与えられるような、地域デザインミュージアムをつくっていったらと思う」と述べられ、今後のスクール活動に大きな期待を寄せました。

今回は、展示のデザインや表現を学ぶだけでなく、学芸員の皆さまの展示に懸ける想いに触れられる、大変貴重なレクチャーとなりました。(TA 中出)



2022.09.08

Vol.24 「スマートシティ」

兼 スクール第4回レクチャー

ゲスト講師：

大村 珠太郎 (清水建設)

谷口 暢夫 (NEC)

「スマートシティ」をメインテーマに、清水建設とNECから2名のゲスト講師をお招きし、レクチャーしていただきました。

はじめに、UDCM 三谷卓摩ディレクターから、松山アーバンデザインセンターが参画している「松山スマートシティプロジェクト」について説明がありました。国土交通省のスマートシティモデルプロジェクトとして支援を受けており、都市データを活用した「データ駆動型都市プランニング」を確立することで、松山市が取り組む「笑顔あふれる歩いて暮らせるまち」の実現を目指しているとのお話がありました。人流や車両、建物、道路などの情報をサイバー空間に取り込んだシミュレーションを行っており、公・民・学の協働の基にスマートシティ構想がなされている点が印象的でした。さらに、時刻表や交通結節点などのデータを活用したシミュレーションによって、アクティビティとモビリティの検証・評価が行われ、将来の予測が可能になるとの説明がありました。

つづいて、大村珠太郎氏 (清水建設) から、「デュアルモード・ソサイエティにおける交通防災まちづくり」として、豊洲スマートシティの先進的な取り組みについてご紹介いただきました。

まず、清水建設は「次世代のまちを共創する」ことを目指し、豊洲スマートシティの開発に取り組んでいるとご説明いただき、歴史や対象エリア、推進体制の詳細と「ミチノテラス豊洲」におけるプロジェクトの概要とそれが果たす機能についてお話いただきました。道の駅が果たす機能は休憩所や地域活性化が挙げられますが、それに加え、複数のモビリティが混在する交通結節点の場、安心・安全の防災機能の実現を図った整備と施設の運用方法のお話が印象に残りました。また、建物 OS を介してさまざまなデバイスが繋がるような建物づくりを目指す「DX-Core」を開発したり、都市 OS を用いて 3D 化したシミュレーションをおこなったりすることで、まちにとって最適なサービスを提供しているのご説明をいただきました。豊洲のまちづくりのためには、豊洲スマートシティ推進協議会の取り組みによるポータルサイトやスポットラリー、「ミチノテラス豊洲まちびらき」によるマルシェの運営等によって地域の連携を維持し、今後のまちづくりに必要となるデータを社会実証によって分析することが重要であると述べられました。



レクチャーの様子 (Vol.22)

つぎに、谷口暢夫氏 (NEC) から、「まちづくりと DX」として、松山をはじめとする現場でのデータ取得・収集の実践についてご講義いただきました。少子高齢化や COVID-19 などの社会的側面から、まちづくりは段階的にブランド価値が増加しているとの説明のあと、課題の多様化によって合意形成が難しく、まちづくりに終わりが無い現状についてお話いただきました。

そこには、サプライチェーンの変遷の中で、IT 効率化による新しいデータの価値創出として、リアルな人とモノへのデータのフィードバックとその背景にある技術的進展についてご説明をいただきました。技術の具体的な活用については、新横浜花火大会で実証実験がされており、カメラと Wi-Fi センシングの同時計測を利用したゾーニングによって、3つの駅の混雑、人流、滞在時間を計測・推計した例が印象的でした。そのほか、松山市駅前広場等でも実証実験が行われており、複数のデータを組み合わせることによって高精度なデータを生み出すことの可能性についてご説明いただきました。これらの実証実験を通して、そもそもデータ流通の推進以前にデータが乏しい現状が浮かび上がり、加えて現実を踏まえないトップダウン型のアプローチや戦略としてのメトリック (計測指標) やビジョンの欠如等の課題についてもお話いただきました。これらの課題を踏まえ、未来を考えるうえでのボトムアップやビジョンと戦略の策定、人材面の改善を通して、楽しむことで未来を考える必要性について述べられました。

今回のレクチャーは、松山の取り組みだけでなく、他地域の先進的な取り組みの事例を知る貴重な時間となりました。(TA 松尾)

(2) シンポジウムの開催

2022年3月30日に伊予鉄グループ本社ビルにて『松山の新たな駅まちづくりシンポジウム』を開催しました。交通やまちづくりのさまざまな分野で活躍されている専門家を迎え、基調講演をはじめ、事例紹介やディスカッションによって市民の皆さんと松山の新しい駅まちづくりについて考える場となりました。



会場の様子

2022.03.30 13:00-17:00

松山の新たな駅まちづくりシンポジウム

場所：伊予鉄グループ本社ビル6階ホール

共催：松山アーバンデザインセンター / 松山市

後援：四国旅客鉄道株式会社 / 株式会社伊予鉄グループ

開会挨拶 羽藤 英二 (UDCM センター長)

はじめに、羽藤氏による開会挨拶では、松山という都市の進展に関わるイノベーション、交通ネットワークが時代の変わり目を迎える中、本シンポジウムが「全員が意識を合わせ、さまざまな意見に耳を傾け、未来の松山について議論する場になることを切望する」という思いが語られました。

基調講演『バスタプロジェクトの取り組み』

手塚 寛之 (国土交通省道路局企画課 評価室長)

つぎに、手塚氏による基調講演では、みち・えき・まちが一体となった新たな空間の創出について、バスタ新宿をはじめ各地域の事例が説明されました。PPP/PFIの有効性がバスタの官民連携の要件である点について述べ、「松山のバスタの検討が今日をきっかけに加速度的に進むよう国としても取り組んでいきたい」という言葉で締めくくられました。

事例報告『三重県のバスタ構想』

水野 宏治 (三重県県土整備部 部長)

つづいて、水野氏による事例報告『三重県のバスタ構想』では、三重県と災害の関係性からバスタの必要性について、バスタ四日市の空間整備、津駅の道路空間の整備方針について熱意ある説明がおこなわれました。

事例報告『松山市のまちづくり』

石井 朋紀 (松山市都市整備部 推進官)

石井氏による事例報告『松山市のまちづくり』では、道後温泉駅周辺、古町駅、大街道一番町口、花園町通りの交通まちづくりの事例を整備前後で比較しながら、これまでのまちづくりの経緯について紹介されました。また、現在、進行中である松山市駅前、JR松山駅前の空間改変事業についても紹介され、結節点としての機能と市民の公共交通の利便性を高めることを目指していきたいという思いが語られました。

パネルディスカッション

パネリスト：

羽藤 英二	東京大学大学院 教授
手塚 寛之	国土交通省道路局企画課 評価室長
竹中 由紀夫	愛媛県バス協会 理事
小野 悠	豊橋技術科学大学 准教授
中川 逸朗	愛媛県土木部 道路都市局長
石井 朋紀	松山市都市整備部 推進官
西牧 世博	JR 四国 代表取締役社長

(ビデオレター)

羽藤氏、手塚氏、竹中氏、小野氏、中川氏、石井氏の6名によるパネルディスカッションが、羽藤氏をコーディネーターとしておこなわれました。

パネルディスカッションに先立ち、西牧氏からのビデオレターが紹介され、ビデオ内ではJR四国の松山駅付近高架化事業、駅まちづくりの開発についての説明がありました。

パネルディスカッションでは、まずJR松山駅の課題についての議論がおこなわれました。小野氏からは「まちとの距離感が視覚的、心理的にあると感じる点が問題点である」との指摘がありました。また、交通機能を超える価値が現状ないことが問題との意見が出されました。手塚氏からは「交通の課題ははっきり見えているため、そこをクリアしたうえで、景観的なものを並行して考える必要もある」といった意見が出されました。つぎに、駅まちに何が求められているのかをテーマに議論がおこなわれました。竹中氏からは「必要なものは事前に準備する、カーボンニュートラル等への配慮など、将来的な環境面の設計・施工が駅には必要である」といった意見が出されました。中川氏からは「専門家の議論のみにとどまらず、市民や事業者を巻き込んだ取り組みやアーバニストが魅力的な都市を創ることを考え、市民に伝わるような提案が必要である」との意見が出されました。

また、まちづくりに若い人が参加できる環境についての議論には、石井氏から「例えば、外国料理を食べたいならJR松山駅前」といったような広場としてのイメージ創出の具体的な一例など、個性ある面白い駅まちづくりについての意見が飛び出しました。

さいごに、羽藤氏は「我々の文明が変化し、社会が押し流される中で新しい人とのつながり・地域の選択が、松山のバスタがスタートするために必要である」と述べ、「駅まちが様々な世代のバリアをなくし、徹底した機能美を目指していくことで、今までにない駅まちを創っていくんだ」「この松山市駅前とJR松山駅前で同時に創っていくんだ」という強いメッセージをもってパネルディスカッションが締めくくられました。

閉会挨拶 野志 克仁（松山市 市長）

野志氏による閉会挨拶では「乗り継ぎの利便性だけでなく、待ち合い空間、賑わいの空間等、バスタ新宿のような人中心の空間が必要であり、単独の機能ではなく、一体的な整備が必要である」と述べられ、松山でバスタプロジェクトを実現したいという熱い宣言をもって、シンポジウムが閉会しました。

本シンポジウムのアーカイブ動画はYouTubeにて公開している。詳細をご覧になりたい方は、下記QRコードをバーコードリーダーで読み取っていただくか、YouTubeにてUDCMのチャンネルをご検索いただきたい。



アーカイブ動画のQRコード（YouTube）

シンポジウム

松山の新たな 駅まちづくり

松山市駅とJR松山駅。都市の基幹となる2つの交通結節点が大きく変わろうとしています。

都市圏内や広域交通のネットワーク、駅周辺の街並み、駅前広場のレイアウトなどアーバンデザインが変わることで、仕事帰りの立ち寄りや休日の過ごし方、人との交流など、駅に關わる一人ひとりの方のライフスタイルも変わります。

このシンポジウムでは、専門家の方をお招きし、基調講演や事例紹介、ディスカッションなどを通じて、市民の皆様とともに松山の新たな駅まちづくりを考えます。

日時 2022年3月30日(水)13:00～17:00
(開場12:30)

場所 伊予鉄グループ本社ビル6階ホール
松山市湊町四丁目4番地1（松山市駅 東側）

定員 先着80名
※ まちづくりに興味のある方は、どなたでも参加いただけます。
※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため入場容量を制限する場合があります。

申込 右のQRコードより事前申し込み可（3月25日）
申込フォームURL: <https://forms.gle/1Ua5uGz2FR7Luu8>

**入場
無料**

— プログラム —

<p>13:00 開会挨拶 UDCMセンター長 羽藤英二</p> <p>13:05 基調講演 バスタプロジェクトの取組み 国土交通省運輸局企画課 評定室長 手塚貴之</p> <p>14:15 第1部 事例報告 三重県事例紹介 三重県県土整備部 部長 水野聖治 松山市のまちづくり 松山市都市整備部 地産官 石井純紀</p> <p>15:15 第2部 パネルディスカッション 東京大学大学院 教授 羽藤英二 国土交通省運輸局企画課 評定室長 手塚貴之 愛媛県バス協会 理事 竹中由紀夫 国鉄技術科学大学 准教授 小野浩 愛媛県土木部 道路部部長 中川道明 松山市都市整備部 部長 石井純紀 河野建設株式会社 取締役 川口トシトキ</p> <p>16:45 閉会挨拶 松山市長 野志克仁</p>	<p>会場位置図</p>
---	--------------

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場ではマスクの着用や手洗いの消毒、換気等への協力をお願いします。

◇ 共催：松山アーバンデザインセンター（UDCM）／松山市
◇ 後援：四国旅客鉄道株式会社（JR四国）／株式会社伊予鉄グループ

問い合わせ先
松山市 都市整備部 都市・交通計画課
TEL 089-946-6946
Mail: top@city.matsuyama.lg.jp

シンポジウムの開催案内

Chapter

05

連携プロジェクト

UDCMでは、非常勤の専門性の高いディレクターを中心にした個別プロジェクトを「連携プロジェクト」と位置づけて取り組みを行っている。具体的には、都市郊外のあるべき姿を検討するメディア制作の「松山歴史まちあるき」、愛媛大学地域デザイン研究室の学生を中心に小学生・中学生を対象に実施した「UDNM まちづくり塾 2022」、UDCMの活動趣旨に合致するまちづくり活動等に対して助成金を支給する「まちづくり支援事業」、UDNMが委託業務として行っている「官民連携まちなか再生推進事業」について紹介する。

- ・ 松山歴史まちあるき
- ・ UDNM まちづくり塾 2022
- ・ まちづくり支援事業
- ・ 官民連携まちなか再生推進事業

(1) 松山歴史まちあるき

今後の都市のあるべき姿を検討することを目的としたメディア制作を行うプロジェクト「松山歴史まちあるき」の取り組みを行なっている。

1) 「松山歴史まちあるき（久米編）」のメディア制作

2020年度から取り組みを開始し、昨年度公開した余土地区に引き続き、今年度は久米地区を対象にメディア制作にとりかかっており、お忍び渡御の試作版を作成した。次年度の公開に向けて追加の取材や編集作業を行っており、その詳細については、次年度の年報にて報告したい。



久米編（お忍び渡御試作版：タイトル画面）



宮司による遷宮祭（遷座祭）の神事
久米編（お忍び渡御試作版：神事の様子）

2) 松山歴史まちあるきトークの展示

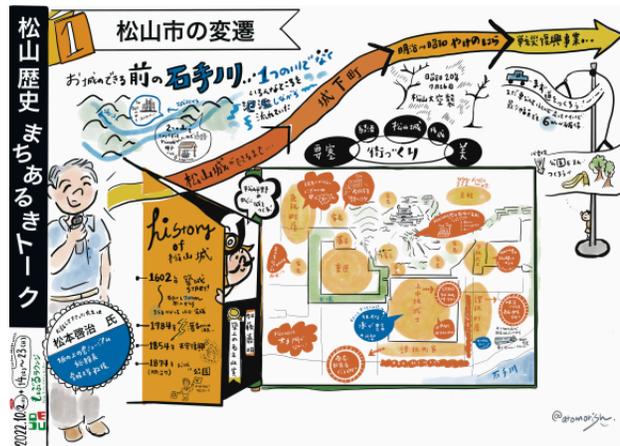
現在のまちを歩くだけではわからない歴史について学ぶことができるコンテンツとして、「松山歴史まちあるきトーク」を企画した。

2022年10月2日（日）に坂の上の雲ミュージアム総館長の松本啓治氏をUDCMにお招きし、まちや交通の変遷、正岡子規ゆかりの地など松山の歴史に関する3つのテーマについてトークライブを開催し、収録をおこなった。収録した映像コンテンツと、その内容をまとめたグラフィックレコーディング風のイラストをパネルにしてセットで展示をおこなった。

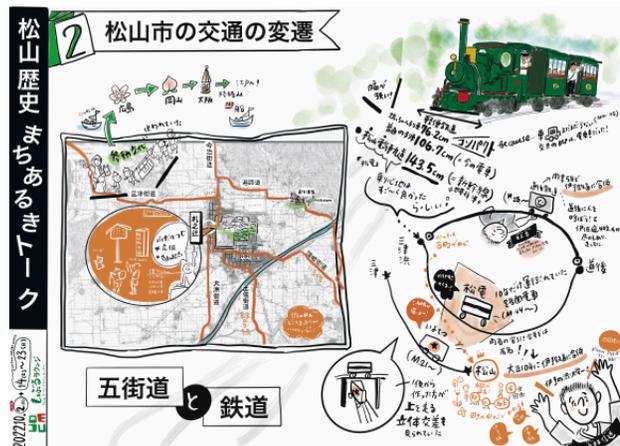
展示は、urban design week. の企画として、2022年10月14日（金）～23日（日）に実施した。さらに、2023年2月25日（土）までの継続展示をおこなったことで、もぶるラウンジ訪問者の方々に広く見てもらうことができた。



トークライブの様子



トーク1：まちの変遷（グラレコ風イラスト）



トーク2：交通の変遷（グラレコ風イラスト）



トーク3：正岡子規ゆかりの地（グラレコ風イラスト）

(2) UDNM まちづくり塾 2022

2022年10月から11月にかけて、松山市に住む小学校高学年から中学生の児童を対象に、一般社団法人松山アーバンデザインネットワーク (UDNM) 主催の「まちづくり塾 2022 松山のまちを歩いて模型をつくらう！」が開催された。

プログラムに興味を持つ児童を広く一般に募集し、市内に位置する6つの小・中学校から小学4年生4名、5年生1名、中学1年生2名の計7名の児童が参加した。愛媛大学理工学研究科地域デザイン研究室の学生がスタッフとして参加し、児童1、2名のグループに対して学生を1、2名配置した。本プログラムが対象とするまちの範囲は、児童が地域の人や自然、歴史が感じられるように、商店街や公園、松山城などが立地する松山市の中心部を選定した。

本プログラムでは、全5回の構成とし、児童がまちや身近な他者と関わり合いながら学ぶためのワークとして、「まちの模型づくり」、「まちの模型みがき」の模型製作と、「自分のまちの思い出さがし」「みんなのまちの思い出めぐり」のまちあるきをはじめとする、全21のワークに取り組んだ。また、各回の最後に「振り返り」を設け、グループで語り合う時間とした。プログラム全体の流れは、次頁の表を参照。



完成したまちの模型



松山のまちはいろんな魅力で溢れています。そんな松山のまちを立体的に表現する「模型づくり」と、「まちあるき」を行うプログラムを開催します。松山のまちをいろいろな角度から見ていきながら、みんなで楽しく学んでいくプログラムです。松山のまちに興味がある方、ものづくりがしたい方、どなたでも大歓迎です。ふるってご参加ください！

定員 10名程度

実施場所 松山アーバンデザインセンター
もふるラウンジ (UDCM)

対象 小学4年生～中学3年生

住所 | 松山市花園町 4-9 岡田ビル 1F

実施日時 全5回 実施予定

- 第1回 9/3 (土) 14:00～16:00
- 第2回 9/10 (土) 14:00～16:00
- 第3回 9/17 (土) 14:00～16:00
- 第4回 9/24 (土) 14:00～16:00
- 第5回 10/8 (土) 14:00～16:00

※ 新型コロナウイルスの感染状況等によって日程の変更や中止の可能性がございます。予めご了承ください。



まちづくり塾フライヤー

最終回の第5回では、児童の保護者をお招きし、まちの模型と思い出動画の発表をおこなった。最後に、「松山と私」について考えるワークに取り組み、全5回のプログラムを経て、松山と自分自身をつないでいるものが何かをグループ内で説明するワークをおこなった。

松山の「今」を観察し、「これから」を考えることを通して意味を多角的に考える力、社会への関わり方を選択する力、積極的な社会参画の力を養うことを目的に、昨年度に引き続き開催されたまちづくり塾。松山アーバンデザインネットワークでは、アーバンデザインとまちづくりに関する実践ならびに将来の担い手育成を促進する活動を今後も行っていく予定である。

表 プログラム全体の流れ

実施回 (実施日)	活動風景	時間	活動内容
第1回 (2022.10.3)		15分	「松山と私」の 連想ワーク ・「松山と私」を説明する言葉を連想し、連想した理由をグループ内で語り合う。
		40分	まちの模型づくりの練習 (自分の担当エリアの制作) ・自分の担当エリアの中で、建物模型や樹木模型を作り、模型土台に貼り付ける。
		10分	振り返り ・グループで振り返りを行う。 (楽しかったこと、印象的だったこと等)
第2回 (2022.10.10)		45分	まちあるき (自分のまちの思い出さがし) ・グループ(児童1,2名+学生1名)でまちを歩き、児童自身のまちの思い出について語り合いながら、思い出の場所で写真や動画を撮影し、地図にプロットする。
		20分	自分のまちの思い出 まとめ ・まちあるきで撮影した写真の中から「お気に入りのまちの思い出写真」を3枚選ぶ。 ・選んだ写真について、思い出の内容をカードに書く。
		15分	大学生へのまちの 思い出インタビュー ・家族へのまちの思い出インタビューに向けて、グループの大学生に対してインタビューする。
		10分	振り返り ・グループで振り返りを行う。 (楽しかったこと、印象的だったこと等)
	自宅課題		家族へのまちの 思い出インタビュー ・児童自身が、家族や友達に対してまちの思い出をインタビューする。 (「どこで、いつ、誰と、どんな思い出」を書くインタビューシートを用いる)
第3回 (2022.10.17)		10分	思い出インタビュー の結果共有 ・グループで「まちの思い出インタビュー」の結果を共有しながら、 感じたことを話し合う。
		15分	家族のまちの思い出 まとめ ・「まちの思い出インタビュー」で集めた家族や友達の思い出について、インタビュー シートをもとに思い出の内容をカードに書く。
		15分	思い出カプセル づくり ・まちの思い出を書いたカードをカプセルに入れ、模型上の位置を確認する。
		20分	まちの模型づくり (全エリアの制作) ・全てのエリアの建物模型や樹木模型を作り、模型土台に貼り付ける。
		30分	まちの思い出動画 の鑑賞 ・第2回のまちあるき(自分のまちの思い出さがし)で撮影した思い出動画を鑑賞し、 模型を使って、思い出の場所や内容を全体に向けて共有する。
		10分	振り返り ・グループごとに振り返りを行う。 (楽しかったこと、印象的だったこと等)
第4回 (2022.10.24)		50分	まちあるき (みんなのまちの思い出めぐり) ・グループ(児童1,2名+学生1名)でまちに出て、インタビュー等の活動を通して 集めた家族や友達の思い出の場所で写真や動画を撮影する。
		15分	まちの模型みがき (思い出カプセルかざりと 全エリアの発着) ・思い出カプセルを模型上の思い出の場所の位置に取り付ける。 ・残り全てのエリアの建物模型や樹木模型を作る。
		15分	振り返り ・グループごとに振り返りを行う。 (楽しかったこと、印象的だったこと等)
第5回 (2022.11.3)		20分	模型・思い出動画 の発表 ・制作した模型や第2回のまちあるき(自分のまちの思い出さがし)や第4回のまちあるき (みんなのまちの思い出めぐり)で撮影した思い出動画を保護者に向けて発表する。
		20分	プログラム全体 の感想まとめ ・まちづくり学習プログラム全体を通じた感想を書く。
		25分	プログラム全体 の感想発表 ・これまでの活動について振り返り、「学んだこと・感じたこと」や「松山に対す る思い」などについて語り合う。
		10分	「松山と私」の 説明ワーク ・「松山と私」を説明する言葉を使って、グループ内で語り合う。
		10分	振り返り ・グループごとに振り返りを行う。 (楽しかったこと、印象的だったこと等)

(3) まちづくり支援事業

1) 概要

UDNM では、まちづくり活動や調査研究活動の実践能力向上を目的として、UDCM の活動趣旨に合致するまちづくり活動等に対して助成金を支給している。2022 年度は、「NPO 団体 イイトコ道後」に当制度が活用された。本項目では、イイトコ道後の活動について報告する。

2) 活動報告

夕焼けベンチ+裏道後ツアー

2018 年度アーバンデザインスクール卒業生が立ち上げた NPO 団体イイトコ道後による企画である。スクール受講生としての活動終了後も、NPO を立ち上げ、道後・上人坂を中心に活動している。立ち上げメンバーは大学卒業と共に団体からは離れたが、後輩メンバーがその思いを引き継ぎ、活動を継続している。今回 UDweek. プログラムとして実施した夕焼けベンチには 31 名、裏道後ツアーには 24 名が参加。UDCM としては UDNM まちづくり活動支援事業としてイイトコ道後のプログラム支援をおこないつつ、前述の 2021 年度スクール受講生企画との連携調整をおこなった。

【概要】 宝厳寺境内に設置するオリジナルベンチに座り、坊っちゃん団子の食べ比べをしながら夕焼け観賞を楽しむプログラム。夕焼け鑑賞後におこなうツアーでは、宝厳寺・上人坂と文豪たちとの関わりや、上人坂の歴史や伝説などについてメンバーが解説。

会期：2022 年 10 月 15 日（土）

会場：道後・宝厳寺境内および上人坂

時間：16 時 30 分～18 時 30 分

【活動レポート】

NPO 団体 イイトコ道後（愛媛大学 4 年 濱田優唯）

1. 企画の背景と目的

道後は愛媛県の有名な観光地であり、道後温泉本館や道後商店街は人通りが多く観光客などでにぎわっている。一本外れた通りにはかつて道後の色町として栄



企画フライヤー

えていた「上人坂」や、一遍上人の生誕地である「宝厳寺」、湯の大地蔵尊が存在する「円満寺」など歴史深い場所や情緒あふれる雰囲気味わえる場所が点在する。さらに、上人坂は道後商店街といった人通りの多さとは一風変わり、自然が残る穏やかな静かな場所である。これら地域資源を観光客や地元の人に知ってもらうことで、当該地域の活性化と合わせて、道後地域の新たな魅力を構築することに加え、コロナ禍で衰退した地域に貢献することを目的に活動を実施した。

2. 企画内容

夕焼けベンチ in 宝厳寺

- ベンチ作りワークショップで作成したベンチを宝厳寺に設置して夕焼けを鑑賞



開催当日の様子

- 温かいお茶と道後で作られている3店舗（巴堂、つばや菓子舗、白鷺堂）の坊ちゃん団子を用意（各回先着20名様）
- 参加者の思い出作りとしてチェキをプレゼント（SNSでイベント時の内容を投稿した方限定）
- イイトコ道後オリジナル缶バッジ、いっぺん袋をプレゼント
- イベントにまつわる俳句を作成

知られざる裏道後ツアー

- 円満寺や宝蔵寺、上人坂、裏道を案内、上人坂今昔マップを用いて説明しながら参加者と一緒に歩いて回遊する



裏道後ツアー開催の様子

3. 成果と課題

参加者の感想と満足度・改善点などを調査するためにアンケートを行い、20人の回答を得た。夕焼けベンチの満足度は5段階のうちの最も高い「満足」と回答した方が70%で、「やや満足」と回答した方は20%、「普通」と回答した方が10%という結果であった。また、イベントの感想では「坊ちゃん団子を貰い、道後散策までできて盛りだくさんな内容で楽しい時間だった。」や「とてもきれいな夕日で素敵な場所だと思った。」という言葉が印象的であった。

これらの結果から当初の目的であった『たくさんの人に道後の隠れた魅力を伝え、知ってもらい、広めること』が達成できたのではないかと考える。さらに、10月、11月、12月と毎月開催したことで、夕日の時間帯や季節感の違いを楽しめる機会となった。

イベント全体を通して、上人坂・宝蔵寺に足を運んでもらうきっかけ作りや、まちの方々と今後につながる関係を築くことができた。一方で、もともと人通りの少ない場所に集客しようとするのはかなり難易度が高いことや、イベントの周知の難しさを実感した。10月は、urban design week. と同日開催であったため、予定していた人数より多かったが、11月と12月のイイトコ道後単独でのイベントでは、参加者や事後アンケート数は10月と比較すると少なかった。今後は、道後温泉旅館共同組合だけでなく道後商店街復興組合、道後誇れるまちづくり推進協議会とも連携を図りながら広報を行っていく。

4. ご協力いただいた皆さま

長岡陽子さま（宝蔵寺住職）／山澤満さま（山澤商店）／白鷺堂さま／巴堂さま／つばやさま／道後温泉旅館協同組合（観光案内所）さま／ひみつジャナイ基地の皆さま／シナモンゲストハウス道後さま／道後温泉事務所の皆さま／UDSCスクール道後グループの皆さま／UDCMの皆さま



イイトコ道後メンバー

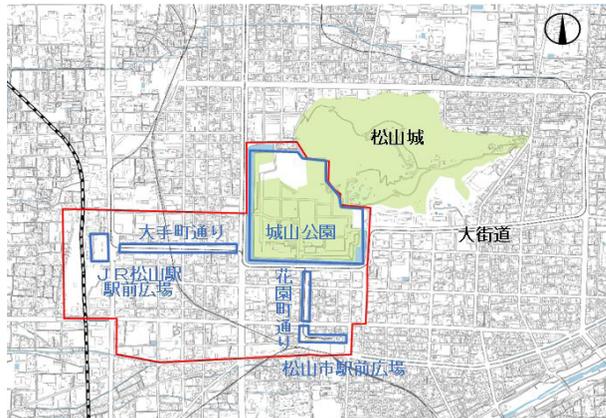
(4) 官民連携まちなか再生推進事業

1) 概要

当事業は、松山市が国土交通省都市局の「官民連携まちなか再生推進事業」の採択を受け、官民の様々な人材が集積するエリアプラットフォームの構築やエリアの将来像を明確にした未来ビジョンの策定、そのビジョンを実現するための自立、自走型システムの構築に向けた取り組みを行っているものである。2022年度は、松山市より「中心市街地西部エリア シティプロモーション・情報発信業務委託」をUDNMが受託し、エリアマネジメント勉強会のコーディネーターとして参加した。本項目では、勉強会開催内容について報告する。

2) 対象エリア

当事業は、松山市駅及びJR松山駅の周辺、並びに、これら拠点を繋ぐ城山公園や花園町通り、大手町通りの周辺など、松山市中心市街地西部エリアを対象とする。



対象エリア

3) エリアマネジメント勉強会開催

《第1回》2022年10月31日 14:00～16:00

《講師》広場ニスト / ひと・ネットワーククリエイター
山下 裕子

《コーディネーター》板東 ゆかりディレクター
《講演》

テーマ1 子どもの居場所

地域にあそび場が在ることは子どもが地域に関わりをもつ機会につながる未来への投資

平日の日中に広場を使う人は誰だろうと考えると、未就学児や小学校低学年の子どもたちが思い浮かびました。そこで県内の幼稚園・保育園・小学校に「広場に遊びにきませんか」とご案内し、子どもたちに遊んでももらいました。富山では、タイルにお絵かきをしてもらい、描いた後はしっかり掃除をしてもらいました。子どもたちにとっては掃除も遊びの1つで、絵を描くよりも長く取り組んでもらい、子どもたちにとっては何でも遊びになるのだと思いました。

やはりまちを思う人は、まちに思い出がある人です。これからの地域を担う大人になる子どもたちに、松山にとってこれから大事なものに触れ合う機会がある広場を積極的につくってもらいたいと思いました。



タイルを清掃する子ども達

提供：山下 裕子

テーマ2 チャレンジの機会

空間の可能性は、無限大

可能にするため No はナシ

富山で広場を運営する際に大切にしたのは「できません」という発想はやめることでした。いろいろな人が

自由な発想をしてくださるわけですが、それを少しでも叶えていこうという姿勢がなければ、何かしようと思う人の気持ちが少しずつ萎縮してしまうことを感じたので、そう決めていました。

写真は富山大学の学生さんによる学園祭のPRの様子です。当時、富山県内の大学が統合し、学園祭が進んでいませんでした。それでも学生さんたちは「正式な学園祭ではなくても何かやりたい」と熱い気持ちがありました。当日の広場は全面予約があり、どうしても使用ができませんでした。ですがNoを言わないと決めていたので、どうにかできないか一生懸命考え、広場を通り過ぎればいいんじゃないかと思いつき、なんと通り過ぎました。そうすると面白い格好で通りすぎるものですから全員の目が止まり、PRをするという目的は当初の予想を上回る達成を成し遂げました。



広場を通り過ぎる仮装集団
提供：山下 裕子

テーマ3 遊びこころある人の居場所

×課題の解決 ○楽しいから、はじめる

富山では、グランドプラザを通して街の賑わいを創出するため「NPO法人GPネットワーク」という緩やかなネットワークを作っています。活動の1つとして、雨の日が多い富山で活動が続けられることに感謝し、グランドプラザのガラス屋根の清掃をしています。またガラスの屋根は下から見えるので、毎年県外からスパイダーマンが遊びに来てパフォーマンスしてくれます。こうしたように楽しいことからはじめることで、長く楽しく続けることができている。



ガラスの屋根でパフォーマンス
提供：山下 裕子

《意見・感想》

○松山市駅前のアーケードが撤去され、青空が見えはじめ、人の動きや滞留に変化があったように思います。富山でも広場ができて、周辺のテナントの構成などに変化があったのでしょうか。

元々ネクタイ屋さんだった店舗が世代交代でテイクアウト専門のパフェ屋さんになっていることがありました。店舗の前に広場ができ、食べる場所が生まれ、最近増えているテイクアウト可能な店舗と広場利用者のニーズがマッチし、互いに共存しているのだと感じました。

○テナントのゴミ問題の解決案、広場にあるとよい設備はありますか。

ゴミ収集事業者を一本化することや収集時間帯を広場利用者が少ない時間にすることが大切だと思います。広場にあるとよい設備は、動かせるイスとテーブルかなと思います。動かせることで、人は自分の居場所としての価値を見出し、居心地がよくなると思っています。居心地がよいと広場を大切に利用し、きれいにしたいという気持ちが芽生えると思っています。広場をきれいにする活動などは関係者の中で閉じずに、さまざまな会や活動を通して共同作業をする姿勢が大切だと思います。

《第2回》2023年1月23日 14:00～16:00

《講師》一般社団法人地域価値共創センター
統括マネージャー 山中 佑太
《コーディネーター》渡邊 浩司ディレクター
《講演》

テーマ1 カミハチキテルの概要

"車を捌くための道"から"歩行者が憩い、出会いが
起こる道"へ

魅力的な観光資源がある一方で歩行者の回遊性が低い相生通りを、本通り商店街に次ぐ第2の回遊軸に育てることを目的に、2020年3月に相生通りの将来像を仮説的に見える化する社会実験を実施しました。実験では、元々バス停の切り込みだった空間をウッドデッキの空間へ変えるなど、自動車中心の道路空間を歩行者が憩い、出会いが起こるストリートに変貌させました。実験は大変好評で、関係者や広島市の方のこういった取り組みを続けていこうという意向もあり、同年5月にエリマネ団体「カミハチキテル」を正式に発足しました。そして2021年1月、アフターコロナの都市空間をテーマに第2回社会実験を実施しました。当時言われていたソーシャルディスタンスを意識し、人工芝を点々と敷きその上に屋外で使える家具を置き“通り過ぎる広場”からコロナ禍で安心安全に“過ごす”まちのリビングへと変貌させました。



歩行者が憩うウッドデッキ
提供：カミハチキテル



人工芝と家具 提供：カミハチキテル

テーマ2 多様なプレイヤーと多様な資金調達方法

カミハチキテルの最初の社会実験の資金は一部行政資金もありましたが、9割以上が民間資金でした。民間資金は寄付金・協賛金やクラウドファンディング、現物出資など多様な方法を組み合わせて幅広く調達しました。現物出資では、広島県木材組合連合会様の協力により、ウッドデッキの材料を提供していただき、広島県産の材料を用い、社会実験としては非常に高質な空間が実現しました。また、空間だけではなく実際に楽しめる中身がなければ賑わいは生まれないと考え、空間にコンテナやキッチンカーを置きました。コンテナは、1日に2回出店者を入れ替える「日替わりコンテナ」としました。付近で勤めている人たちに「あそこに行くといつも違う店がある」と興味を持っていただき、お目当てに来られる方も多数いました。出店者は固定のお店を持たない方がほとんどでしたが、コンテナの出店がきっかけでメディアに取り上げられ、実際にお店をオープンした方もいました。



日替わりコンテナ 提供：カミハチキテル

テーマ3 ミライ志向型のビジョン

完成することが目的ではなく、

常に更新し続けるもの

カミハチミライデザインという将来ビジョンの実現に向けて、まちづくりのルールを定めたデザインガイドラインを策定しています。ビジョンでは、相生通りのトランジットモール化に向けて、松山市の花園町通りと同じように道路空間の再編を計画しています。もちろんトランジットモール化には賛成も反対意見もあります。そこで“ビジョンは決して不変なものではなく、明日どんなことが起きるかわからない時代に対応していくために、日々みなさんと話をしながら更新していくもの”として共有しています。



相生通りのトランジットモール化
提供：カミハチキテル

《意見・感想》

○広島では社会的課題に向けたビジョンを作っているということですが、その中に脱炭素化やSDGsなどの環境分野についての考え方は取り込まれているのでしょうか。また、行政の環境分野との連携はあったのでしょうか。

広島大学の環境専門の先生に監修していただきながら未来ビジョンの中に環境分野について記載しています。行政の環境分野とはこれから連携していきたいと考えています。

○寄付金や協賛金はこういった関係者から出資いただいているのでしょうか。

紙屋町・八丁堀沿線の方からも、エリア外の方からも出資いただいています。最初は繋がりのある人全員に声をかけ、協力者を探しました。そして取り組みがメディアで取り上げられるようになったこと、また前向きに企業さんと協力して取り組んでいるというプレゼンをしていたこともあり、いろんな企業から「上手くコラボして、まちで何かできるんじゃないか」と思われ「話を聞かせて欲しい。」と、新たな協力者が見つかることもあります。

○全国に様々なエリマネジメント活動があり、その多くが行政資金に頼った資金調達をしていると思います。その中でカミハチキテルでは民間の財源を主として収支を回し活動をしています。その理由はあるのでしょうか。

行政からなかなか資金を調達できなかったこともありますが、やはり民間が出資しているので色々な活動を民間主導で行いやすくなるということは重要であったと思います。

○勉強会はこういった母体でスタートしたのでしょうか。

紙屋町・基町にぎわいづくり協議会、広島市中央部商店街振興組合が母体となりました。商店街振興組合の専務理事がキーパーソンで、商店街をしっかりとめられていて、非常によいつながりでスタートしました。

《第3回》2023年2月24日 14:00～16:00

《講師》有限会社ハートビートプラン ディレクター
アーバンデザインセンター大宮

プロジェクトパートナー

新津 瞬

《コーディネーター》渡邊 浩司ディレクター

《講演》

テーマ1 さいたま市大宮駅周辺の事例紹介

ストリートデザインによる"新たな活動・経済効果・沿道経営体"の創出

まちづくりに取り組むときに、万遍なくしないといけないと思われがちですが、まずどこで集中的に取り組んでいくのか、戦略を考えることも1つの大事なポイントです。その戦略を実行するストリートの1つとして、一番街というアーケード商店街にてストリートテラスを実施しました。取り組みは2020年コロナ禍に開始しました。この商店街は飲食店中心でしたのでコロナ禍で相当厳しい状況だと聞き、商店街の会長と「できることがあるなら一緒にやりましょう」ということでストリートテラスが実施されました。その内容は、店先の道路で占用許可を取り、テーブルや樽を置いて飲食スペースを確保するなど、様々な軒先活用をしました。その結果、商店街に賑わいが生まれるだけでなく、店舗の売上も上がりました。あるお店ではテラス席だけで全体の1割もの売上が出たそうです。



街路・沿道の一体的利活用
提供：アーバンデザインセンター大宮



白線までを道路占用で活用
提供：アーバンデザインセンター大宮



店舗前テラスに植栽や樽を設置
提供：アーバンデザインセンター大宮

テーマ2 兵庫県姫路駅周辺の事例紹介

沿道事業者による活用で機運を作る

姫路駅前には姫路駅と姫路城を結ぶ「大手前通り」という全長800mの通りがあり、歩道がかなり広く整備されています。駅前広場はトランジットモール化され、人中心の広場の成功例として有名です。そういったこともあり、姫路駅周辺の不動産価値は向上している一方で、駅前の賑わいは「大手前通り」まで波及しませんでした。原因として、沿道建物の1階は銀行やオフィスなど閉じた用途が多く、商業用途が乏しいことが考えられました。また、大手前通りは通過動線として利用されることが多く、地元の人は1つ後ろにある商店街通りを通る人ばかりでした。こうした課題を解決するために街づくり協議会をはじめとした沿道事業者により、2019年に「ミチミチ」という社会実験を実施しました。大手前通りの広い歩道空間を活用し、

櫓を組んで憩いのスペースにしたり、沿道店舗の客席として活用してもらいました。こうした社会実験の結果、「大手前通り」が「ほこみち」制度の指定を受け、昨年8月から歩道を活用しています。実施から3か月後に店舗へヒアリングをすると、ほとんどの店舗で売上・集客などに良い効果があり、今後も継続的にやりたいとの意向を持っていました。こうした魅力的なコンテンツと賑わいの創出によって、事業収益の拡大、人が賑わう場所になる、というよい循環が少しずつ出てきています。



櫓の上で賑わう人たち
提供：ハートビートプラン

《意見・感想》

○一番街のストリートテラスで屋外テラス席を設置するときに課題はありましたか。

テラスを店舗側に設置するパターン、道路の真ん中に設置し店舗側を歩行者動線とするパターンなど組み合わせたかったのですが、警察から歩行者動線が蛇行する構成は難しいと指摘され制限があったことです。

○大宮で取り組まれた社会実験の実行委員会に入ると活動が活性化するような人材はいるのでしょうか。

1番は高校生が入ったことです。価値観が全然異なり、高校生視点からの発言は新鮮で、熱意もありますし、共通理解を生むのにとってもよい媒介となってくれます。また、いろんな属性の方に入ってもらい、価値観を多様な世代・属性の方と共有することも大切です。

○地元の方に主体性を持っていただき、関与の度合いを上げ、やる気にさせるためのコツや秘訣などはありますか。

「出店してください」「〇〇をやってください」と言わない、お願いしないことです。あくまで一緒に取り組んでいく仲間として、立場は対等にすることが重要です。ただし、距離感があるような言い方はダメで、難しいことですが相手に合わせた対応をすることが大切です。

○最初誘いを断られた方が、実践していく姿を見て「一緒にやりたい」と後で仲間に加わったことなどあったのでしょうか。

そういう方も結構います。こちらの取り組む姿勢を見せて本気度が伝われば、そういうことはもちろんあります。

○大宮の各所のイベントは1回限りだったのでしょうか。また、イベント時のコンパネやブースの設営などはどうしたのでしょうか。

社会実験は年1回の開催で継続的に実施しました。コンパネは私たちの手作りで、1度作ったものを再利用しています。ブースの設営は出店者の方にやってもらい、ときには維持管理も手伝ってもらうなど、色々な役割を担っていただくことでノウハウを蓄積することもできました。

○イベントの告知や集客をする際にSNSを活用するなど、何か工夫したことはありますか。

アーバンデザインセンターのホームページ、SNS全般で告知することはもちろん、関係者のSNSでハッシュタグを付けて発信してもらうこともしました。その他にも駅前の大型ビジョンを運営している会社と協力し、放映してもらったり、イベントの様子を生中継してもらうこともありました。

おわりに

UDCM 副センター長 松村 暢彦

マハトマ・ガンジーの言葉として

『あなたがすることのほとんどは無意味であるが、それでもしなくてはならない。そうしたことをするのは、世界を変えるためではなく、世界によって自分を変えられないようにするためである。』

が伝わっている。

新型コロナウイルス禍の社会において、それまで自分で大切だと思っていたことを社会の様々なプレッシャーによって最初はしぶしぶ、いつの間にか、たやすく手放してしまってきた。新型コロナウイルスが収束に向かって今、重要なことは、新型コロナウイルス禍において、自分自身が私の大切なことを社会から変えられないように何をしたのか、知らず知らずのうち何に失ってしまったのか、何が変わってしまったのかを振り返ることだと思う。

アーバンデザインセンターとしてはこの報告書で報告しているように「スマートシティ」ではデータ駆動型都市プランニングに基づいたまちづくりの実現に向けてシミュレーションモデルも活用しながら都市内イベント組み合わせたモビリティサービスの実験を行った。「公共空間の利活用」ではここ数年のコロナ禍の状況を見ながら、商店街と協力して花園町通りの活性化を進めるとともにUDSC スクールで公共空間の利活用プログラムの開発に取り組んできた。「まちづくり拠点の運営」では市民等が気軽に入り、交流できる開かれた空間づくりに向けて様々なアプローチで取り組んできた。こうした活動は、コロナ前と比較するとイベントや企画の回数や参加人数は減ったかもしれないが、それでもコロナ禍においてもUDCMとして屋外の公共空間の指針作りや活動を継続してきたことがこれらの活動をいかにUDCMが大切に考えているかをあらわしている。

その一方で、「コロナだからイベント中止で仕方ないよね」と違和感を抱きながら最初の頃は話していたが、いつの間にか企画そのものをやり切るつもりで熟度、関わってくれる人々の熱量を上げきることを忘れてしまっていた自分がある。テントの立て方すら「どうだったけ」とドギマギする自分がある。コロナが収束に向かって様々なイベントが「〇年ぶりに開催！」という宣伝がなされていても、なんだかそこに行くのが億劫になっている自分がある。本を買うにも、コロナ禍で開店時間が不規則にならざる得なかった大学生協に行くよりも、ネットで注文するようになって、それが習慣になりつつある自分がある。

自分の一皮むこうを幸せに、そんな社会を次の世代に残したいと思った18歳の頃の自分の思いを失わないために、もう一度、正気の自分を取り戻し、街に出よう。2022年度のUDCMの報告書を一覧した後に、そんなことを思う。

資料

- ・活動履歴
- ・委員 / 講演 / 視察対応
- ・運営体制

活動履歴

2022年4月

- 11 (月): 松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg#1
- 17 (日): お城下マルシェ花園 (主催: 花園まちづくりプロジェクト協議会) 広報協力
: もぶるラウンジ学生スタッフ企画「せかいにひとつだけのたまご」開催
- 18 (月): UDCM 運営会議 #1
- 20 (水): 横浜市都市整備局主催『都市デザイン 横浜展』視察 (三谷・板東・渡邊)
- 22 (金): 日建ハウジングシステム、三井不動産レジデンシャル視察対応
- 24 (日): まつやま花園日曜日 (主催: 花園みんなで創るプロジェクト 実行委員会) 開催支援
- 29 (金): アーバンデザイン・スマートシティスクール松山 2021 修了式

2022年5月

- 12 (木): 松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg#2
: ひみつジャナイ基地「森盲天外」企画展にて「松山歴史まちあるきトーク余土編」映像上映 (～6/13)
- 15 (日): お城下マルシェ花園 (主催: 花園まちづくりプロジェクト協議会) 広報協力
- 17 (火): UDCM 運営会議 #2
- 19 (木): UDCM 社員総会開催
- 22 (日): まつやま花園日曜日 (主催: 花園みんなで創るプロジェクト 実行委員会) 開催支援
- 28 (土): まつやま花園砥部焼まつり (主催: 砥部焼まつり実行委員会) 開催支援
: 第28回土木学会四国支部技術研究発表会 (三谷共著)
- 29 (日): まつやま花園砥部焼まつり (主催: 砥部焼まつり実行委員会) 開催支援
- 31 (火): スマートシティ防災 mtg#1
: 令和4年度都市景観大賞 (景観まちづくり活動・教育部門) 優秀賞受賞

2022年6月

- 2 (木): NTT アーバンソリューションズ総合研究所視察対応
- 5 (日): 第65回土木計画学研究発表会 (三谷共著)
- 8 (水): 第10回未来へつなぐ道後まちづくり実行委員会開催
- 16 (木): スマートシティ防災 mtg#2
- 19 (日): お城下マルシェ花園 (主催: 花園まちづくりプロジェクト協議会) 広報協力
- 21 (火): UDCM 運営会議 #3
- 22 (水): ひろぎんエリアデザイン視察対応
- 26 (日): まつやま花園日曜日 (主催: 花園みんなで創るプロジェクト 実行委員会) 開催支援

2022年7月

- 4 (月): 第6回新たな都市交通調査体系のあり方に関する検討会 参加 (三谷)
- 5 (火): 愛媛大学防災情報研究センター技術開発講演会 (三谷発表)
- 7 (木): 内閣府地方創生推進事務局視察対応
- 9 (土): まつやま花園土曜夜市 (主催: 花園みんなで創るプロジェクト 実行委員会) 開催支援
- 15 (金): 第21回都市再生協議会 (書面開催)
- 16 (土): もぶるラウンジ学生スタッフ企画「オリジナルちょうちんをつくろう！」開催
- 19 (火): UDCM 運営会議 #4
: 湊町三丁目C街区準備組合 mtg#1
- 21 (木): スマートシティ防災 mtg#3

- 23 (土): まつやま花園土曜夜市 (主催: 花園みんなで創るプロジェクト 実行委員会) 開催支援
- 24 (日): まつやま花園日曜日 (主催: 花園みんなで創るプロジェクト 実行委員会) 開催支援
- 28 (木): スマートシティ防災 (三津防災ワークショップ #3)

2022年8月

- 2 (火): ハートビートプラン視察対応
- 5 (金): 関市基盤整備部視察対応
- 9 (火): 第11回未来へつなぐ道後まちづくり実行委員会開催
- 20 (土): 内閣府地方創生推進事務局視察対応
- 23 (火): UDCM 運営会議 #5
: アーバンデザイン・スマートシティスクール松山 2022 準備会・ガイダンス
- 26 (金): アーバンデザイン研究会 Vol.21「八戸市美術館」/アーバンデザイン・スマートシティスクール 第1回レクチャー
- 28 (日): まつやま花園日曜日 (主催: 花園みんなで創るプロジェクト 実行委員会) 開催支援

2022年9月

- 1 (木): 松山北高等学校視察対応
: アーバンデザイン・スマートシティスクール松山 2022 全体トーク「レクチャー1の感想など」
- 3 (土): アーバンデザイン研究会 Vol.22「地域デザインの実践と理論」/アーバンデザイン・スマートシティスクール 第2回レクチャー
: アーバンデザイン研究会 Vol.23「松山のミュージアムを識る」/アーバンデザイン・スマートシティスクール 第3回レクチャー
- 4 (日): アーバンデザイン・スマートシティスクール松山 2022 全体トーク「グループワーク進捗発表」
- 6 (火): 中央建設コンサルタント視察対応
- 7 (水): 小田原市長視察対応
- 8 (木): アーバンデザイン研究会 Vol.24「スマートシティ」/アーバンデザイン・スマートシティスクール 第4回レクチャー
- 11 (日): アーバンデザイン・スマートシティスクール松山 2022 全体トーク「グループワーク進捗発表」
- 18 (日): もぶるラウンジ学生スタッフ企画「押し花でオリジナルブックマークをつくろう」開催
- 20 (火): 令和4年度第1回都市マネジメント分科会 交通・モビリティ分野 参加 (三谷・渡邊)
: 湊町三丁目C街区準備組合 mtg#2
- 21 (水): UDCM 運営会議 #6
- 22 (木): 令和4年度第1回都市マネジメント分科会 観光・地域活性化分野 参加 (三谷・渡邊)
- 25 (日): まつやま花園日曜日 (主催: 花園みんなで創るプロジェクト 実行委員会) 開催支援
- 27 (火): 内閣府地方創生推進事務局視察対応
- 28 (水): 今治市地域おこし協力隊視察対応
- 29 (木): (公財) 交通エコロジー・モビリティ財団 第10回地域の交通環境対策推進者養成研修会 TA 参加 (三谷・渡邊) (～9/30)
- 30 (金): アーバンデザイン・スマートシティスクール松山 2022 全体トーク「グループ企画内容発表」

2022年10月

- 2 (日): 「松山歴史まちあるきトーク」ライブ開催
- 14 (金): 都市回遊型社会実験『urban design week.』の企画・展示実施 (～10/23)
: 「松山歴史まちあるきトーク」映像放映&パネル展示 (～2023/2/28)

- 16 (日):お城下マルシェ花園 (主催:花園まちづくりプロジェクト協議会) 広報協力
:もぶるラウンジ学生スタッフ企画「押し花でオリジナルブックマークをつくろう」開催
- 19 (水):松山スマートシティプロジェクトのフィールド実証実験 (~10/23)
- 23 (日):まつやま花園日曜日 (主催:花園みんなで創るプロジェクト 実行委員会) 開催支援
:もぶるラウンジ学生スタッフ企画「ハロウィンかぼちゃとかぼちゃのリンリンステッキをつくろう!」開催
- 25 (火):国土交通省国土交通政策研究所視察対応
:広島市都市整備局視察対応
- 30 (日):BAKER'S etc Market vol.1 in 花園町通り (主催:花園みんなで創るプロジェクト実行委員会) 開催支援
- 31 (月):第1回駅まちづくりセミナー開催
- 2022年11月
- 9 (水):UDBCK 視察対応
:松山スマートシティ推進コンソーシアム mtg#3
- 10 (木):復興庁原子力災害復興班視察対応
- 14 (月):第22回都市再生協議会
- 15 (火):UDCM 運営会議 #7
- 16 (水):土幌町議会事務局視察対応
- 20 (日):お城下マルシェ花園 (主催:花園まちづくりプロジェクト協議会) 広報協力
:もぶるラウンジ学生スタッフ企画「手作り万華鏡で自分だけの天体を観察しよう!」開催
- 21 (月):旭川市議会議員視察対応
- 25 (金):第67回水工学講演会 (三谷共著)
- 26 (土):まちづくり活動支援事業 夕焼けベンチ in 宝蔵寺開催
- 27 (日):まつやま花園日曜日 (主催:花園みんなで創るプロジェクト 実行委員会) 開催支援
- 28 (月):令和4年度 四国づくり勉強会 参加 (三谷・渡邊) (~11/29)
- 29 (火):湊町三丁目C街区準備組合 mtg#3
- 2022年12月
- 4 (土):まちづくり活動支援事業 夕焼けベンチ in 宝蔵寺開催
- 18 (日):お城下マルシェ花園 (主催:花園まちづくりプロジェクト協議会) 広報協力
:もぶるラウンジ学生スタッフ企画「クリスマスのおくりもの〜とびだすカードとオーナメントをつくろう〜」開催
- 19 (火):スマートシティ官民連携プラットフォーム 令和4年度第3回 オンラインセミナー (三谷発表)
:湊町三丁目C街区準備組合 mtg#4
- 20 (水):UDCM 運営会議 #8
- 22 (木):岐阜市都市建設部都市計画課視察対応
- 23 (金):アーバンデザイン・スマートシティスクール松山 2022 ふりかえりの会および修了式
- 25 (日):まつやま花園日曜日 (主催:花園みんなで創るプロジェクト 実行委員会) 開催支援
- 2023年1月
- 11 (水):墨田区企画経営室視察対応
- 15 (日):お城下マルシェ花園 (主催:花園まちづくりプロジェクト協議会) 広報協力
- 17 (火):UDCM 運営会議 #9
- 20 (金):第12回未来へつなぐ道後まちづくり実行委員会開催
- 22 (日):まつやま花園日曜日 (主催:花園みんなで創るプロジェクト 実行委員会) 開催支援
- 23 (月):第2回駅まちづくりセミナー開催
- 24 (火):日建設計総合研究所視察対応
- 29 (日):UR 都市機構視察対応
:「松山歴史まちあるき久米編」撮影
- 31 (火):第22回愛媛大学 DS 研究セミナー (三谷発表)
- 2023年2月
- 7 (火):長崎駅周辺整備事業連続シンポジウム 参加 (三谷・渡邊)
- 8 (水):曲田様他視察対応
:第7回新たな都市交通調査体系のあり方に関する検討会 参加 (三谷)
- 9 (木):熊本大学視察対応
- 13 (月):香川大学視察対応
- 15 (水):令和4年度第2回都市マネジメント分科会 データを活用したまちづくりに関する事例発表 (三谷発表)
- 17 (金):竹中工務店視察対応
- 20 (月):UDCM 運営会議 #10
- 24 (金):第3回駅まちづくりセミナー開催
- 26 (日):まつやま花園日曜日 (主催:花園みんなで創るプロジェクト 実行委員会) 開催支援
:もぶるラウンジ学生スタッフ企画「紙とんぼを作って飛ばそう!」開催
:しらんことだらけ博物館展覧会「あなたのしらん世界展」(主催:まつやまブンカ・ラボ) (~3/26 (日))
- 28 (火):伊予鉄バス乗降計測調査 (~3/31) (主催:松山スマートシティ推進コンソーシアム)
:徳島大学視察対応
- 2023年3月
- 1 (水):SMARTCITY × TOKYO 2023 SPRING CONFERENCE ライトニングトーク (三谷発表)
- 6 (月):「松山歴史まちあるき久米編」撮影
- 8 (水):熊本市市街地整備課視察対応
- 9 (木):前橋市市街地整備課視察対応
- 14 (火):浜通り地域デザインセンターなみえ 視察 (三谷・渡邊)
:UR 都市機構大熊町内、双葉町内、浪江町内 視察 (三谷・渡邊)
- 15 (水):南三陸 311 メモリアル、高田松原津波復興祈念公園 視察 (三谷・渡邊)
- 17 (金):第8回新たな都市交通調査体系のあり方に関する検討会 参加 (三谷)
:香川大学視察対応
- 19 (日):カメラによる花園町通り歩行者交通量調査
:お城下マルシェ花園 (主催:花園まちづくりプロジェクト協議会) 広報協力
- 20 (月):墨田区立体化推進課視察対応
- 22 (水):UDCM 運営会議 #11
- 26 (日):まつやま花園日曜日 (主催:花園みんなで創るプロジェクト 実行委員会) 開催支援
:もぶるラウンジ学生スタッフ企画「タオルアートをつくろう」開催
- 28 (火):第23回都市再生協議会
:第1回松山都市圏総合都市交通計画協議会 参加 (三谷)
- 30 (木):東洋大学視察対応

委員 / 講演 / 視察対応

〈委員〉

- 未来へつなぐ道後まちづくり実行委員会（委員）：渡邊
- 河原デザイン・アート専門学校教育課程編成委員会（委員）：板東
- 河原デザイン・アート専門学校教育課程編成委員会（委員）：板東
- 愛媛県エールラボえひめプロジェクト認定審査部会（委員）：板東
- スマートシティ官民連携プラットフォーム都市マネジメント分科会（提案者）：三谷，渡邊

〈講演〉

- 愛媛大学防災情報研究センター技術開発講演会@愛媛大学南加記念ホール
「松山アーバンデザインセンターの取り組みについて ～2018年度グッドデザイン賞受賞～」：三谷
- スマートシティ官民連携プラットフォーム 令和4年度第3回オンラインセミナー@オンライン
「松山都市圏を対象としたデータ駆動型都市プランニングによるスマートシティの実現」：三谷
- 第22回愛媛大学DS研究セミナー@オンライン
「データ駆動型都市プランニングによるスマートシティの実現」：三谷
- 令和4年度第2回都市マネジメント分科会@オンライン
「データを活用したまちづくりに関する事例発表」：三谷

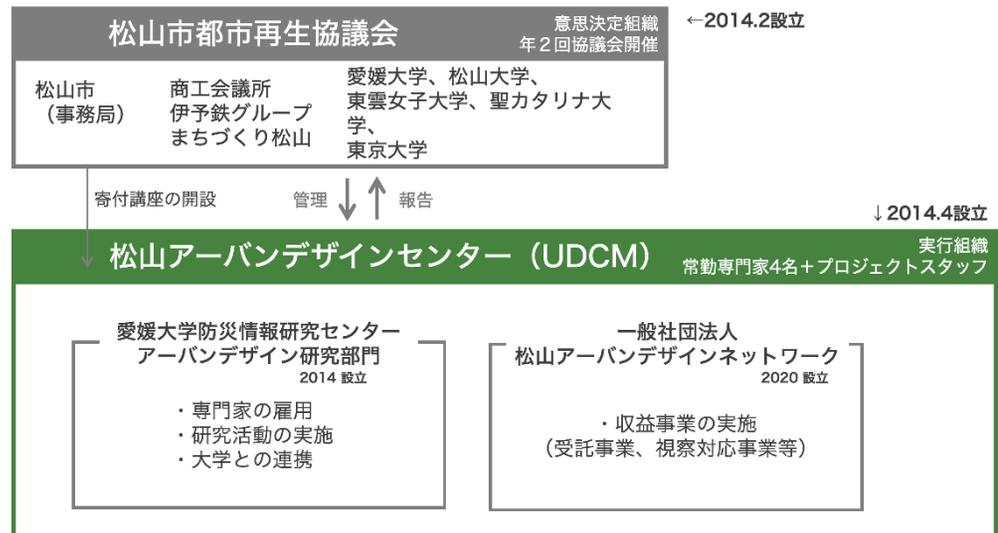
〈視察対応〉

① UDNM 視察対応事業

- | | |
|--|----------------------------------|
| ● 日建ハウジングシステム
・三井不動産レジデンシャル_6名、2022.4.22（金） | ● 岐阜市都市建設部都市計画課_4名、2022.12.22（木） |
| ● NTTアーバンソリューションズ総合研究所
_4名、2022.6.2（木） | ● UDC すみだ_10名、2023.1.11（水） |
| ● ひろぎんエリアデザイン_3名、2022.6.22（水） | ● UR都市機構_4名、2023.1.29（日） |
| ● 上浮穴高等学校_10名、2022.7.28（木） | ● 曲田先生_5名、2023.2.8（水） |
| ● 大阪公立大学_2名、2022.8.1（月） | ● 熊本大学_2名、2023.2.9（木） |
| ● ハートビートプラン_2名、2022.8.2（火） | ● 香川大学_1名、2023.2.13（月） |
| ● 関市基盤整備課_3名、2022.8.5（金） | ● 竹中工務店まちづくり戦略室_2名、2023.2.17（金） |
| ● 内閣府地方創生推進事務局_6名、2022.8.20（土） | ● 徳島大学_1名、2023.2.28（火） |
| ● 松山北高等学校_4名、2022.9.1（木） | ● 熊本市市街地整備課_2名、2023.3.8（水） |
| ● 小田原市_3名、2022.9.7（水） | ● 前橋市市街地整備課_3名、2023.3.9（木） |
| ● 中央建設コンサルタント、琉球大学
_2名、2022.9.6（火） | ● 香川大学_3名、2023.3.17（金） |
| ● 今治市地域おこし協力隊_4名、2022.9.18（水） | ● 墨田区立体化推進課_2名、2023.3.20（月） |
| ● 内閣府地方創生推進事務局_3名、2022.9.27（火） | ● 東洋大学_1名、2023.3.30（木） |
| ● 国土交通省国土交通政策研究所_5名、2022.10.25（火） | |
| ● 広島市都市整備局_3名、2022.10.25（火） | ②スマートシティほか |
| ● UDBCK_1名、2022.11.9（水） | ● 内閣府地方創生推進事務局_3名、2022.7.7（木） |
| ● 復興庁原子力災害復興班_3名、2022.11.10（木） | ● 日建設計総合研究所_6名、2023.1.24（火） |
| ● 土幌町議会事務局_7名、2022.11.16（水） | |
| ● 旭川市議会議員_1名、2022.11.21（月） | |

運営体制

〈組織構成〉



〈スタッフ〉

センター長	羽藤 英二 (東京大学)	(※は常勤スタッフ)
副センター長	松村 暢彦 (愛媛大学) 羽鳥 剛史 (愛媛大学)	
ディレクター	三谷 卓摩 (愛媛大学) ※ 板東 ゆかり (愛媛大学) ※ 竹内 仁美 (愛媛大学) ※ 渡邊 浩司 (愛媛大学) ※	
アシスタントディレクター 事務スタッフ	日野 順子 (愛媛大学) 大野 利恵 (愛媛大学) 竹内 加寿美 (愛媛大学)	
プロジェクトディレクター	片岡 由香 (愛媛大学) 四戸 秀和 (愛媛大学) 松本 啓治 (坂の上の雲ミュージアム) 石飛 直彦 (復建調査設計) 福山 祥代 (日産自動車) 伊藤 香織 (東京理科大学) 大山 雄己 (芝浦工業大学) 力村 真由 (多摩美術大学) 芝原 貴史 (東京大学) 古谷 純 (日立製作所) 吉田 純土 (国土交通省中国地方整備局) 岡田 栄司 (いよぎん地域経済研究センター) 園部 修也 (愛媛銀行ひめぎん情報センター) 小野 悠 (豊橋技術科学大学) 浅子 佳英 (PRINT & BUILD) 曲田 清維 (愛媛大学) 河内 俊樹 (松山大学)	
アドバイザー プロジェクトアドバイザー	高峯 聡一郎 (国土交通省都市局) 千代田 憲子 (愛媛大学) 泉谷 昇 (NPO 法人いよココロザン大学)	
プロジェクトサポート学生スタッフ	中出 舞 石上 紗己 川中 榛名 安倍 ひより 濱田 優唯 米山 明日香 山本 彩名 谷 歩実 松尾 悠馬 高橋 ひより 的場 風香 西澤 岳冬 山路 大智 渡辺 幸大 内田 智尋	

